公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 26 年度 第 8 回理事会

開催日時　　平成 27 年 2 月 19 日（木）
9 時 30 分から 13 時 00 分

開催場所　　東京大学理学部 1 号館 7 階 710 号室
（東京都文京区本郷 7－3－1）

平成 26 年度第 8 回理事会議事次第

1. 開　　会

議事内容

2. 報 告 事 項
  1. 委員会・セクション活動報告
    1. 総務委員会報告（成瀬理事）
    2. ジャーナル編集委員会報告（川幡副会長）
    3. 大会運営委員会報告（浜野理事　鈴木プログラム委員長）
    4. 男女共同参画委員会報告(原田理事)
    5. グローバル戦略委員会報告（木村副会長）
    6. 顕彰委員会報告（中村理事　成瀬理事）
    7. 固体地球科学セクション報告（大谷プレジデント）
  2. 日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議ヒアリングへの参加報告（木村副会長）
  3. 西田会員との覚書について（津田会長）
  4. その他

3. 審 議 事 項
  第 1 号議案　会員（正会員）入会承認の件（成瀬理事）
  第 2 号議案　委員会委員承認の件　（成瀬理事）
  第 3 号議案　国内・外国出張旅費規則改正について（成瀬理事）
  第 4 号議案　国内・外国出張旅費規則に関する内規の設置について（成瀬理事）
  第 5 号議案　日本学術会議・東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会入会の件（高橋理事）
  第 6 号議案　平成 26 年度事業報告書・決算報告書について（成瀬理事、北理事）
  第 7 号議案　平成 27 年度事業計画書・予算書について（成瀬理事、北理事）
  第 8 号議案　第 10 回国際地学オリンピックへの支援について（瀧上理事）
  第 9 号議案　国際学会への展示出展について（川幡副会長）
  第 10 号議案　大会における AGU 会員の取り扱いについて（再審議）（浜野理事）
  第 11 号議案　事務局の体制について（津田会長）
  第 12 号議案　その他

4. 閉　　会

（資　　料）

報告事項

1.	委員会・セクション活動報告	
	1. 総務委員会報告	
	共催・協賛・後援等一覧（12 月以降分）	P. 1
	2. ジャーナル編集委員会報告（川幡副会長）	P. 2-4
	3. 大会運営委員会報告（浜野理事　鈴木プログラム委員長）	P. 5-12
	4. 男女共同参画委員会報告(原田理事)	P. 13
	5. グローバル戦略委員会報告（木村副会長）	P. 14-19
	6. 顕彰委員会報告（中村理事　成瀬理事）	P. 20-23
	7. 固体地球科学セクション報告（大谷プレジデント）	P. 24
2.	日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議ヒアリングへの参加報告（木村副会長）	P. 25
3.	西田会員との覚書について（津田会長）	P. 26
4.	その他	

審議事項

1.	第 1 号議案　会員（正会員）入会承認の件（成瀬理事）	
	平成 26 年 12 月～ 平成 27 年 2 月度　入会会員	P. 27-28
	平成 26 年度会員数推移	P. 29
2.	第 2 号議案　委員会委員承認の件　（成瀬理事）	P. 30
3.	第 3 号議案　国内・外国出張旅費規則改正について（成瀬理事）	P. 31-34
4.	第 4 号議案　国内・外国出張旅費規則に関する内規の設置について（成瀬理事）	P. 35-36
5.	第 5 号議案　日本学術会議・東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会入会の件（高橋理事）	P. 37-39
6.	第 6 号議案　平成 26 年度事業報告書・決算報告書について（成瀬理事、北理事）	別添
7.	第 7 号議案　平成 27 年度事業計画書・予算書について（成瀬理事、北理事）	別添
8.	第 8 号議案　第 10 回国際地学オリンピックへの支援について（瀧上理事）	別添
9.	第 9 号議案　国際学会への展示出展について（川幡副会長）	P. 40-47
10.	第 10 号議案　大会における AGU 会員の取り扱いについて（再審議）（浜野理事）	P. 48
11.	第 11 号議案　事務局の体制について（津田会長）	
12.	第 12 号議案　その他	

その他の資料

	平成 26 年度第 7 回理事会議事録・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 49
	規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	別添

平成26年度　共催・協賛・後援等一覧

12月以降分

承認日	種別	会合名等	開催期間	会場
12月8日	協賛	2015年ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム（HPCS2015）	2015年5月19日（火）～20日（水）	東京大学武田先端知ビル5F　武田ホール
12月8日	協賛	未来を拓く高圧力科学技術セミナー40	2015年2月10日（火）	東京大学山上会館
12月9日	協賛 大気水圏科学セクション	オープンフォーラム「水関連研究成果の日本からの発信に向けて」	2015年　3月　7日（土）	筑波大学東京キャンパス　116講義室
12月15日	協賛（費用人的援助あり）	新学術領域研究「福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態に関する学際的研究」国際シンポジウム	2015年1月9日（金）～10日（土）	筑波大学総合研究棟A棟
12月17日	協賛	第3回物構研サイエンスフェスタ	2015年3月17日（火）～18日（水）	つくば国際会議場
2月10日	後援	The 3rd AOSWA Workshop 2015	2015年3月2～5日	The Luigans Spa & Resort

H27/2/19 理事会資料（PEPS 関連）

1. 12/18　出版論文数が年内目標の２５論文（Editorial 除く）に到達

2. 2/15-19　AGU　Fall　Meeting にて JpGU と共同ブースを出展し PEPS を PR

3.2015 年度「ジャーナル関連特別シンポジウム」第一回募集結果
（１月１５日締切、問合せ１件、応募なし）今期中に再度募集を検討。

4.1/22　H26 年度第 6 回編集長会議開催

・投稿状況・出版実績をまとめて、連合大会などで配布できるパンフレットを準備する

・固体地球分野の編集長、地震研　小原先生が交代。後任として地震学会より神戸大吉岡先生の推薦があった。第２期編集委員は継続を依頼。不足している分野を確認して補充を検討する。編集員を増やす際は、外国人とのバランスを考慮する。

・EPS との共同出版については次回の会議に EPS 小田先生の参加を得て、方向性を議論する。

・トムソン・ロイターWOS への採録申請は、基本的に Springer 担当者の判断に従う。申請までに被引用数を上げる施策を検討する。

5.論文投稿・出版状況（詳細は別表参照）

・出版論文数

2014 年 29（editorial-3,Correction-1,Research-18,Review-7）

2015 年 1（Review-1）

・査読中　27

・出版校正中 5

・reject/withdrawn 済 17 件

Progress in Earth and Planetary Science 出版・投稿状況 （2015/2/16 現在）

■出版状況

	Review	Resarch	Methodology	Total	
1. Space and planetary sciences	3	1	0	4	15.4%
	11.5%	3.8%	0.0%		
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	2	5	0	7	26.9%
	7.7%	19.2%	0.0%		
3. Human geosciences	0	2	0	2	7.7%
	0.0%	7.7%	0.0%		
4. Solid earth sciences	2	9	0	11	42.3%
	7.7%	34.6%	0.0%		
5. Biogeosciences	1	0	0	1	3.8%
	3.8%	0.0%	0.0%		
6. Interdisciplinary research	0	1	0	1	3.8%
	0.0%	3.8%	0.0%		
Subtotal	**8**	**18**	**0**	**26**	100%
	30.8%	**69.2%**	**0.0%**		
Editorial	–	–	–	3	–
Correction	–	–	–	1	–
Total				**30**	

■投稿状況

	Review	Resarch	Methodology	Total	
1. Space and planetary sciences	8	10	0	18	24.0%
	10.7%	13.3%	0.0%		
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	5	7	0	12	16.0%
	6.7%	9.3%	0.0%		
3. Human geosciences	1	5	0	6	8.0%
	1.3%	6.7%	0.0%		
4. Solid earth sciences	4	21	2	27	36.0%
	5.3%	28.0%	0.0%		
5. Biogeosciences	2	3	0	5	6.7%
	2.7%	4.0%	0.0%		
6. Interdisciplinary research	2	5	0	7	9.3%
	2.7%	6.7%	0.0%		
Subtotal	**22**	**51**	**2**	**75**	100%
	29.3%	**68.0%**	**2.7%**		
Editorial	–	–	–	3	–
Correction	–	–	–	1	–
Total				**79**	

■編集状況

	Review	Resarch	Methodology	Editorial + Correction	Total	
Published	8	18	0	4	30	38.0%
	10.1%	22.8%	0.0%	5.1%		
Accepted	3	2	0	0	5	6.3%
	3.8%	2.5%	0.0%	0.0%		
Under review	7	19	1	0	27	34.2%
	8.9%	24.1%	1.3%	0.0%		
Rejected/Withdrawn	4	12	1	0	17	21.5%
	5.1%	15.2%	1.3%	0.0%		
Total	**22**	**51**	**2**	**4**	**79**	100.0%
	27.8%	64.6%	2.5%	5.1%		

JpGU2015特別国際セッション提案採決結果【8件中5件採択　16名招待　採択額508万円】

	提案者	セッション分野/タイトル	招待講演者
1	Bjorn Mysen（Carnegie Institution of Washington), 大谷栄治（東北大学), Dapeng Zhao（東北大学）	【固体地球科学】 Mixed volatiles in subduction zones; Physical and chemical properties and processes	Prof. Peter Van Keken (University of Michigan, USA)
			prof. Stefano Poli (University of Milano, Italy)
2	Hafiz Ur Rehman(鹿児島大学), Tatsuki Tsujimori(辻森　樹 岡山大学); Patrick J. O'Brien; David Mainprice	【固体地球科学】 Macro- to macro-scale deformation: petrologic, mineralogic, geophysical and geochemical checkpoints	Prof. Patrick J. O'Brien（Potsdam University, Germany）
			Prof. David Mainprice(Geosciences, Montpellier, France)
3	新堀淳樹（京都大学生存圏研究所） Liu Huixin（九州大学宙空環境研究センター） 大塚雄一（名古屋大学太陽地球環境研究所）	【宇宙惑星科学】 Mesosphere–Thermosphere–Ionosphere Coupling in the Earth's Atmosphere （地球大気の中間圏・熱圏・電離圏結合）	Dennis Riggin, University of Adelaide（Aust）
			Larisa Goncharenko, MIT Haystack Observatory(USA)
			David Ortland, NorthWest Research Associates(USA)
			A. K. Patra,National Atmospheric Research Laboratory(India)
4	坂巻 竜也（東北大学), 鈴木 昭夫（東北大学), 鎌田 誠司（東北大学), Bjorn Mysen（Carnegie Institution of Washington）	【固体地球科学】 Early Earth – from accumulation to formation – 初期地球 – 集積から形成まで –	RUBIE, David BGI, Univ. Bayreuth,Geramany
			Peter ULMER (ETH, Zurich),
			Shun KARATO (Yale, USA),
			Guillaume FIQUET (Impmc, France),
			Jennifer JACKSON (CalTech, USA),
			Catherine McCAMMON (Univ. Bayreuth, Germany)
5	Jonny Wu(National Taiwan University), 沖野郷子（東京大学)、 木村学（東京大学)、 Cedric Legendre（Academia Sinica, Taiwan）	【固体地球科学】 New constraints on the tectonic evolution of Northeast Asia	LALLEMAND Serge （Geosciences Montpellier Laboratory ,Montpellier 2 University, France）
			~~Peter Clift(Louisiana State University, USA)~~
			Cedric Legendre（Academia Sinica, Taiwan）

2015年連合大会日程案（プログラム関連）

2014/6

カレンダー		内容
9月	1日(月)	2014年連合大会HP立ち上げ
	1日(月)	セッション提案サイト公開
10月	10日(金)	メールニュース10月号（セッション提案募集中）
	23日(木)	セッション提案最終締切
11月		セッション採択検討（プログラム委員会）
	↓	コンビーナとの調整
	上旬	プログラム編成会議　※2014は11/11
	編成会議より1週間程度	セッション採択最終結果取りまとめ報告（プログラム委員会へ）
		セッションID確定
12月	1日(月)	セッション確定
	3日(水)	セッション修正・詳細入力サイト立ち上げ
	15日(月)	セッション修正・詳細入力締切
	19日(金)	2012年大会開催全セッションweb公開
1月	8日(木)	投稿・参加登録開始
2月	3日(火)	投稿早期締切　24:00
	10日(火)	メールニュース2月号（最終投稿のお知らせ）
	18日(木)	投稿最終締切　12:00
3月	11日(水)	コマ割確定
	12日(木)	コマ割結果WEB公開
	12日(木)	プログラム編集（コンビーナ処理）
	19日(木)	コンビーナ入力締切
	24日(火)	★プログラム編成終了
	25日(水)	著者/共著者・発表者・座長へ通知(日程通知)
	30日(月)	プログラムWEB公開（PDF無）
5月	5月12日(火)	早期参加登録　登録締切　　17:00
	5月14日(木)	プログラムWEB公開（PDF有）

5月24日-28日（※予備日29日）（日～木）　日本地球惑星科学連合2015年大会

2015 年連合大会　中学生アウトリーチ企画概要

1. 名　　称：　日本地球惑星科学連合 2015 年大会　中学生アウトリーチ企画

2. 主　　催：　公益社団法人日本地球惑星科学連合

3. 後　　援：　千葉市・千葉県教育委員会・千葉市教育委員会

4. 協　　力：　宇宙航空研究開発機構
National Aeronautics and Space Administration

5. 開催日程：　2015 年 5 月 24 日（日）13：00-16：00

6. 開催会場：　幕張メッセ　国際会議場
〒261-0023　千葉県千葉市美浜区中瀬２－１

7. 目　　的：　NASA-JAXA の宇宙ミッションの講演、科学実験を通じ
中学生に広く地球科学に興味をもってもらう

8. 概　　要：

8-1. 開催規模　　参加予定者数　　千葉県・千葉市の中学生 100 人程度

8-2. 内容　　20 人ごと 5 グループで、5 種類のアクティビティーを体験する

1. Hyperwall Presentation 及び日本地球惑星科学連合
2. ミウラ折り実験
教育検討委員会, JAXA, NASA が行う科学実験
3. JAXA による活動（検討中）
4. NASA による活動（検討中）
5. NASA による活動（検討中）

8-3. タイムスケジュール：

13:00-13:30 / 13:30-14:00 / 14:00-14:30 / 14:30-15:00 / 15:00-15:30

連合大会　会場予定

◆2015 年

会期：2015 年 24 日（日）～28 日（木）

会場：メッセ 18 部屋、APA ホテル 5 部屋　（計 23 部屋）

コンベンションホール：ポスター会場（例年通り）

◆2016 年

会期：2016 年 5 月 22 日（日）～27 日（金）

会場：メッセ 17 部屋＋コンベンションホール分割 4 部屋＋展示ホール 2 部屋

（計 23 部屋）

展示ホール：半分使用（ポスター会場、展示、休憩所）

本部は 203（そのため，講演会場は 18→17 に）

◆2017 年

会期：2017 年 5 月 21 日（日）～26 日（金）

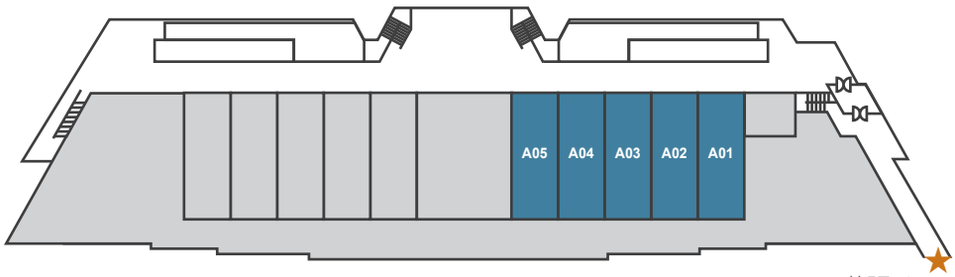
会場：メッセ 17 部屋＋コンベンションホール分割 4 部屋＋展示ホール 2 部屋

（計 23 部屋）

展示ホール：全面使用（ポスター会場、展示、休憩所）

本部は 203

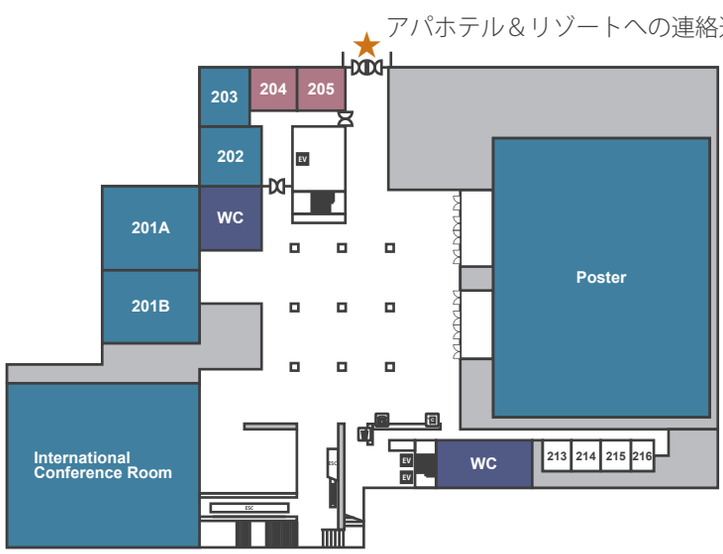
アパホテル＆リゾート　東京ベイ幕張



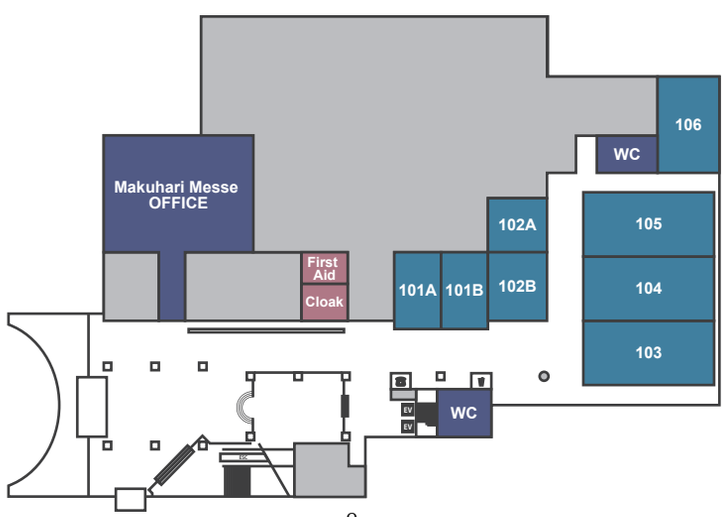
幕張メッセ国際会議場

3F

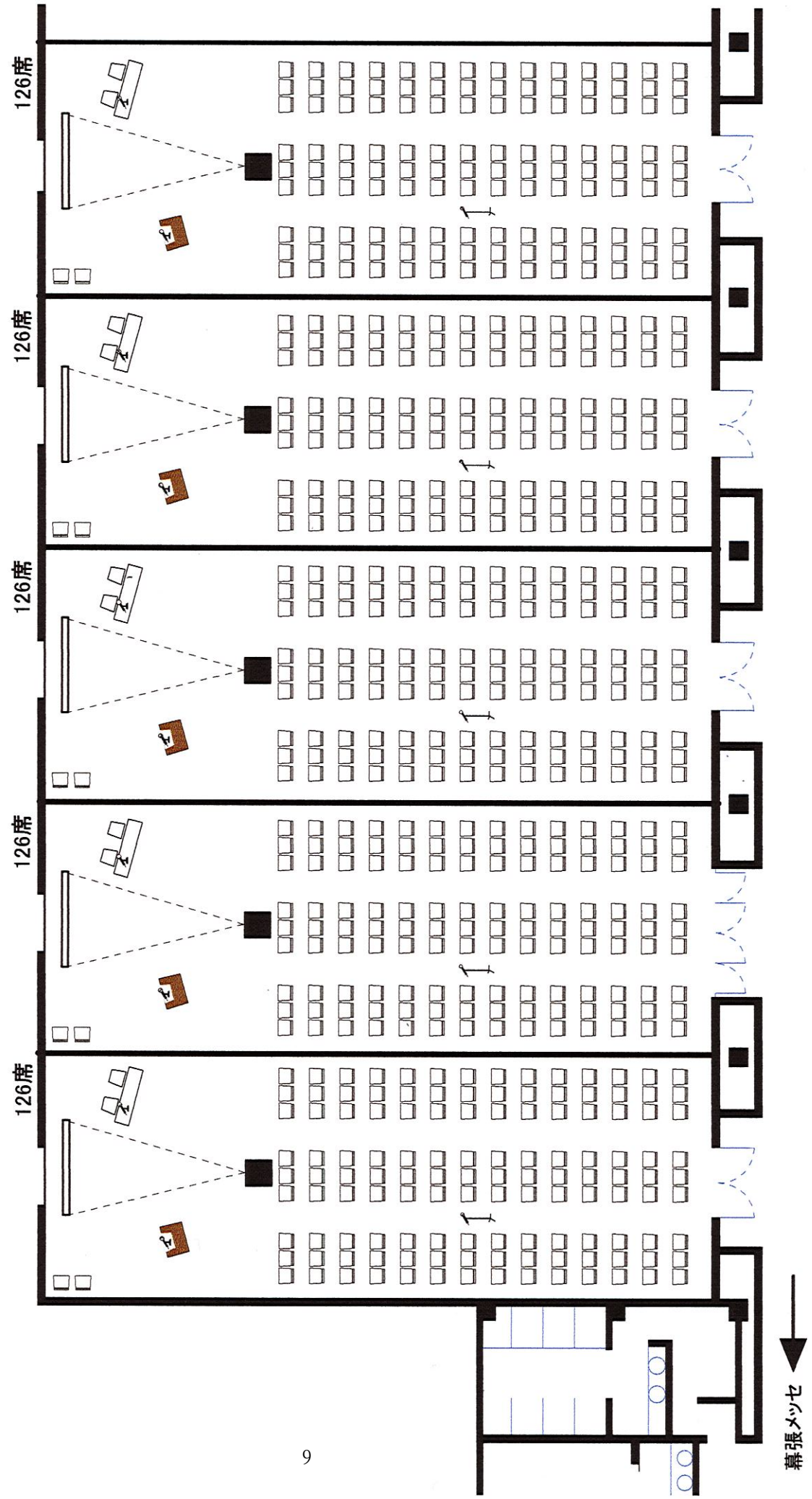
2F



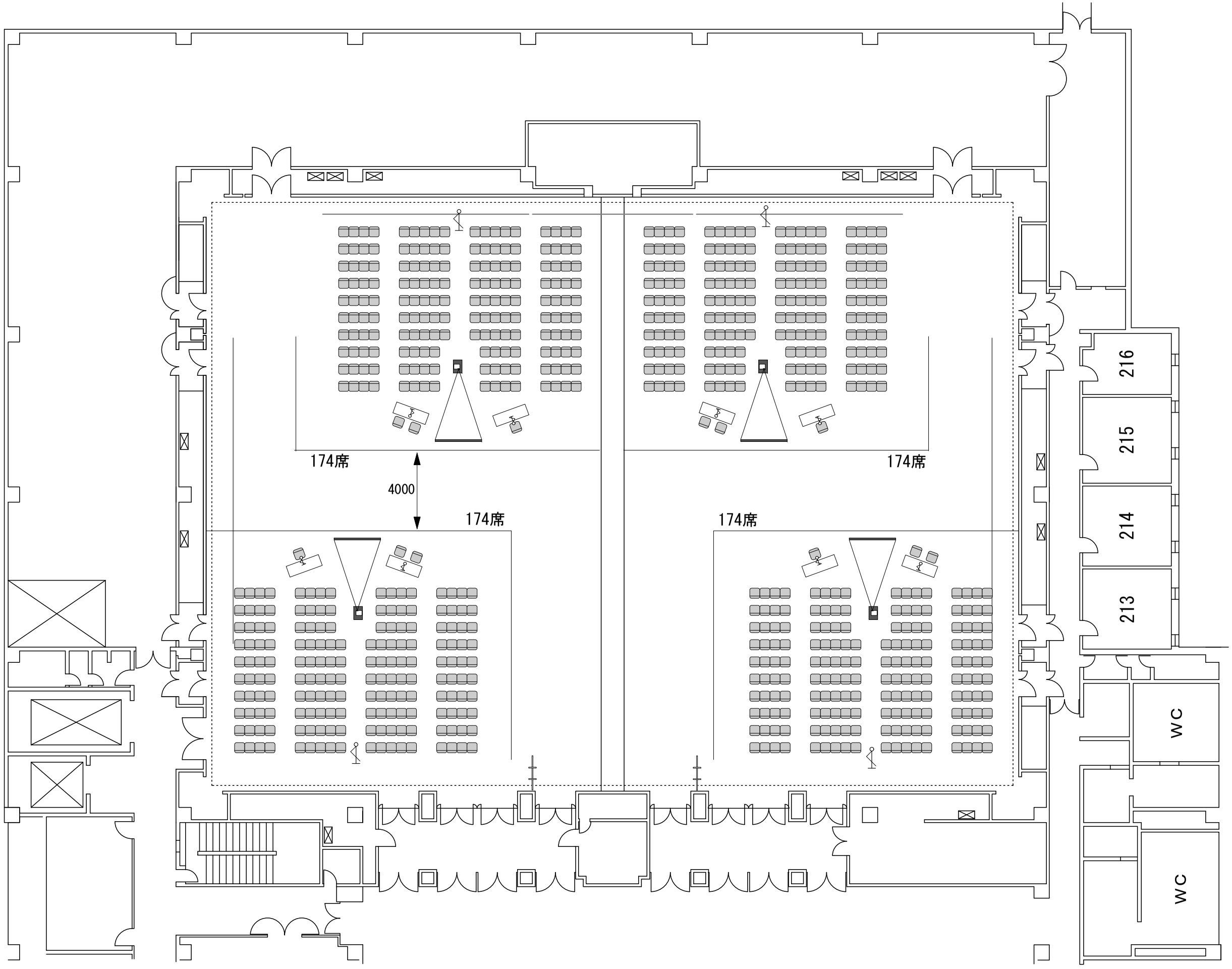
1F



東京ベイ幕張ホール

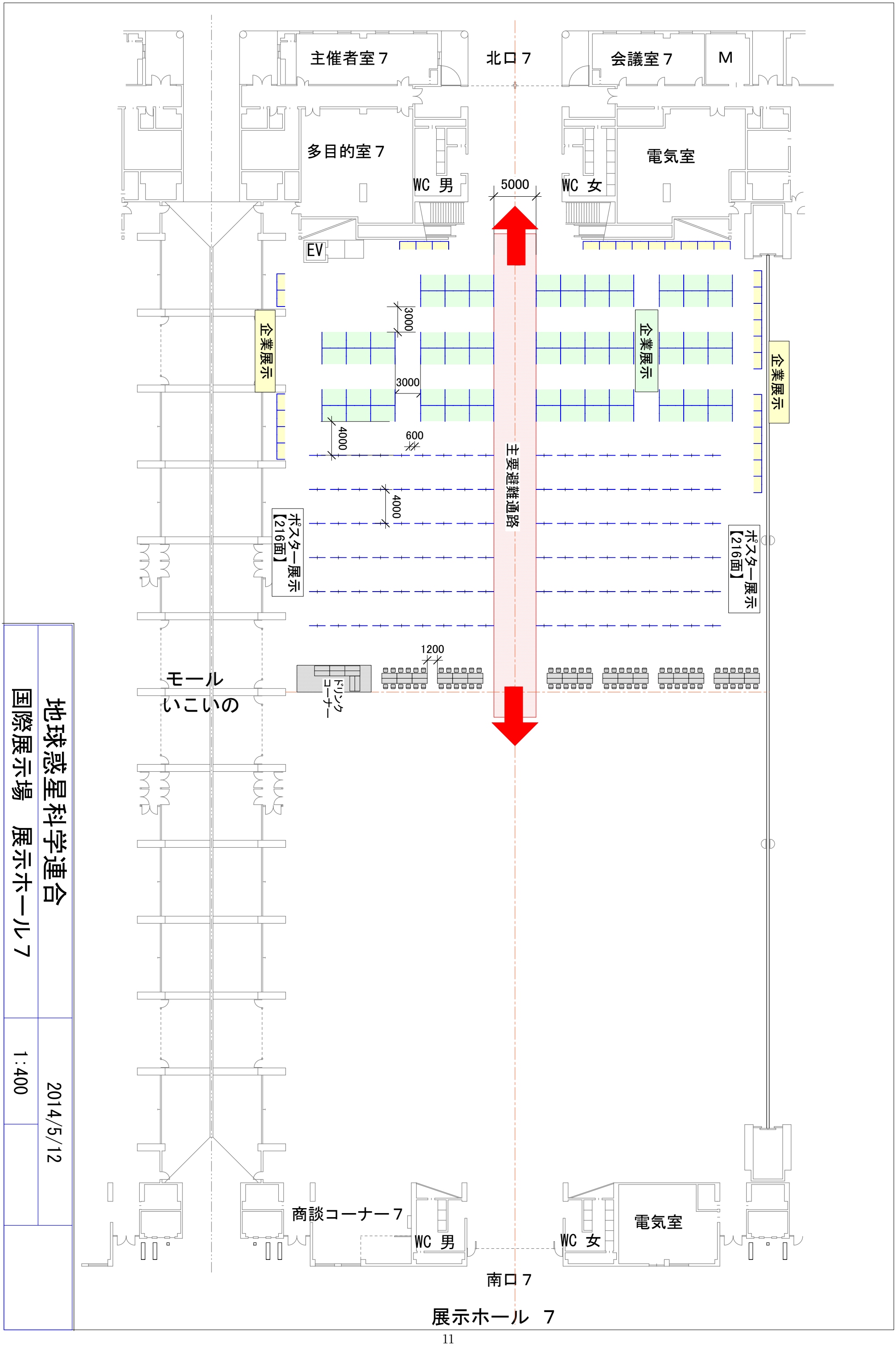


コンベンションホール



2016年大会コンベンションホール使用案

縮尺　１：２００

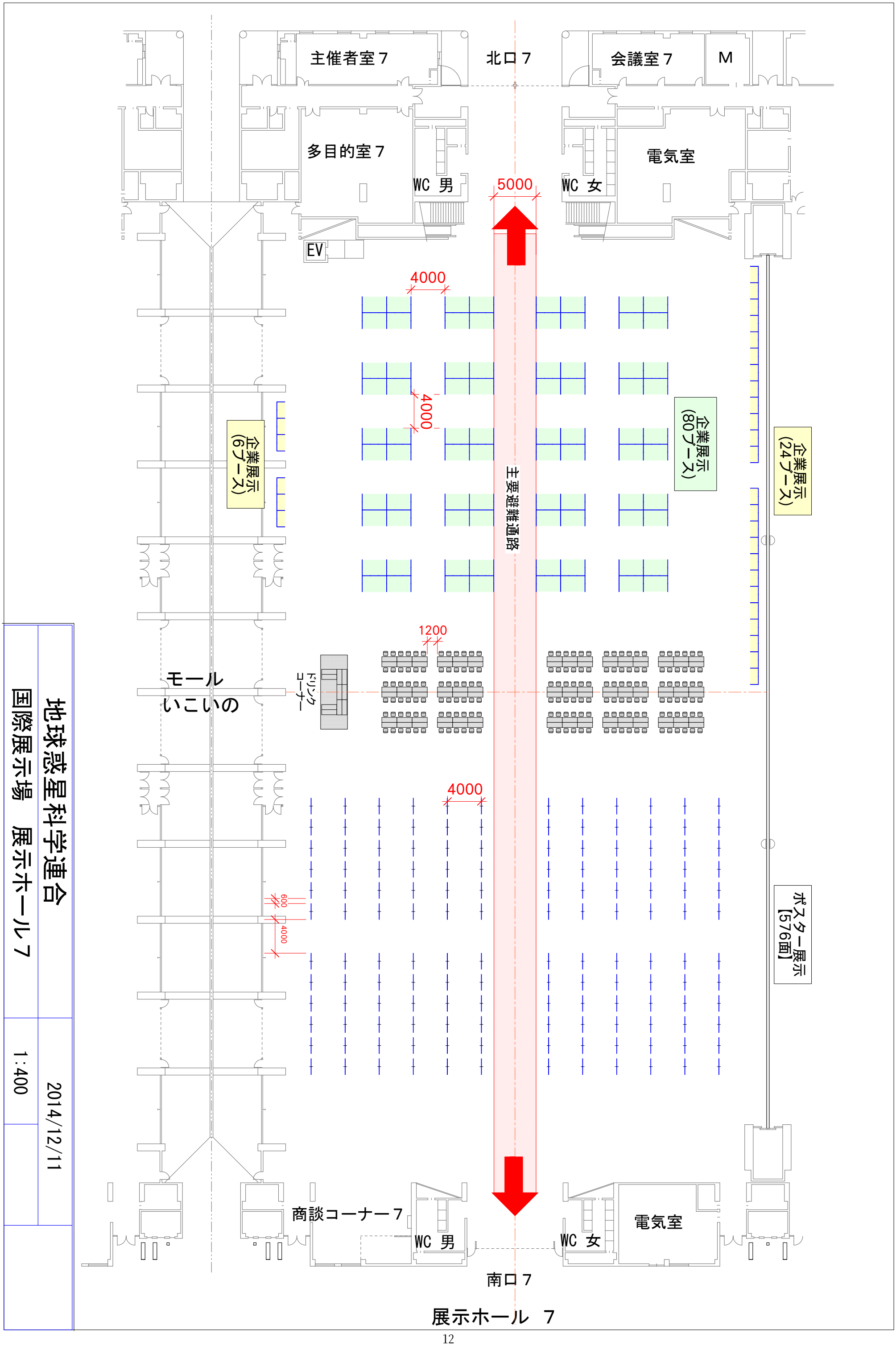


地球惑星科学連合
国際展示場　展示ホール７

1:400

2014/5/12

展示ホール　７



地球惑星科学連合
国際展示場　展示ホール７

1:400

2014/12/11

男女共同参画委員会からの報告

「男女共同参画学協会連絡会」（略称：連絡会）関連

1)第 12 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム （2014 年 10 月東大開催）の報告書が HP に掲載された。

http://www.djrenrakukai.org/doc_pdf/2014/12th_sympo_report.pdf

2) 2014 年 11 月より新体制発足（＝第 13 期事務局）
幹事学会は、日本植物生理学会と日本植物学会

3) 第 13 期第 1 回運営委員会開催（2015/1/14）出席者：原田尚美、小口千明
連絡会内での WG について、JpGU はこれまで「女性リーダー・若手育成 WG」の副担当であったが「若手育成 WG」に名称変更のうえ主担当の学会となった。次回の男女共同参画学協会連絡会運営委員会(4/27 予定)までに、およその活動方針を提示し、協力学会を募る予定。

Global Strategy Com Meeting #5
Date: 2015 Jan. 20, Tuesday 10:00-12:20
Room: Gakkai Center Building, Meeting Room, 2-4-16 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo

Attendee:
Global Strategy Committee members: Gaku Kimura, (Chair), Toshiyuki Hibiya, Teruyuki Kato, Kensei Kobayashi, Hisashi Nakamura, Eiji Ohtani, Sho Sasaki (Skype), Kanako Seki (Skype), Kiyoshi Suyehiro, Fumiko Tajima (Skype), Yukihiro Takahashi, Simon Wallis, Masaki Fujimoto
President: Toshitaka Tsuda
Vice president: Hodaka Kawahata
Secretariat: Mihoko Tanigami, Kayoko Shirai

Meeting summary: ACTION ITEMS
会議概要：アクションアイテム

1. Request the board to welcome and approve Fumiko Tajima (UC Irvine) as a member of the global strategy committee (Kimura)
1. 木村理事より理事会に田島文子氏（カリフォルニア大アーヴァイン校）をグローバル戦略委員に迎えることの承認を求める。
2. Budgetary aim for the JpGU booth at 2015 AGU meeting should be around 4MJPY including contribution from PEPS.
2. 2015 年 AGU 大会のブース予算は 400 万円代とする（PEPS 貢献分を含む）。
3. With the agreement reached at the meeting between AGU and JpGU on 12/15 at San Francisco, JpGU and AGU will coordinate in formalizing and implementing the planned events (Suyehiro with AGU).
3. 12/15 の AGU 大会中の JpGU-AGU 会議における合意に基づき、2 者間での調整を進める（末広）。
4. Distribute the most up-to-date Joint Communiqué draft to committee members and then send to AGU/AOGS/EGU contacts (Suyehiro/Shirai). DONE.
4. 共同声明案の最新版を委員会メンバーに送り、AGU/AOGS/EGU にも送付する（末広／白井）済。
5. Discuss and coordinate with the Publicity and Outreach Committee to attract audience for the 25-th anniversary symposium and to video-archive the event (Takahashi).
5. 広報委員会と協議して25周年シンポジウムへの多数参加を募り、ビデオ広報アーカイブの方策を探る（高橋）。
6. Consider contacting policy makers (e.g. MEXT, NSF-Tokyo) to attend international meetings in 2015-2017 (Suyehiro/Tajima).
6. 一連の国際セッションに政策担当者（例えば、文科省、NSF 東京など）の招待を検討する（末広／田島）。
7. Discussion on the roadmap will be on the agenda at the next meeting (Kimura).
7. 次回委員会でロードマップの議論を続けることを議題に載せる（木村）。

Minutes of the Meeting

Kimura opened the meeting at 10:00.

Item 0: Approval of Minutes
No comments were raised to the distributed minutes of the previous meeting.

Kimura introduced Fumiko Tajima to be a member of the committee (to be endorsed by the Board on February 19th).

Item 1: AGU Fall Meeting 2014 report and next exhibition plan (AGU Fall Meeting 2014 報告及び AGU Fall Meeting 2015 への出展について)
Kimura and Secretariat reported on the exhibit at AGU Fall Meeting 2014 and business meetings with AGU staff along the distributed report. The overall cost of the exhibit including JpGU staff travel costs was about 8MJPY. Discussion followed on the effectiveness of the 2014 exhibit and the 2015 plan. Members who attended the AGU meeting generally had positive impression on the exhibit. Suggestions for improvements were made: Attract additional sponsors such as ELSI (Earth-Life Science Institute) as WPI (World Premier Research Center Initiative), JSPS or EPS; add more contents and value; survey visitors' interests; JpGU researchers attending to the visitors would be beneficial. The committee felt the next exhibit should spend about half the 2014 expenses (reducing the overall cost to about 4MJPY including contributions from JpGU and PEPS).

Suyehiro briefed on the meeting at AGU Headquarters on 12/5 one week before the formal meeting in San Francisco between JpGU and AGU.

Kimura reported on the meeting on 12/15. AGU and JpGU agreed to move ahead for joint events leading to the 2017 joint meeting. With this agreement, JpGU and AGU will coordinate in formalizing and implementing the events.

Kimura also reported on the Convocation meeting that AGU convened as one of AGU's outreach efforts.

Tajima asked about the estimate of the number of participants for the 2017 meeting. Suyehiro answered JpGU is currently making conservative estimates based on the number of participation for JpGU meeting 2014. Relations to WPGM (Western Pacific Geophysics meeting), AOGS and prospects for future joint meetings were discussed. The fate of WPGM is unknown. AOGS in Beijing in 2016 seems to be on schedule, although its partner societies are not identified yet. Sasaki pointed out that the dates of 2016 AOGS unintentionally overlaps with COSPAR.

Item 2: 25th Anniversary Symposium (25 周年記念シンポジウム)
Video streaming is a good idea, but consideration must be made about real-time broadcast. Archiving is a cost issue but worth consideration.

ted from 5 sections (セクションから推薦の講演者の選出)
Kimura explained to the committee about shifting the time schedule to allow for 1 speaker from each of the five sections. The committee approved.

The committee went into executive session to select five speakers based on the nominations from the 5 sections.
The selected speakers are as follows:
Atmospheric and Hydrospheric Sciences: Masahiro Watanabe
Space and Planetary Sciences: Kanako Seki

Human Geosciences: Hiroya Yamano
Solid Earth Sciences: Satoshi Ide
Biogeosciences: Yuichiro Ueno
The selected speakers will be contacted by Chair for acceptance.

2） Draft Joint Communiqué (共同声明案について)
The most recent version of the draft was not available at the meeting and was to be distributed after the meeting. The draft will receive feedbacks from AGU, AOGS and EGU. Need initial joint agreement in March-April timeframe. Some suggestions to be considered in the communiqué from the members were: how to cope with the recent "open science" trend from the community perspective; how to cope with the many international meetings; how to connect the society with science; how to bridge the science communities in developed countries and countries in need.

Discussion followed about the roles of ICSU-type organizations and AGU-type unions. How to (not to) involve decision/policy makers was also pointed out.

3） Attracting audience: ways and means (集客方法の検討)
Utilize website and JGL announcements. Press release to be made at the right timing. Ask participating unions to feed the news to their communities. Need to coordinate with the Publicity and Outreach Committee (Takahashi).

Item 3: Preparing for welcome activities on May 25 and 26 (レセプションの準備状況)
On track.

Item 4: Coverage of travel expenses of invited speakers (海外からの Invited speakers への旅費の支給について)
Not an issue.

Item 5:Enhancing international openness with roadmap (国際化推進の強化と将来展望)

Members freely discussed the agenda item. It became apparent in the course of discussion that there was not a concrete and firm consensus about where we are heading particularly beyond 2017. Kimura said we will continue the discussion at the next meeting. Some points of discussion were: (1) Are "international sessions" discrete from the "normal" sessions? If so, in what way? (2) What is the role of JpGU with Asian partners? Who are they? How does it differ with AOGS? (3) How should we plan for future international collaborations with other societies overseas? (4) What distinct role could JpGU play when there already exist AGU and EGU?

It was recognized the language issue is so important. It is important to attract non-Japanese participants as well as to communicate Japanese science to the outside world. Fujimoto said JpGU members need to understand this and express their views so that JpGU HQ can respond and help where necessities arise.

Kimura pointed out that the key is to be the front-runner in science and urged each section to discuss this matter also.

Item 6: Other business
Fujimoto explained the plan of the NASA-JAXA joint session combined with exhibit and outreach.

Item 7: Adjournment
The meeting was adjourned at 12:20.

2015 年 25 周年記念シンポジウム「Geoscience Ahead」

5 月 26 日（火）午後　コンビーナ：　木村学、ウォリスサイモン、末広潔　　学術会議地球惑星科学委員会

■海外招待者　（招待済み）　連携国際組織　　（★2015 年大会時 President）

EGU	Günter Blöschl Hans Thybo	 ★	オーストリア デンマーク コペンハーゲン（2015 大会後）
AGU	Carol Finn Margaret Leinen	 ★	Washington D.C. San Diego（2014 年 Fall Meeting 後）
AOGS	Yun-Tai Chen Kenji Satake	★	北京（2014 年札幌大会後）

■国内招待者案

日本学術会議　会長または副会長

〃　　地球惑星科学委員会委員長

他、 総合科学技術会議 関係者、日本学術振興会 関係者、有識者、著名人

■講演者（セクション選出）および講演タイトル（予定）

宇宙惑星科学セクション 関 華奈子（太陽地球環境研究所・准教授）

「A personal future perspective of international collaborations in space physics」

大気水圏科学セクション 渡部雅浩　(東京大学大気海洋研究所・准教授)

「Climate research on global change: Challenges for the future」

地球人間圏科学セクション 山野 博哉（国立環境研究所生物・生態系環境研究センター）

「Coral reefs in a changing world: climate change and land-based pollution issues and conservation strategies」

固体地球科学セクション 井出 哲（東京大学・教授）

「Broadband Earthquake Science」

地球生命科学セクション 上野雄 一郎（東京工業大学・准教授）

「Biogeochemistry of life-inhabited planets: Lessons from Early Earth」

■日本学術会議からの講演者選出状況報告

中村尚　（日本学術会議 第三部 幹事 / 東京大学 先端技術研究センター）

日程詳細案：

13：15 ～ 13：25	木村 開会（本セッション趣旨説明など）（10 分）
13：25 ～ 13：40	津田 JpGU President （15 分）
13：40 ～ 14：05	海外招待講演者 1（25 分）
14：05 ～ 14：30	海外招待講演者 2（25 分）
14：30 ～ 14：55	海外招待講演者 3（25 分）
15：55 ～ 15：15	質疑応答 （20 分）
15：15 ～ 15：35	セクションより推薦された講演者 1 （20 分）
15：35 ～ 15：55	セクションより推薦された講演者 2 （20 分）
（休憩）	（20 分）
16：15 ～ 16：35	セクションより推薦された講演者 3 （20 分）
16：35 ～ 16：55	セクションより推薦された講演者 4 （20 分）
16：55 ～ 17：15	セクションより推薦された講演者 5 （20 分）
17：15 ～ 17：35	日本学術会議「地球惑星科学の現状と将来、国際協力について」（20 分）
17：35 ～ 18：25	パネルディスカッション （50 分）
18：25 ～ 18：45	共同声明発表 （20 分）
18：45 ～ 20：00	懇親会 （15 分）

[大会日程（予定）]

AM1	09：00 ～ 10：45
AM2	11：00 ～ 12：45
昼休み	12：45 ～ 14：15
PM1	14：15 ～ 16：00
PM2	16：15 ～ 18：00
ポスターコア	18：15 ～ 19：30

Makuhari 2015: Joint communiqué (DRAFTDRAFT)

AGU, AOGS, EGU and JpGU collectively represent geoscientific communities around the globe together with other societies for geoscientists.

Upon the 25th anniversary of JpGU, the leadership of these four organizations met together for the first time during the Annual Meeting of JpGU in May, 2015 to exchange views held by each organization and to discuss future directions and collaborations.

Recognizing the extreme importance of scientific knowledge and understanding of the Earth and planetary systems for the benefits of humankind;

Recognizing the impending geohazards and global changes associated with global warming;

Recognizing the importance of correctly communicating scientific views and understanding to the general public and the policy makers;

The participants of the Anniversary Symposium have agreed to meet annually at one of the annual meetings of AGU/AOGS/EGU/JpGU to continue the discussion and to implement action plans to better serve the global geoscience communities, and hence advancing science in order to cope with global issues affecting the well being of the future state of Earth and humankind.

Specifically, we agreed to implement the following:
The hosting organization of the proposed annual meeting will take lead in setting the theme, scheme and the goals of each meeting.

International Mixer Luncheon へのお誘い

この度日本地球惑星科学連合では国際化推進の一環として連合大会期間中に海外からの研究者、日本で学ばれている海外の研究者の皆様を中心に、連合の国際化についてのご意見をいただき、又、意見交換及び参加者同士の交流を深める機会とし、今後の日本での活動に生かしていただけるよう、International Mixer Luncheon を開催いたします。

日時：5 月 25 日（月）午後 1 時～2 時
場所：幕張メッセ　国際会議場内
参加費無料（軽食とドリンクつき）
お申込み方法：ご希望の方は以下のフォームからお申込みください。（先着 120 名）
　定員に達し次第、締め切らせていただきます。
https://business.form-mailer.jp/fms/a3ecfdd540386

皆様のご参加をお待ちしております。

Invitation to an international mixer luncheon

It is open to all participants of the 2015 JpGU Meeting with an
interest in the international agenda of our science.

International Mixer Luncheon
Date: May 25 (Mon)
Time: 1-2PM
Place: To be announced.
Application form: https://business.form-mailer.jp/fms/a3ecfdd540386
Fixed number: 120 (Application is to be closed when it reaches the fixed number.)

This in an opportunity for students and researchers from overseas to meet informally and network both amongst themselves and with participants resident in Japan.

JpGU will provide free lunch and some drinks at this forum, and we hope you take this opportunity to get to know more of your colleagues from around the globe and expand your research connections.
This gathering is an opportunity to foster international links and friendship. JpGU is also keen to hear your frank opinions to help in improving the services
that our society offers. We will therefore ask attendees to fill in a questionnaire during the mixer.
You kind cooperation will be appreciated.

日本地球惑星科学連合フェロー審査委員会　2014 年度第 1 回会議　議事録

１．開催日時：2015 年 1 月 13 日（火）15：30 - 18：00
２．開催場所：連合事務局地下会議室（〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル ）
３．出席委員：フェロー審査委員　4 名
　　（フェロー審査委員会規則第 6 条に基づき，現時点では非公開）
４．出席オブザーバー：担当理事　中村正人　成瀬元

５．議事
開始予定時刻となったため，委員長が議長席に着き，会議の開始を宣言した．以下議事に入った．

議事１．自己紹介
担当理事が新たに加わったことに伴い，委員の自己紹介を行った．

議事２．規約の変更について
フェロー事務局担当中村理事がフェロー制度規則の変更について説明した．昨年度の審査以降，本年度の第 4 回理事会（7 月 12 日開催）ではフェロー候補者の要件について，第 5 回理事会（8 月 23 日開催）では推薦者の要件について変更があった．（なお，この変更は本審査委員会には照会がなかったことが明らかになった．）
フェローの要件について議論した．前年度の審査時には，旧規則に基づき「（１）地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレークスルーもしくは発見などを中心に，地球惑星科学の発展に著しい貢献をした者（２）連合の活動に顕著な貢献をなし、日本の地球惑星科学の発展、あるいは地球惑星科学の知識普及に貢献した者」であったのに対し，本年度の審査時には第 4 回理事会での改正により，「フェロー候補者は、地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレークスルーもしくは発見などを中心に、日本の地球惑星科学の発展に著しい貢献をした者を対象とする。」とされている．このため，旧条文の（２）の要件がはずされているという意見があった．担当理事からは新条文には旧条文の（２）の要件を含むという説明があったが，そのように読めないという意見が委員の大半を占めた．
ただし，前年度の審査との整合性を鑑み，本年度の審査は旧条文の（２）の要件を含むものとして審査することを満場一致で決定した．

議事３．フェローの選考
推薦のあったフェロー候補者の中からフェローを選考した．13 名を 2015 年度の日本地球惑星連合フェローとして決定した．ただしうち 1 名については基準を満たしているかどうかを会議後再確認する必要がある（後日確認した結果，基準に達していると判断した）．この結果は 3 月の理事会（日時未定）にて報告する．

議事４．今後の予定

受賞決定者の一行推薦文および主な業績について修正・確認のうえ，理事会報告までにとりまとめる．また，来年度以降へ向けて申し送りや検討事項などのとりまとめを行う．現在のところ以下のような点が挙げられた．

・推薦書類の様式について，推薦者・支持者（サポーター）の本人確認ができるものを必須とする．
・フェロー制度規則第 2 条（フェロー候補者の要件）に再改正の必要がある．
・審査委員数を増やす必要がある．
・推薦者に要件を設定することを検討する必要がある．
・サポートレターの「連名を可とする」など，推薦書類の説明にわかりにくい部分があるため，再考の必要がある．

議事５．規約の再変更について（メール審議）

フェローの要件は，制度の一貫性を鑑み，旧規則の（２）の趣旨を陽に記載する必要があるという委員長の提案についてメール審議した．委員から賛同が得られ，担当理事が顕彰委員会で審議することとした．

以上

フェロー制度規則

2013 年 10 月 11 日　理事会制定

（趣旨）

第１条　この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）が、地球惑星科学において顕著な功績を挙げ、**あるいは連合の活動に卓越した貢献をはかった正会員**に対し、名誉あるフェローとして処遇することを目的として設立された連合フェロー制度に関し、必要な事項を定めるものである。

（フェロー候補者の要件）

第２条　フェロー候補者は、**連合において、推薦時点において過去３年度にまたがり連合の正会員資格を保持した経歴を持ち、**次の各号のいずれかに該当するものとする。

（１）　地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレークスルーもしくは発見などを中心に，地球惑星科学の発展に著しい貢献をした者

（２）　連合の活動に顕著な貢献をなし、日本の地球惑星科学の発展、あるいは地球惑星科学の知識普及に貢献した者

（フェロー候補者の除外）

第３条　前条にかかわらず、次の各号の者はフェロー候補者にはなれない。

（１）役員、及びセクションプレジデント

（２）フェロー審査委員会委員

（推薦）

第４条　フェローは、**正会員**による推薦により候補者となるものとし、推薦者１名が次の各号の内容が記載された書面（任意書式）をもって連合会長に推薦するものとする。

（１）　候補者の氏名、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）

（２）　候補者の履歴（研究歴、受賞歴、大学・研究機関・学協会等における貢献、他）

（３）　候補者の主要な論文あるいは特許等あわせて５編のリスト、およびその別刷り乃至コピー

（４）　推薦理由書(Ａ４で２ページ以内、日本語又は英語)

（５）　３通のサポートレター（Ａ４で各１ページ以内、日本語又は英語、連名を可とする）

（６）　推薦者の氏名、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）

（選考）

第５条　理事会は、フェロー審査委員会（以下、「審査委員会」という。）を設置し、推薦された候補者の中からフェローを選考する。

２．審査委員会に関する規則は別に定める。

（授与）

第６条　理事会は、審査委員会からの選考結果を受け、フェローを認定する。

２．会長はフェロー表彰式においてフェロー称号とメダルを授与する。

（推薦・選考の実施時期）

第７条　フェローの推薦及び選考の時期は理事会が定める日程をもって行う。

（規定の改廃）

第８条　この規定の改廃は、理事会の決議を必要とする。

附則

（１）この規則は、2013 年 10 月 11 日から施行する。

（２）本規則第２条の正会員資格には、公益社団法人地球惑星科学連合の正会員（2011 年 12 月～）、一般社団法人日本地球惑星科学連合の正会員（2009 年 12 月～2011 年 11 月）、日本地球惑星科学連合大会（2006～2009 年）および地球惑星科学関連学会合同大会（1990～2005 年）の参加登録者を含むものとする。

2013 年 10 月 11 日　理事会制定

2013 年 12 月 19 日　理事会改正

公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー制度規則

2013 年 10 月 11 日　理事会制定

（趣旨）

第１条　この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）が、日本の地球惑星科学において顕著な功績を挙げた者に対し、名誉あるフェローとして処遇することを目的として設立された連合フェロー制度に関し、必要な事項を定めるものである。

（フェロー候補者の要件）

第２条　フェロー候補者は、地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレークスルーもしくは発見などを中心に、日本の地球惑星科学の発展に著しい貢献をした者を対象とする。

（フェロー候補者の除外）

第３条　前条にかかわらず、次の各号の者はフェロー候補者にはなれない。

（１）役員、及びセクションプレジデント

（２）フェロー審査委員会委員

（推薦）

第４条　フェローは、推薦により候補者となるものとし、推薦者１名が次の各号の内容が記載された書面（任意書式）をもって連合会長に推薦するものとする。

（１）　候補者の氏名（和文および英文表記）、連絡先（所属機関・役職（引退後は、これに代わる肩書き）、住所、電話番号、メールアドレス）

（２）　候補者の履歴（専門分野、研究歴、受賞歴、大学・研究機関・学協会等における貢献、他）

（３）　候補者の主要な論文あるいは特許等あわせて５編のリスト、およびその別刷り乃至コピー

（４）　推薦理由書(Ａ４で２ページ以内、日本語又は英語)

（５）　３通のサポートレター（Ａ４で各１ページ以内、日本語又は英語、連名を可とする）

（６）　推薦者の氏名、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）

（選考）

第５条　理事会は、フェロー審査委員会（以下、「審査委員会」という。）を設置し、推薦された候補者の中からフェローを選考する。

２．審査委員会に関する規則は別に定める。

（授与）

第６条　理事会は、審査委員会からの選考結果を受け、フェローを認定する。

２．会長はフェロー表彰式においてフェロー称号とメダルを授与する。

（推薦・選考の実施時期）

第７条　フェローの推薦及び選考の時期は理事会が定める日程をもって行う。

（規定の改廃）

第８条　この規定の改廃は、理事会の決議を必要とする。

附則

（１）この規則は、2013 年 10 月 11 日から施行する。

2013 年 10 月 11 日　理事会制定
2013 年 12 月 19 日　理事会改正
2014 年 7 月 12 日　理事会改正
2014 年 8 月 23 日　理事会改正

報告事項：固体地球科学セクション活動報告

【固体地球科学セクション　平成 27 年度事業計画書】

・連合大会時にセクションボードメンバーを招集しセクションボードミーティングを開催する。
・学生発表賞の選考と表彰：選考委員を 1 名から 2 名に増やし、選考方法を充実させる。
・セクションの活動を活性化するために、セクションボードに新たなメンバーを迎え充実させる。
・ホームページをさらに充実させる。
・セクションの内部構造を構築するために、新たなフォーカスグループの創設を目指す。このフォーカスグループが継続的に連合大会で国際セッションを提案し、海外の組織と連携した国際会議の共催を支援する。
・国際セッションのコンビーナーを中心に、内部組織としてのフォーカスグループの創設を支援する。
・国際セッションの支援を通して、2016 年、2017 年の AGU などとの共催セッションの継続的な提案を可能にする。
・このセクションの褒賞制度を充実させるために、連合の顕彰委員会と緊密に連携して新たな褒賞制度を検討する。

「日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議」

（公）日本地球惑星科学連合

質問事項
学協会と日本学術会議との関係についての認識
学協会の立場から、今後日本学術会議に期待する役割

１。地球惑星科学とは
＊「地球・惑星とは何もの、どこからきて、どこへ行くの」に答えようとする基礎科学
＊　地球環境・自然災害・資源エネルギー問題の根本的対応へ答えようとする応用科学

２。連合発足の契機
＊2005 学術会議改革によって、地球物理学研連、地質学研連、鉱物学研連、地理学研連などを第３部地球惑星科学委員会として再編。
＊コミュニティーの側（学会群も再編）、連合を発足。
ただし、従来の連絡調整組織としての連合ではなく、学際領域の新規統一学会として機能を持たせる。モデル：アメリカ地球物理学連合、欧州地球科学連合

３。連合の戦略
「高い峰と広い裾野」：地球惑星科学の発展をリードする世界的学会へ。
４つの戦略
＊　科学の発展への貢献、
＊　科学の社会への貢献、
＊　科学の教育への貢献、
＊　科学の人材育成への貢献

４。学術会議と連合の関係と今後の学術会議への期待

＊科学技術政策・行政との調整と連携
＊地球惑星科学の国際活動における調整と連携

ICSU関連の主導は学術会議、個別国、地域別コミュニティーとの対応は連合
例：2015 INQUA (国際第四紀連合）大会@名古屋　学術会議第３部 INQUA分科会
　　2015 連合大会国際シンポジウム「Geoscience Ahead」連合国際戦略委員会主催
　　アメリカ地球物理学連合、欧州地球科学連合、アジアオセアニア地球科学会の
　　会長・副会長が世界で初めて一堂に会し、今後の地球惑星科学のグローバル連携
　　について討論、共同声明調印予定（2015, 5, 26)
「国連型」ICSUと先進国間学会連携の有機的連携によって、世界をリードする。

地球惑星科学振興西田賞について(覚書)

西田篤弘(以下「甲」という。)と公益社団法人日本地球惑星科学連合(以下「乙」という。)とは,乙が公益目的事業として実施する「地球惑星科学振興西田賞」(以下「本賞」という。)について,次の通り相互に確認し,覚書とする。

記

1. 甲は,本賞の副賞に充てるため,乙に対し,平成26年度から10年間に亘り毎年金500万円ずつ,総額金5,000万円を寄附するものとする。
2. 乙は,受領した寄附金については,乙の他の資金と明確に区分して管理し,甲が定めた前項の使途に従ってこれを使い,以て,本賞の維持発展に努める。
3. 甲は,寄附金総額である金5,000万円について,予め同額を甲の銀行預金口座(　　)に預け入れることによって確保した上,毎年の寄附については同口座からの振込により実行するものとし,加えて,不測の事態に備えるため,遺言公正証書を作成し,同口座に残った相続開始時の全額を乙に対し遺贈するものとする。
4. 乙は,甲並びに前項の遺言公正証書の証人及び遺言執行者に対し,隔年毎に行われる本賞の授賞後速やかに本年度から20年間に亘り,その実施報告(寄附金の使途を含む)を行うものとする。遺言公正証書の効力が発生した場合には,引き続き,同証人及び遺言執行者に対して同実施報告を行うものとする。

以　上

平成 26 年 10 月 31 日

(甲)　西田篤弘　

東京都文京区弥生二丁目4番16号学会センタービル4階

(乙)　公益社団法人日本地球惑星科学連合

代表理事・会長

津田敏隆　

平成 26 年 12 月～平成 27 年 1 月度　入会会員

個人情報のため非公開とする

平成 26 年 12 月～平成 27 年 1 月度　入会会員

個人情報のため非公開とする

平成26年度会員数推移

	正会員						准会員						大会会員				
	入会	変更(+)	退会(−)	喪失(−)	削除(−)	現会員数	入会	変更(−)	退会(−)	喪失(−)	削除(−)	現会員数	入会	退会(−)	削除(−)	変更(−)	現会員数
3月末						7540						392					665
4月	294	65	7	4	9	7879	32	33	2		1	388	89		9	32	713
5月	53	1	2	36	9	7886	8	0	0	0	0	396	0	1	16	1	695
6月	5	0	2	0	1	7888	7	0	0	0	0	403	1	0	1	0	695
7月	8	1	2	0	0	7895	1	1	1	0	0	402	0	0	0	0	695
8月	9	1	3	0	1	7901	1	0	0	0	0	403	0	0	288	1	406
9月	8	0	4	0	0	7905	2	0	0	0	0	405	5	0	0	0	411
10月	13	0	2	0	0	7916	1	0	0	0	0	406	6	1	0	0	416
11月	2	0	1	0	1	7916	3	0	0	0	0	409	0	0	0	0	416
12月	7	0	1	0	0	7922	1	0	0	0	0	410	2	0	0	0	418
1月	134	10	5	0	7	8054	22	9	1	0	68	354	53	0	1	1	469
2月						8054						354					469
3月						8054						354					469
	533	78	29	40	28		78	43	4	0	69		156	2	315	35	

正会員
8054 名

准会員
354 名

大会会員
469 名

	団体会員			賛助会員		
	入会	退会	現会員数	入会	退会	現会員数
3月末			49			1
4月	1		50			1
5月			50			1
6月			50			1
7月			50			1
8月			50			1
9月			50			1
10月			50	1		2
11月			50			2
12月			50			2
1月			50			2
2月						
3月						
	1	0	50	1	0	2

	全会員
3月末	**8597** 名
4月	**8980** 名
5月	**8977** 名
6月	**8986** 名
7月	**8992** 名
8月	**8710** 名
9月	**8721** 名
10月	**8738** 名
11月	**8741** 名
12月	**8750** 名
1月	**8877** 名
2月	名
3月	名

審議事項:委員会委員承認の件

委員会名	氏名	所属
広報普及委員会	生形 貴男	京都大学大学院理学研究科
グローバル戦略委員会	田島 文子	University of California

国内出張旅費規則

（趣旨）

第１条　この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）の役員、委員及び職員、並びに連合が依頼した者の国内の出張旅費を定めるものである。

（旅費の構成）

第２条　旅費は、交通費、日当及び宿泊費を支給する。

２　「科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）国際情報発信強化（オープンアクセス刊行支援)」に係る事業のための旅費については、第３条から第８条の定めに拘わらず、「東京大学旅費支給要領」の定に基づいて計算した額を支給するものとする。

（交通費）

第３条　交通費は、公共交通機関を利用する場合に支給するものとし、原則として鉄道の旅客運賃、特急料金および指定席料金並びに船舶の旅客運賃を、路程に応じて支給する。

２ 鉄道の特急料金および指定席料金は、特急を運行する路線で、片道 100km 以上を旅行する場合に支給することができる。

３ 第１項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、航空機の旅客運賃の実費を支給することができる。

(1) 片道 1,000km 以上を旅行する場合

(2) 移動時間が片道４時間を超える場合

(3) 業務上必要と認める場合

（日当）

第４条　日当は、次の各号により支給する。

(1)　日当は、片道 100km を旅行する場合に支給する。

(2)　日当は、日額 2,000 円とし、宿泊しない日はその半額とする。

（宿泊費）

第５条　宿泊費は実費を支給し、その上限額を別途定める。

２　この規則により難い場合は、事前に事務局との協議により決定した額を支給する。

（パック料金の取扱い）

第６条　交通費と宿泊費が一体になったチケットを利用する旅行等では、当該料金を交通費と宿泊費の支給額とする。

（日当、宿泊費の辞退）

第７条　出張者が日当又は宿泊費の受領を辞退した場合には、当該経費は支給しない。

（私事旅行を含む出張）

第８条 出張における用務地での用務期間の前後に私事旅行がある場合は、事前に事務局に届け出ることにより、当該用務に係る往復の交通費、日当、及び宿泊費を支給することができる。

（出張中の移動時間の勤務）

第９条　出張中の移動時間は、一日あたりの所定労働時間の範囲で勤務とみなす。

２　　時間外労働手当、深夜労働手当、並びに休日労働手当は支給しない。

（大会の例外事項）

第 10 条　日本地球惑星科学連合大会への参加には、連合の職員及び連合が依頼した者以外には出張旅費を支給しない。

（規則の改廃）

第 11 条　この規則の改廃は、理事会の議を経て行う。

附則

(1)本規則は 2012 年 12 月 26 日より施行する。

(2)2013 年 8 月 1 日　第 2 条改正

(3)2013 年 10 月 11 日　附則改正

外国出張旅費規則

（趣旨）

第１条　この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）の役員、委員及び職員、並びに連合が依頼した者が連合の用務で外国出張する場合の旅費を定めるものである。

（旅費の構成）

第２条　旅費は、交通費、日当、及び宿泊費を支給する。

２　「科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）国際情報発信強化（オープンアクセス刊行支援）」に係る事業のための旅費については、第３条から第７条の定めに拘わらず、「東京大学旅費支給要領」の定に基づいて計算した額を支給するものとする。

（交通費）

第３条　交通費は、原則として、鉄道、船舶、航空機、車の旅客運賃とその付属料金（特急料金、寝台料金等）を実費支給する。

２　航空運賃はエコノミー・ディスカウントクラス相当を基本とする。ただし、会長が必要と認めた場合にはビジネス・ディスカウントクラス相当を支給することができる。

（日当）

第４条　日当は、日額 4,000 円とする。

（宿泊費）

第５条　宿泊費は実費を支給し、その上限額を別途定める。

２　この規則により難い場合は、事前に事務局との協議により決定した額を支給する。

（日当、宿泊費の辞退）

第６条　出張者が日当又は宿泊費の受領を辞退した場合には、当該経費は支給しない。

（私事旅行を含む出張）

第７条 出張における用務地での用務期間の前後に私事旅行がある場合は、事前に事務局に届け出ることにより、当該用務に係る往復の交通費、日当、及び宿泊費を支給するこ

とができる。

（出張中の移動時間の勤務）

第８条　出張中の移動時間は、一日あたりの所定労働時間の範囲で勤務とみなす。

２　　時間外労働手当、深夜労働手当、並びに休日労働手当は支給しない。

（規則の改廃）

第９条　この規則の改廃は、理事会の議を経て行う。

附則

(1)本規則は 2012 年 12 月 26 日より施行する。

(2)2013 年 8 月 1 日　第 2 条改正

(3)2013 年 10 月 11 日　附則改正

国内出張旅費に関する内規

（目 的）

第 1 条　この内規は、国内出張旅費規則の運用に関し、その細部を規定することを目的とする。

（宿泊費の上限額）

第 2 条　国内出張に掛かる宿泊費の上限額は 10,000 円（消費税別）とする。

（内規の改廃）

第 3 条 この内規の改廃は、総務委員会及び財務委員会との協議を経て、理事会の議を経て決定する。

附則

1. 本内規は、平成 25 年 10 月 11 日から実施する。

2. 宿泊費の上限額の算出にあたっては、「東京大学旅費支給要領」の国内旅費・宿泊料のうち教職員（役員、副理事、教授、准教授及び部長以外のもの）の額の定めを参考とするものとする。

外国出張旅費規則に関する内規

（目 的）

第 1 条　この内規は、外国出張旅費規則の運用に関し、その細部を規定することを目的とする。

（宿泊費の上限額）

第 2 条　外国出張に掛かる宿泊費の上限額は,欧米及び中近東地区においては 23,000 円,その他地方においては 13,000 円とする。

2　欧米及び中近東地区とは、次の各号の地域のことをいい、その他地方とは、それ以外の地域のことをいう。

(1) 北米地域（国家公務員等の旅費支給規程（昭和２５年大蔵省令第４５号。以下「国の規程」という。）第１７条第１号の地域）

(2) 欧州地域（国の規程第１７条第２号の地域）のうち、アゼルバイジャン、アルバニア、アルメニア、ウクライナ、ウズベキスタン、エストニア、カザフスタン、キルギス、グルジア、クロアチア、コソボ、スロバキア、スロベニア、セルビア、タジキスタン、チェコ、トルクメニスタン、ハンガリー、ブルガリア、ベラルーシ、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国、モルドバ、モンテネグロ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア及びロシア（モスクワを除く。）を除いた地域

(3) 中近東地域（国の規程第１７条第３号の地域）

(4) アジア地域（国の規程第１７条第４号の地域）のうち、シンガポール

(5) アフリカ地域（国の規程第１７条第７号の地域）のうち、アビジャン

（内規の改廃）

第 3 条 この内規の改廃は、総務委員会及び財務委員会との協議を経て、理事会の議を経て決定する。

附則

1. 本内規は、平成 25 年 10 月 11 日から実施する。
2. 宿泊費の上限額の算出にあたっては、「東京大学旅費支給要領」の外国旅費・宿泊料のうち教職員（役員、副理事、教授、准教授及び部長以外のもの）の額の定めを参考とするものとする。

東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会とその活動について

学協会連絡会幹事会　和田章、依田照彦、田村和夫、米田雅子、浅見泰司、目黒公郎

1　東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会について

日本学術会議の土木工学・建築学委員会は、自然災害軽減のための分野横断的な取組みを推進するため、東北地方太平洋沖地震後に、防災・減災に関係している学会によびかけ「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会（以降、学協会連絡会とよぶ)」を組織した。現時点で、29 学会が学協会連絡会に参画しており、日本学術会議の会員・連携会員による幹事会と合わせて、30 学会連携と称している。参加学会は、理学・工学にとどまらず、農業、医学、経済学、社会学等も入り、多様な構成となっている。

東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会　（英語名と同順）

幹事会　日本学術会議 土木工学・建築学委員会・学際連携分科会

参加学会

日本建築学会	こども環境学会	日本原子力学会	地理情報システム学会
地域安全学会	日本地震工学会	日本火災学会	日本計画行政学会
日本コンクリート工学会	日本災害情報学会	日本自然災害学会	土木学会
日本応用地質学会	砂防学会	日本水環境学会	日本集団災害医学会
日本造園学会	日本都市計画学会	日本地すべり学会	日本機械学会
地盤工学会	日本活断層学会	農業農村工学会	日本地震学会
環境システム計測制御学会	空気調和・衛生工学会	計測自動制御学会	日本地域経済学会
廃棄物資源循環学会			

2　連続シンポジウムと 30 学会共同声明

2011 年 11 月より 2014 年 11 月までに、日本学術会議の講堂において、日本学術会議と学協会連絡会は、「巨大災害から生命と国土を護る-30 学会からの発信」をテーマにした連続シンポジウムと学術フォーラムを合わせて 10 回開催してきた。従来の専門分化した学会のあり方を見直し、学会間の本質的な議論と交流を深め、今後の日本の学術の方向と基本政策を提言することをめざしている。

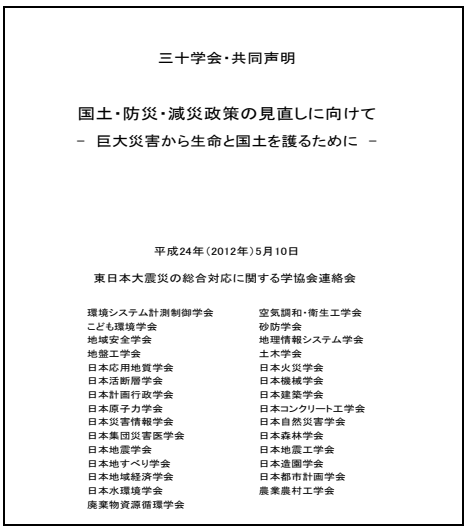
これらの活動の成果としては、2012 年 5 月 10 日に発表した「三十学会・共同声明 国土・防災・ 減災政策の見直しに向けて」がある。この共同声明は、各学会の理事会により正式に承認されたものである。幹事会の代表および各学会の代表は、国土交通大臣、内閣府防災担当大臣、文部科学副大臣に共同声明を手交し、日本の政府内でも、この声明は重く受けとめられた。また学協会連絡会の活動の成果を、学術会議の月刊誌「学術の動向」2013 年 3 月号に特集として掲載した。

連続シンポジウム　巨大災害から生命と国土を護る-30 学会からの発信

第 1 回：今後考えるべきハザード（地震動、津波等）と規模は何か	2011 年 11 月
第 2 回：大災害の発生を前提として国土政策をどう見直すか	2012 年 1 月
第 3 回：減災社会をどう実現するか	2012 年 2 月
第 4 回：首都直下・東海・東南海・南海等の地震に今どう備えるか	2012 年 5 月
第 5 回：大震災を契機に地域・まちづくりを考える	2012 年 6 月
第 6 回：原発事故からエネルギー政策をどう建て直すか	2012 年 7 月
第 7 回：大震災を契機に国土づくりを考える	2012 年 8 月
第 8 回：第 1 回から第 7 回までの総括学術フォーラム	2012 年 11 月
第 9 回：南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか	2013 年 12 月
第 10 回「東日本大震災・阪神大震災等の経験を国際的にどう活かすか」	2014 年 11 月

学協会連絡会　実務担当者連絡会
Executive Committee meeting

各学会の協力によるシンポジウムの受付風景
Reception of Symposium by the cooperation of each society



三十学会・共同声明

国土・防災・減災政策の見直しに向けて
－ 巨大災害から生命と国土を護るために －

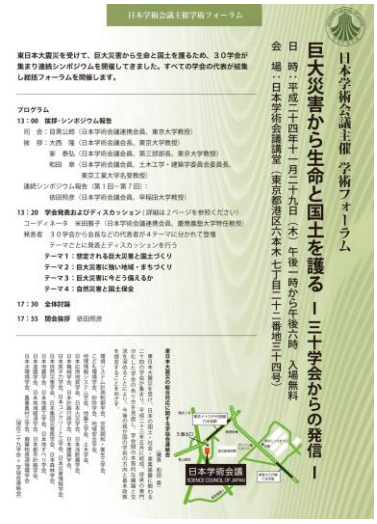
平成24年（2012年）5月10日

東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会

環境システム計測制御学会	空気調和・衛生工学会
こども環境学会	砂防学会
地域安全学会	地理情報システム学会
地盤工学会	土木学会
日本応用地質学会	日本火災学会
日本活断層学会	日本機械学会
日本計画行政学会	日本建築学会
日本原子力学会	日本コンクリート工学会
日本災害情報学会	日本自然災害学会
日本集団災害医学会	日本森林学会
日本地震学会	日本地震工学会
日本地すべり学会	日本造園学会
日本地域経済学会	日本都市計画学会
日本水環境学会	農業農村工学会
廃棄物資源循環学会	

30 学会共同声明の表紙（2012 年 5 月 10 日）
Joint Statement of 30 Academic Societies

各学会の代表・学協会幹事（2012 年 5 月 10 日）
Representatives of the association and academic societies



連続シンポジウム（第 8 回）の会場写真とプログラム（2011 年 11 月 29 日）
The 8th symposium and its leaflet of the serial symposiums, on November 29, 2011

3 学術フォーラム「東日本大震災・阪神大震災等の経験を国際的にどう活かすか」

連続シンポジウムの第 10 回として、日本学術会議と学協会連絡会は学術フォーラム「東日本大震災・阪神大震災等の経験を国際的にどう活かすか」を 2014 年 11 月 29 日に開催する。国連防災世界会議（2015 年 3 月仙台市）およびこの準備のための東京会議（2015 年 1 月）、世界工学会議（2015 年 11 月京都市）に先立ち、わが国の防災・減災に関連する諸学会、社会経済や医学等を含む幅広い分野の学者が集まり、東日本大震災・阪神淡路大震災をはじめとするこれまでの自然災害から得られた知見を、世界の防災・減災にどう活かしていくべきかを、分野の壁を越えて議論する。

この成果として、「東日本大震災・阪神淡路大震災等の経験を国際的にどう活かすか」について、30 学会による英文の共同声明「Global sharing of the findings from the Past Great Earthquake Disasters in Japan」を発出する。

このフォーラムの開催にあたり、学協会に所属する各学会の東日本大震災・阪神淡路大震災等に関する取組と国際的な活動を紹介するために、本冊子を作成した。学協会と参加学会は、この共同声明と冊子を、今後の国際会議等で広く配布する予定である。

プログラムの概要

司　会　　目黒公郎（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

10：00-12：00

趣旨説明　　和田 章（日本学術会議会員、東京工業大学名誉教授）

講 演 国連防災世界会議について　　大西 隆（日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長）

講 演 日本学術会議の国際活動について　春日文子（前日本学術会議副会長、国立医薬品食品衛生研究所）

講 演 世界工学会議について　　依田照彦（日本学術会議会員、早稲田大学教授）

講 演 災害に強い国土と環境　　嘉門雅史（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

講 演 地球気候変動と防災・減災　　小松利光（日本学術会議会員、九州大学名誉教授）

13：00-17：00

パネルディスカッション「大震災の経験を国際的にどう活かすか」

コーディネータ　　米田雅子（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学特任教授）

<u>セッション 1:技術面を中心とした議論</u>

環境システム計測制御学会 会長 清水芳久、空気調和・衛生工学会 副会長 富田弘明
計測自動制御学会 会長 仲田隆一、砂防学会 会長 石川芳治、地盤工学会 会長 東畑郁生
土木学会 会長 磯部雅彦、日本応用地質学会 会長 長谷川修一、日本活断層学会 会長 岡田篤正
日本機械学会 会長 久保司郎、日本原子力学会 標準委員会委員長 宮野 廣、
日本コンクリート工学会 会長 三橋博三、日本地震学会 会長 加藤照之、日本地震工学会 会長 安田 進
日本地すべり学会 会長 土屋 智、廃棄物資源循環学会 理事 吉岡敏明

<u>セッション 2:社会面を中心とした議論</u>

こども環境学会 会長 小澤紀美子、地域安全学会 副会長 糸井川栄一、地理情報システム学会 会長 矢野桂司
日本火災学会 会長 田中哮義、日本計画行政学会 会長 細野助博、日本建築学会 会長 吉野 博
日本災害情報学会 副会長 田中 淳、日本自然災害学会 副会長 寶 馨、日本集団災害医学会 代表理事 山本保博
日本造園学会 会長 下村彰男、日本地域経済学会 山川充夫、日本都市計画学会 会長 中井検裕、
日本水環境学会 会長 迫田章義、農業農村工学会 会長 渡邉紹裕
東京会議（2015 年 1 月）国内組織委員長 小池俊雄

17:00-17：30

30 学会共同声明（英文）の発表および全体討論

AGU Fall Meeting 2014 におけるブース 出展報告書

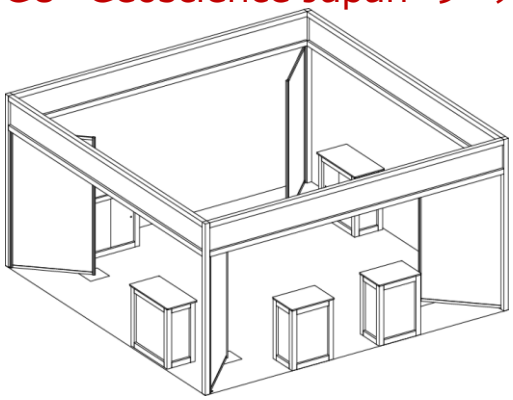
地球惑星科学分野において、世界最大の規模である American Geophysical Union　の Fall Meeting が（ 2014 年 12 月 15-19 日）、サンフランシスコで開催され、日本地球惑星科学連合として、展示企画に参加しブースを出展、連合や 2015 年大会のパンフレットなどを用いて、日本の地球惑星科学の PR をおこなった。本報告では、イベントにおける概要、出展内容・結果などを報告する。

1.AGU Fall Meeting 2014 について

名称	AGU Fall Meeting 2014
日時	20124 年 12 月 15 日（月）～19 日（金）
会場	Moscone Convention Center South, Hall C San Francisco, CA USA
参加者数	約 25,000
発表数	23,000 以上
出展ブース数	293
ウェブサイト	http://fallmeeting.agu.org/2014/

2. 展示会場図（ブース位置）Booth #2005

3. JpGU “Geoscience Japan” ブース



エリアを 4 分割

1. 日本地球惑星科学連合エリア

・2015 年連合大会紹介

・日本地球惑星科学連合およびそのセクション活動紹介

・2015 年大会開催セッション紹介

・25 周年記念特別シンポジウムの紹介　（together with AGU, EGU and AOGS）

・連合紹介の英文パンフレット・日本地球惑星科学連合 2015 年 3 つ折英文パンフレット配布

・宣伝グッズとしてスマートフォンタッチが出来る手袋配布

（その他連合大会時のあまった USB　ポーチなども配布）

2） PEPS エリア

・連合ジャーナル Progress in Earth and Planetary Science(PEPS)の紹介

・PEPS 紹介のポストカード・宣伝グッズとしてバック、USB を配布

3）地球惑星科学関連学協会エリア

・発行ジャーナル紹介

・各学会のジャーナル持参、配布

1.　連合のロゴを掲載してくれている学会の英文誌

1.Earth, Planetary and Space　by SGEPSS

2. Mineralogical Petrological Sciences　by 鉱物科学会

3. Geochemical Journal　by 地球化学会

4. Hydrological Research Letters　by 水文・水資源学会

5. Journal of Agricultural Meteorology　by 農協気象学会

2.その他加盟学協会の英文誌及びパンフレット

日本気象学会、日本地球化学会、日本陸水学会、日本地質学会、地球環境史学会、地震研究所等

4） 日本における国際学会、研究プロジェクトの紹介および留学生受け入れ情報の紹介

1.日本における国際学会、研究プロジェクト紹介

ポスター作成、パンフレット配布

XIX INQUA 2015　27 July - 2 August, 2015　Nagoya, Japan

Goldschmidt 2016　26 June - 1 July, 2016　Yokohama, Japan

Future Earth in Asia

TAMPOPO: Astrobiology JAPAN

ELSI

IRIDes

Tohoku Ecosystem-Associated Marine Sciences

2.留学生受け入れ状況の紹介

パンフレット・資料配布

JSPS のパンフレット

Global 30 コースリスト

Number of students from abroad majoring in Earth and Planetary Science in Japan（別紙資料）

Top Global University Project（別紙資料）

4. AGU-Suyehiro Meeting on Dec 5 at AGU Headquarters

American Geophysical Union Japan Geoscience Union Meeting

Minutes of the 5 December 2014 meeting at AGU Headquarters

Outlining the Meeting Partnership

Impact metrics and participation measures of registration demographics upon the meeting completion will be disclosed to both organizations for future improvement strategies. The team discussed financial expectations and projected budget revenue distributions.

2017 Joint Meeting Resources

The group concluded a further discussion be set up during the December 15th meeting to clarify any meeting resources missed that might need attention at a high level.

Fall Meeting JpGU-AGU Agenda

The group will follow up with tabled topics of discussion during today’s meeting on December 15, 2014 in San Francisco.

Adjourn

The meeting was concluded.

5. AGU-JpGU Executive meeting

JpGU-AGU 会合　議事メモ

2014 年 12/15 （月）0900-1000

場所：モスコーニ南メザニン 220-222 号室

参加者：JpGU 側：木村学、田島文子、Simon Wallis、谷上美穂子、白井佳代子、末廣潔

AGU 側：Carol Finn, Margaret Leinen, Chris McEntee, Frank Krause, Brenda Weaver, Susan Webb, Fatima Terry

議事

１．開会（Carol Finn）

２．2015 年 JpGU 大会 25 周年シンポジウムについて

木村氏から 25 周年シンポジウムの説明を行った。AGU 側は、共同声明案を詰めることに同意。口頭で伝えた詳しい情報は、1 月中の AGU 側の決断プロセスに間に合うようにメールで送付する。

３．2016 年 JpGU 大会ジョイントセッションについて

ジョイントセッションを企画することに合意。方法として、AGU 側から 3 – 4 人のプログラム委員を推薦したい。フリーディスカッションで、テーマの例として、アジアモンスーン、古気候、地震、水問題、政策に関わる問題などがあがった。EGU-AGU ジョイントの Great Debate のような形式も考えられる。また、EGU でのジョイントにつなげる企画も考えられる。タイミングとして、COP-Lima 会議の次の Paris(2015 12 月)会議が最終となるので、それを踏まえたセッションも考えられる。JpGU-AGU の作業は 2015 年 3 月には始めることになる。

JpGU 側が旅費を持つ場合の制約条件などを説明し、理解してもらった。

４．2017 年 JpGU-AGU ジョイント大会について

AGU 側から、両者の合意書が必要だが、財務面と大会組織面と 2 通作るのがよければ、それもできるとの発言があった。3 年かけて合同大会に持っていくことを広くアナウンスする。AGU 側で案を作る。

次期会長の Leinen 氏より、AGU 側としては、日本とすでに交流のある会員に加えて、日本をよく知らない会員の参加も呼びかけたい；その場合、日本の文化に触れることができるような企画を JpGU 側で考えて欲しい。善処すると返答。

AGU 側から、米国大使館、NSF 東京オフィスにも声をかけたいとあり、歓迎と返答。地学巡検、しらせ／ちきゅう見学なども話題にあがった。

Weaver 氏より、登録を AGU 側と JpGU 側と分けてもよいと発言があった（これは、その後別途彼女との会談で再確認）。

日本としてシンボル的にどんなものがあるかと問われ、たとえばジオパークと返答。

JpGU 側より、ジョイント大会のシンボルを考えることを提案し、同意された（これもその後再確認）

6. Letter from AGU President

Dear Fall Meeting Attendee,

I want to personally thank you so much for participating in the most exciting week of the year for the Earth and space science community – AGU's Fall Meeting.

Yet again, we have surpassed previous year's records, with more than 23,000 abstracts and nearly 25,000 attendees. The week was filled with innovative and informative presentations, networking and collaborations, and recognition of the impact the Earth and space sciences have on the world around us.

Based on the feedback we have received from you in the past, we tried several new programs this year. Some of them worked incredibly well:

- We expanded the student volunteer program – which gives students free meeting registration in return for them helping out at various meeting events throughout the week – to include more than 120 students.
- We provided a more robust mobile app that allowed for easier and faster searching, and streamlined syncing across devices.
- We brought back the champagne reception after the Honors Ceremony to give you more time to talk with and congratulate your colleagues on their achievements.

Others will require refinement based on attendee feedback:

- We piloted a program using RFID technology, which was only implemented in high traffic areas of the Moscone Center, such as the exhibit and poster halls, the Honors Ceremony, and in the general session lecture hall. We did this to better understand how attendees navigate the meeting so that we can better plan for the future – such as the seating for lectures or refreshments for the icebreaker reception. We take our members concerns about their privacy very seriously. Please be assured that the information gathered was for AGU's purposes only and will not be sold to or shared with any outside organizations. While this information was included in the Fall Meeting registration process, it is clear that some attendees were not aware. I apologize for any confusion or concern this may have caused. We will be evaluating whether and how to use this program in the future based on your feedback.

I hope that you found these new efforts helpful, and that you enjoyed your week. We recognize what the Fall Meeting means to you, and each year we strive to make it the best experience possible. If you haven't already, you will be receiving a meeting evaluation survey shortly. I encourage you to share any thoughts you might have as to how we can make the meeting even better.

Again, I want to thank you for your participation. The Fall Meeting is the world's greatest gathering of Earth and space scientists, and it would not be possible without you. I look forward to seeing you in San Francisco again next year,
14-18 December, for the 2015 AGU Fall Meeting!

Sincerely,
Christine McEntee
Executive Director and CEO
American Geophysical Union

AGU2014　展示経費　　¥120/$換算

費目	支払額(円)	予算振り分け			補足
		連合 global	連合 ジャーナル	科研費	
AGUブース代　4ブース分(AGU)	684,000	342,000		342,000	Total$:5700 $6300のところ、$600割引
展示用機材等(Freeman)	1,777,523	130,637	1,646,886		
展示ポスターデザイン・印刷(レタープレス)	324,000			324,000	大型ポスターをレタープレスに印刷依頼、椅子や電源コードを一部を自前にする等により、 約$4000(48万円)費用削減
インターネットレンタル(モスコーンセンター)	71,400	71,400			
機材輸送費(Agility)487Kg	740,045	351,683		388,362	
Wifiレンタル	12,612				
大会リーフレット(3000枚)	10,650				
おみやげ(スマホ操作できる手袋)1080	300,000				
総額	3,920,230	1,109,000	927,000	438,500	

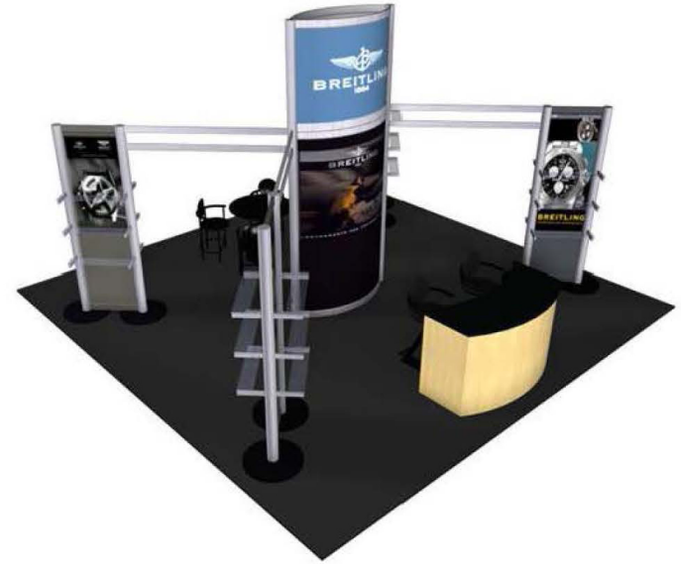
別途　担当者の旅費

出展ブースデザイン案

A

RENTAL GRAPHIC BOOTH A: $13,500 excluding furniture, a hanging sign and shipment freight

B

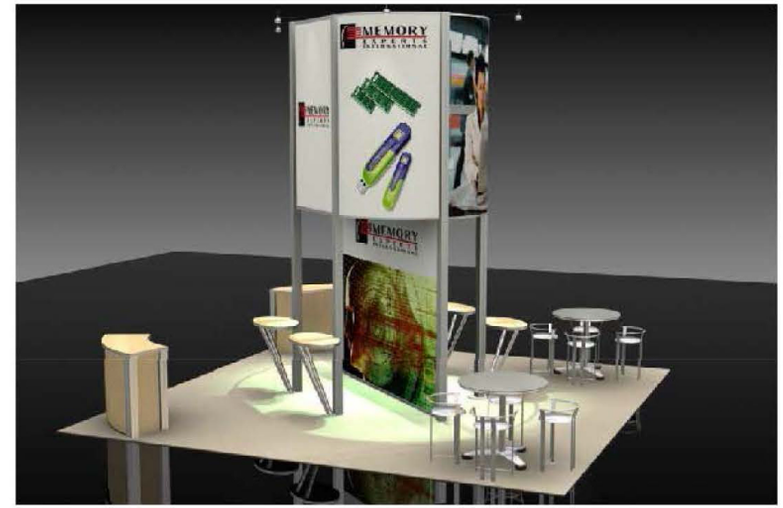


RENTAL GRAPHIC BOOTH C: $15,500 excluding a hanging sign and shipment freight

C

RENTAL GRAPHIC BOOTH B: $14,300 excluding furniture, a monitor, a hanging sign and shipment freight

D



RENTAL GRAPHIC BOOTH D: $17,800 excluding a hanging sign and shipment freight

E

RENTAL GRAPHIC BOOTH E: $16,500 excluding a hanging sign and shipment freight

大会における AGU 会員の取り扱いについて（再審議）

平成 26 年度第 7 回理事会議事録において第 7 号議案は以下の通りである。

第 7 号議案　大会における AGU 会員の取り扱いについて　（木村 学理事）資料 P.56
連合と AGU とは MOU を結んでおり，連合の会員は AGU の大会に会員価格で参加できまた AGU の会員も連合大会に会員価格で参加できる．しかし現状，AGU の会員は連合会員でなくても､連合大会で発表する際に会員価格が適用されるのに対し､連合の会員が AGU の大会で発表する際には､AGU 会員で無い場合は､非会員価格となる．これを是正し，AGU の会員が連合大会で発表（筆頭著者もしくは筆頭セッションコンビーナ）する際に，会員価格を適用するためには､連合会員である必要がある，という運用とすることを審議し，承認した．

この文章は投稿料と参加費が混同されていて、事実と異なる記載がある。
JpGU も AGU も投稿料に会員、非会員の区別はなく同一価格であるが、JpGU は非会員でも投稿発表できるのに対して、AGU は会員でないと投稿発表ができない。

上の文章は正しく書くと
連合と AGU とは MOU を結んでおり，連合の会員は AGU の大会に会員価格で参加できまた AGU の会員も連合大会に会員価格で参加できる．しかし現状，AGU の会員は連合会員でなくても、連合大会で発表することができるのに対して，連合の会員が AGU の大会で発表する際には､AGU 会員で無い場合は、発表することができない。
となる。

これを是正するには，AGU の会員が連合大会で発表する際に連合会員であることを要請することとなるが、JpGU では非会員でも大会会員として投稿発表ができるシステムであるので、AGU 会員だけを差別することは適切でないと考える。
なお 2017JointMeeting での AGU との打ち合わせでは、非会員の投稿があることは了解されている、とのことである。

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 26 年度第 7 回理事会議事録

１．開催日時　　平成 26 年 12 月 8 日（月）
　　午後 3 時 15 分から午後 6 時 30 分

２．開催場所　　東京大学理学部 1 号館 3 階　336 号室
　　（東京都文区本郷 7-3-1）

３．出席者　　理事数　　20 名
　　出席理事　　15 名　（定足数 11 名　会議成立）
　　オブザーバー 8 名

４．議　長　　理事　津田　敏隆

５．出席役員
　　理事　津田　敏隆
　　理事　川幡　穂高
　　理事　木村　学
　　理事　中村　正人
　　理事　北　和之
　　理事　高橋　幸弘（skype 出席）
　　理事　瀧上　豊
　　理事　田中　賢治
　　理事　成瀬　元
　　理事　西　弘嗣
　　理事　畠山　正恒
　　理事　浜野　洋三
　　理事　古村　孝志
　　理事　道林　克禎
　　理事　村山　泰啓
　　監事　北里 洋
　　監事　鈴木　善和
　　監事　松浦　充宏

６．出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント　佐々木　晶
大気水圏科学セクションプレジデント　中島　映至
固体地球科学セクションプレジデント　大谷　栄治
地球人間圏セクションバイスプレジデント　春山　成子
宇宙惑星科学セクション幹事　吉川　顕正

午後 3 時 15 分，理事の定数に足る出席があったので，会長津田敏隆は議長席に着き，理事会が成立することを宣言した．インターネット電話 skype を利用し，東京大学理学部 1 号館と北海道大学とで同時に会議に参加できるようにし，審議を確実に行うことができることを互いに確認した．審議に先立ち，木村学理事より報告事項として「学術の動向と学術会議報告」の提案があり，全会一致でこれを承認した．続いて，以下の議事について，逐次審議に入った．

７．報告事項

（1）学術の動向と学術会議報告　木村 学理事　北里 洋監事　資料 P.1

木村 学理事より学術の最新動向についての報告と学術会議の活動報告があった．学術会議は理科教育の見直しを進めている．これにあわせた地球惑星科学の教育についても検討していく必要がある．

また，国際科学会議による Future Earth に対し，学術会議全体で取り組んでいる．
第 23 期学術会議地球惑星科学委員会は，大久保 修平委員長，藤井 良一副委員長，高橋 桂子幹事，中村 尚幹事，木村 学委員，川口 淳一郎委員，山川 充夫委員の体制である．

北里 洋監事より，オープンアクセス e ジャーナルの動向について報告があった．欧米ではオープンアクセス化に対し国を挙げて取り組んでいる．日本は取り組みが遅れているが，科学技術振興機構，日本学術振興会，文部科学省が検討を始めている．

(2)委員会・セクション活動報告

（2-1）古村 孝志理事　職務報告　総務委員会活動報告　資料 P. 2-5

本年度の協賛等について報告があった．前回理事会以降，協賛を許諾したものが 1 件，またそれ以外に現在審議中のものが 3 件ある．

また，連合が用いる各用語の英語対応表を準備中である．総務委員会が作成した草案に対し意見を募っていた．当該委員会等で検討し決定したものもあるが，それ以外のものについては今週末を目途に再度意見を募集し，特に意見の無いものは総務委員会によって決定することとした．

（2-2）川幡 穂高理事　職務報告　ジャーナル編集委員会活動報告　資料 P. 6-18

ジャーナルの状況に関して報告があった．11 月 7 日に日本学術振興会による実地検査が

あった．資料の整理もよく，合格との評価を得た．

11 月 19 日に第 5 回編集長会議を開催した．トムソン・ロイターWeb of Science の登録準備を進めている．AGU や EGU をはじめ，各地より推薦状を貰い受けた．しかしさらなる論文出版数を確保してからの登録が望ましいため，SPRINGER 本社の Web of Science の登録申請担当者のコメントを尊重し，時期の見直しを検討した．また来年度の編集体制について，検討した．

（2-3）浜野 洋三理事　高橋 幸弘理事　職務報告　大会運営委員会活動報告　資料 P.19-25

2015 年の大会準備状況について報告があった．セッション提案が締切となり，プログラム委員による調整の末，セッションが確定した．特にユニオンセッションについては，本年から採択を厳選することとした．理事会として，ユニオンセッションを承認した．この後セッションデータの修正を待ち，web での一般公開となる．

高橋理事より，e-Poster の試験的実施について説明があった．e-Poster はインターネット電話やデジタルサイネージを用いて，日本へ渡航せずに行えるポスター発表である．2015 年大会では試験的な実施とし，試験に参加するセッションを募る．

また，2016 年以降の連合大会の準備状況についても報告があった．2016 年については，会期の前半３日間しか APA ホテルに空きが無く，2017 年については予定会期とは一週間ずれた 5 月 27 日からとなる．この問題については幕張メッセおよび APA ホテル側と調整中である．

(2-4) 高橋 幸弘理事　職務報告　キャリア支援・男女共同参画委員会活動報告

キャリア支援委員会および男女共同参画委員会の活動について報告があった.12 月 3 日，4 日の国立極地研究所シンポジウムにあわせ，キャリア支援委員会、男女共同参画委員会が主催となって「JpGU 若手研究者のためのミニ就活シンポ」を開催した．キャリア支援委員会坂野井和代副委員長，株式会社アカリク長井裕樹氏による講演を行った．

また，このシンポジウムの結果を踏まえ，2015 年大会では坂野井和代副委員長がコンビーナを務めるパブリックセッション「研究者の多様なキャリア形成を考える」を開催する．

(2-5) 村山 泰啓理事　職務報告　情報システム委員会活動報告

情報システム委員会の活動について報告があった．一斉メールシステムに障害があり，システム会社のサーバ変更後，一部の会員にメールニュースが届かないとう現象が起こっている．一部のエラーについては解決済みであるが，不明瞭な点が残っているものもあるため，引き続き調査，対応する．

(2-6) 中村 正人理事　成瀬 元理事　職務報告　顕彰委員会活動報告　資料 P.26-37

顕彰委員会ならびに顕彰関連の活動について報告があった．前回第 6 回理事会にて顕彰委員会の設置が承認されたことを受け，委員の推薦を募った．

2015 年度フェロー候補者の募集を引き続き行っている．また 2014 年度地球惑星科学振興西田賞の候補者についても募集を行っている．

推薦依頼のあった，日立環境賞について，候補者の募集を募ったところ，１名の推薦があった．理事会として，顕彰委員会の判断を支持することとなったため，顕彰委員会が推薦を決定する．ただし，候補者の申請書類に，既存の研究についての言及があるほうが望ましいとの提案があり，顕彰委員会より候補者に依頼をすることとなった．

学生優秀発表賞審査小委員会の委員も，前回第 6 回理事会での設置以降検討した．これまでセクションからの代表として実務に当たっていた，佐々木 晶プレジデント（宇宙惑星科学），田中 博会員（大気水圏科学），須貝 俊彦幹事（地球人間圏科学），成瀬 元理事（固体地球科学），北村 晃寿会員（地球生命科学）に決定した．

なお，顕彰関連として，地球惑星科学振興西田賞審査委員会についても活動報告があった．11 月 25 日に第 1 回委員会を開催し，審査の方法などを議論した．

(2-7) 木村 学理事　職務報告　グローバル戦略委員会活動報告　資料 P. 38-39

グローバル戦略委員会について活動報告があった．12 月 2 日にグローバル戦略委員会会議が行われた．

(2-8) 大谷 栄治プレジデント　固体地球科学セクション活動報告　資料 P. 41-47

固体地球科学セクションの活動について報告があった．本年 8 月，SEDI のシンポジウムを開催した．固体地球科学セクションとしてフォーカスグループを作りこれにあたった．

固体地球科学セクションの web を充実させている．セクションのニュースやフォーカスグループ，大会でのセッションなど，さまざまな情報を載せている．

また，セクションボードを増強し新たなボードメンバーを迎えた．今後もフォーカスグループやボードの更なる増強を計画している．

８．審議事項

第 1 号議案　会員（正会員）入会承認の件（古村 孝志理事）資料 P.48-49

定款第８条２項の会員の入会の定めに従い，新規入会者の入会を承認した．

第 2 号議案　委員会委員承認の件　（古村 孝志理事）資料 P. 50

顕彰委員会委員として，中村 正人理事，成瀬 元理事，諸田 智克会員，渡部 重十会員，飯田 真一会員，田中 博会員，奥村 晃史理事，須貝 俊彦会員，ウォリス サイモン理事，

川勝 均会員，磯崎 行雄会員，真鍋 真会員の計 12 名を，キャリア支援委員会委員として，杉田 律子会員を，グローバル戦略委員会として，中村 尚会員を，教育検討委員会委員として川合 美千代会員，奥山 康子，小谷 亜由美会員，大園 真子会員，飯田 和明会員，熊原 康博会員の計 6 名を，それぞれ承認した．

第 3 号議案　委員の資格について　（高橋 幸弘理事）

連合の委員会委員を大学院生に委嘱する際の手続きについて審議した．定款 49 条や法人運営規則第 17 条など関連規則には，大学院生に委員を委嘱することを制限している規則はない．しかし学生という身分を考慮すると，指導教員等の許可を得たほうが望ましい．検討の上，大学院生に委員会委員を委嘱する際には，指導教員等の許可を示す書類を要請することとなった．書式等については高橋理事が雛形を準備する．

第 4 号議案　地球惑星科学振興西田賞規則改正の件　（中村 正人理事）資料 P.51-55

地球惑星科学振興西田賞規則の改正を以下の通り審議した．いずれも内容に抵触するものではなく，書類の内容や構成をよりわかりやすくするための文言修正である．

（趣旨）を第 1 条とし，以下順送りに訂正する．第 4 条を「選考対象は他薦または自薦による候補者とする。候補者は会員・非会員を問わない。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることができる。他薦の場合は推薦者１名が、自薦の場合は本人が、以下の内容が記載された推薦書類（任意書式）をもって会長に推薦するものとする。」とする．〔推薦書類の構成〕を挿入し，(4)を「推薦理由書（Ａ４で６ページ以内、日本語あるいは英語）自薦の場合は本人が、他薦の場合は推薦者が作成する。」と訂正する．(5)を「２通のサポートレター（自薦の場合は本人以外の２名、他薦の場合は推薦者以外の２名が、日本語あるいは英語により作成する。いずれの場合もサポートレターを作成する２名については会員・非会員を問わない。)」とする．

以上を審議し，満場一致で承認した．

第 5 号議案　平成 27 年度事業計画について　（古村 孝志理事）資料別添

来年度の事業計画書の作成に向け，各委員会，セクションに事業計画の提出を求めた．予算申請時のもの及び本年度の文章を元に仮にまとめた草案が示され，これを元に更新し作成する．今後事務局と総務委員会が取りまとめる．

第 6 号議案　平成 27 年度予算について　（北 和之理事）資料別添

平成 27 年度の予算計画について，検討中の予算案を確認した．予想される収支について確認した．検討中の予算案を踏まえ，最終予算作成まで財務委員会により検討することとなった．

第 7 号議案　大会における AGU 会員の取り扱いについて　（木村 学理事）資料 P.56

連合と AGU とは MOU を結んでおり，連合の会員は AGU の大会に会員価格で参加できまた AGU の会員も連合大会に会員価格で参加できる．しかし現状，AGU の会員は連合会員でなくても､連合大会で発表する際に会員価格が適用されるのに対し､連合の会員が AGU の大会で発表する際には､AGU 会員で無い場合は､非会員価格となる．これを是正し，AGU の会員が連合大会で発表（筆頭著者もしくは筆頭セッションコンビーナ）する際に，会員価格を適用するためには、連合会員である必要がある，という運用とすることを審議し，承認した．

第 8 号議案　AGU との会議について　（木村 学理事）資料 P.57　および別紙

15 日に予定されている AGU との会議について，議論した．2017 年大会でのジョイントミーティング実現に向けた条件等の折衝に向け，AGU 側の要求について検討した．

100,000 ドルおよび旅費 20,000 ドルが要求されているが，その内訳の提出を依頼し，吟味する必要がある．支払いについては公益社団法人として問題のないよう，関連法規に則った条件の下での契約とするように準備することを AGU に伝える．旅費については実費での支払いとする．以上の条件で AGU と交渉する．ただしこの会議においては，グローバル委員会に交渉を一任する．

第 9 号議案　その他　（瀧上 豊理事）

2016 年の地学オリンピック第 10 回日本大会について，寄付金（協賛金）の募集を受け付けていることが説明され、連合からの支援について要請があった．2015 年 3 月までに文部科学省に寄付金を報告する必要があるため，2015 年度または 2016 年度の予算に組み込んで欲しい．引き続き審議することとした．

平成 26 年 12 月 8 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合　第 7 回理事会

平成 26 年度

事業報告書(案)

自　平成 26 年 4 月 1 日

至　平成 27 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星惑星科学連合

〒113-0032　東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080　　Fax：03-6914-2088

平成26年度　事　業　報　告　書

公益社団法人第4期（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

公益社団法人日本地球惑星科学連合が定款に定める事業の概要は以下の通りである。

１．学術大会にかかわる事業
（１）学術大会（地球惑星科学連合大会）の開催　［定款第５条（１)］
（２）公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催　［定款第５条（１)、(２)］
（３）地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示　［定款第５条（２)］
（４）地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布　［定款第５条（７)］

２．学術推進にかかわる事業
（１）学術雑誌等の出版　［定款第５条（２)］
（２）国際連携事業　［定款第５条（４)］
（３）サイエンスボード活動　［定款第５条（３）（６)］
（４）各種委員会活動　［定款第５条（１）～（７)］

３．普及にかかわる事業
（１）広報・普及誌発行事業　［定款第５条（２)］
（２）ウエッブ、メールニュースを活用した広報・普及事業　［定款第５条（２)］
（３）一般公開セミナーの展開　［定款第５条（２)］
（４）公開授業、公開セッションの開催　［定款第５条（２)］
（５）各種サイエンスプログラムへの講師派遣、紹介　［定款第５条（２)］

４．教育・キャリア支援・社会還元等にかかわる事業
（１）国際地学オリンピック活動支援　［定款第５条（２)］
（２）地理オリンピック活動支援　［定款第５条（２)］
（３）教育問題対応事業　［定款第５条（２)］
（４）教員免許更新講習会の開催準備　［定款第５条（２）］
（５）連合大会における「学生優秀発表」の表彰［定款第５条（１）］
（６）男女共同参画事業　［定款第５条（６）］
（７）キャリア支援事業　［定款第５条（６）］
（８）自然災害（風水害、地震、火山、津波、環境）対応［定款第５条（５）］

以下に、個別の事業の状況について述べる。

Ⅰ．事業の状況

１．学術大会にかかわる事業

（１）学術大会（地球惑星科学連合大会）の開催　［定款第５条（１）］

地球惑星科学の一層の発展に寄与することを目的とし、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象に、公開で学術大会を開催し、学術講演、ポスター発表による関連分野の研究発表、情報交換の場を設けることを目的として、日本地球惑星科学連合大会（以下、「連合大会」という。）を開催した。連合大会の開催に関連して、講演募集、プログラム編成、ユニオン・パブリックセッションの設定、アウトリーチプログラムの企画等、に関わる事業を行った。

日本地球惑星科学連合 2014 年大会（Japan Geoscience Union Meeting 2014）

会　期：2014 年 4 月 28 日（月）～5 月 2 日（金）

場　所：パシフィコ横浜 会議センター（〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1）

大会委員長：大路樹生（名古屋大学博物館　学協会長会議議長　）

主　催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

後　援：45 団体

協　賛：日本サンゴ礁学会、日本高圧力学会、日本天文学会

開催セッション数：193

（参考：過去開催セッション数、2013 年 180、2012 年 177、2011 年 174、2010 年 167）

セッションカテゴリー	開催数	(*国際)
U: ユニオン	10	(*2)
O: パブリック	7	(*1)
P: 宇宙惑星科学	29	(*11)
A: 大気水圏科学	24	(*7)
H: 地球人間圏科学	25	(*8)
S: 固体地球科学	58	(*10)
B: 地球生命科学	9	(*2)
G: 教育アウトリーチ	5	(*1)
M: 学際・広領域	26	(*1)
計	193	(*42)

※(*) 国際セッション数：43

（過去国際セッション数：2013 年 43、2012 年 42、2011 年 41、2010 年 32）

発表論文数：3806 件

（参考：過去発表論文数、2013 年 3980 件、2012 年 3876 件、2011 年 4044 件、2010 年 3686 件）

口頭発表	2428 件	(2013 年 2226 件、2012 年 1975 件、2011 年 2354 件)
ポスター	1378 件	(2013 年 1754 件、2012 年 1901 件、2011 年 1690 件)

参加者数：7046 名

（参考：過去大会参加者数、2013 年 6824 名、2012 年 7318 名、2011 年 5809 名）

事前参加登録者数：3811 名

参加登録区分：全日程 3167 名、1 日券 644 名

所属内訳：一般 2693 名、小中高教員 33 名、大学院生 936 名、シニア 55 名、
学部生 91 名、高校生 3 名

当日参加登録者数：1376 名

参加登録区分：全日程 734 名、1 日券 642

所属内訳：一般 605 名、小中高教員 7 名、大学院生 196 名、シニア 6 名、
学部生以下 501 名

同伴者：27 名

総合案内来場者数：1832 名

所属内訳：一般 325 名、小中高教員 21 名、シニア 6 名、学部生以下 192 名、
高校生発表 258 名、ジオパーク 432 名、プレス 148 名、会合参加者 147 名、
出展関係者 303 名

（2）公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催 ［定款第５条（１）、（２）］

連合大会において、高校生を対象とした公開プログラム「高校生によるポスター発表」を開催し、高校生の研究成果発表に対して研究者や一般の参加者が聴講し意見交換を行ない、また優秀発表を表彰した。この活動に必要な募集活動、プログラム作成等、開催に必要な作業等を実施した。

開催日：2014 年 4 月 29 日（火･祝）

場　所：パシフィコ横浜会議センター

主　催：公益社団法人日本地球惑星科学連合　広報普及委員会
責任者　原　辰彦（独立行政法人建築研究所、広報普及員会副委員長）

後　援：千葉県教育委員会、千葉市教育委員会

発表数：71 件

参加者数：258 名　（発表高校生 193、他参加者 47）

参加高校：43 校

愛知県立一宮高等学校、 茨城県立並木中等教育学校、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪府立春日丘高等学校定時制の課程、岡山県立岡山朝日高等学校、岡山県立津山高等学校、沖縄県立球陽高等学校、海城中学高等学校、鹿児島県立錦江湾高等学校、神奈川県立西湘高等学校、京都府立桃山高等学校、京都府立洛東高等学校、群馬県立太田女子高等学校、群馬県立中之条高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、埼玉県立浦和高等学校、埼玉県立深谷第一高等学校、栄東高等学校、佐野日本大学高等学校、山陽女子高等学校、滋賀県立米原高等学校、静岡県立磐田南高等学校、成蹊高等学校、千葉県立長生高等学校、東京学芸大学附属高等学校、東京都立多摩科学技術高等学校、東京都立戸山高等学校、東京都立府中工業高校、土佐塾中学・高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、長野県飯山北高等学校、長野県諏訪清陵高等学校、長野県屋代高等学校、那須高原海城高等学校、東筑紫学園高等学校、兵庫

県立加古川東校等学校、兵庫県立三田祥雲館、福井県立藤島高等学校、福島県立磐城高等学校、北海道札幌開成高等学校、宮城県古川黎明高等学校、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

表彰発表：

・最優秀賞（1 件）

滋賀県立米原高等学校　『太陽活動と紫外線強度の関係２』

・優秀賞（3 件）

愛知県立一宮高等学校　『“光害”の影響調査』

長野県飯山北高等学校　『野沢温泉における沈殿物防止法の研究』

東京学芸大学附属高等学校　『千葉県市宿（いちじゅく）層から産出したマイルカ科化石について』

・奨励賞（7 件）

鹿児島県立錦江湾高等学校『桜島の降灰量測定器の開発』

大阪府立春日丘高等学校　定時制の課程『反磁性磁化率をはかる～永久磁石を使用し磁場勾配力と重力とを直交させた測定法 ～』

東筑紫学園高等学校『夜空の明るさについて 2002～2014』

鳥取県立鳥取東高等学校『鳴砂の研究－鳥取砂丘の砂を鳴らそう－

北海道札幌開成高等学校『有珠火山 NB 火口の地熱測定』

群馬県立前橋女子高等学校『月の色の不思議～なぜ､月の色は昼間は白っぽく､夜は黄色っぽく見えるのか』

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校『宮崎で観測されたオーロラの謎を解く』

（3）地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示　［定款第５条（２）］

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者らのみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設けた。これらの紹介・展示に関わる募集活動、展示準備作業等を行った。

団体展示：60 ブース（2013 年 63、2012 年 43、2011 年 44）

大学インフォメーションパネル：17 ブース（2013 年 11、2012 年 13、2011 年 11、2010 年 10）

関係者入場者数：303 名

（4）地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布［定款第５条（７）］

毎年、多数の地球惑星科学に関連する書籍、資料が公刊されているが、それらに対するアクセスは必ずしも容易ではないことから、連合大会の折に、これらを多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々に利用促進をはかった。これらの活動に必要な手配や現場での作業を行った。

書籍出版(関連商品)：27 ブース（2013 年 25、2012 年 29、2011 年 26、2010 年 26）

学協会エリア：個別デスク 10 机(2013 年 9、2012 年 10、2011 年 10、2010 年 12)

パンフレットデスク展示：7 机(2013 年 10、2012 年 8、2011 年 11、2010 年 9)

２．学術推進にかかわる事業

（１）学術雑誌等の出版 ［定款第５条（２）］

国際情報発信力強化を目的に、地球惑星科学的現象を分野横断的かつ多角的に解析した内容などを議論する場として、連合の新規オープン・アクセス（OA）電子ジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science（PEPS)」を 2014 年に SPRINGER 社より創刊した。ジャーナル出版のための委員会、及びジャーナル出版事務局を中心に事業を遂行した。

日本学術振興会から科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を獲得し、専用ホームページの拡張と投稿システムの改善を実施し、「Progress in Earth and Planetary Science（PEPS)」の宣伝を海外で開催された学会においても行い、随時投稿を受付した。8 月には投稿・査読システムを Editorial Manager へ移行し、改善するとともに、マニュアル整備を行い、より効率的で使いやすい投稿・編集環境を整備した。また、剽窃対策への積極的な取組として、全投稿論文に対して剽窃・盗用検知ツール CrossCheck を利用したチェックを実施している。

優れた論文投稿を促進する施策として、①地球惑星科学の知識などを整理したレビュー（総論）のための国際シンポジウムのサポート、②注目のテーマの論文投稿を呼びかける SPEPS（SPecial call for Excellent Papers on hot topicS）の立ち上げ、③2014 年連合大会発表の中からコンビーナー推薦の優秀発表への投稿依頼等を行った。また、出版論文の閲覧・引用を促すために、各論文を一ページで紹介するハイライトページをホームページ上に掲載し、国立国会図書館への献本を行った。また、論文の査読進捗状況を細かくフォローする事により、論文投稿から出版までの編集期間短縮に取組んだ。この結果、12 月までの投稿論文数 72 本、出版論文数 25 本（内レビュー論文 6 本、平均ページ数約 18 ページ)、投稿から出版までに要する日数が約 190 日となった。

新ジャーナルを広く周知する取組として、AGU、AOGS などの国際会議へのブース出展やプログラムへの広告掲載、連合大会と連携した海外情報発信強化・引用促進のアピールサイトの運用を開始した。

（２）国際連携事業 ［定款第５条（４)］

我が国の地球惑星科学コミュニティを代表して、地球惑星科学に関する国際的な研究協力、交流の推進を図るために、ヨーロッパの EGU、米国の AGU、アジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力しながら、地球惑星科学の発展に資する活動を行い、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの支援等を行うための準備を進めた。EGU、AOGS とは、それぞれが主催する学術大会において共通のセッションを設け、互いに乗り入れて研究発表を行った。また、海外で開催される関連学会において、ブースを設置し、日本国内で得られた成果に関する広報、資料頒布等の海外学会展示事業を実施した。国際化アドバイザーとして、末廣潔を事務局に雇用した。

・AOGS Annual Meeting 2014 ブース出展

日程：2014 年 7 月 28 日（月）～8 月 1 日（金）

会場：札幌、日本

・AGU Fall Meeting 2014 ブース出展

日程：2014 年 12 月 15 日（月）～19 日（金）

会場：サンフランシスコ、アメリカ合衆国

・7 月 15 日（火）・16 日（水）、会長・副会長からなる代表団を AGU 本部へ派遣し、今後の連携について会談し、2017 年大会共催を探ることとなった。

・12 月 15 日（月）、AGU 執行部との会合を行い、2017 大会共催に合意した。

・12 月 15 日（月）、NASA および JAXA 担当者との会合を行った。

（３）サイエンスボード活動［定款第５条（３）、（６）］

多様な分野を含む地球惑星科学を、一定の基準のもとにくくり、各々の分野の更なる発展をめざすサイエンスボードを組織し、個々のサイエンスを長期的な視点から、強力に支援する活動を推進した。

■宇宙惑星科学セクション

・2014 年 4 月 30 日（水）19:00-20:40　パシフィコ横浜 423 号室にて、新旧ボードミーティングを開催した。幹事として吉川顕正（九州大）、副プレジデントとして、高橋幸弘（北大）、中村昭子（神戸大）を選出した。さらに新たに加わっていただくメンバーを選び、最終的には、選挙で選ばれた代議員 15 名を含む 25 名をセクションボードメンバーとした。

・連合大会では、地球惑星科学トップセミナーの講演者として、コロラド大学の Daniel N. Baker 氏を招聘して、講演をいただいた。

・本年度の連合大会から他セクションに並び学生優秀発表賞表彰に参加した。116 件の審査対象から最終的に 12 件を選んだ。審査の過程では、92 名の会員に審査員として協力していただいた。平成 27 年度も継続して学生賞表彰に参加する。

・2015 年大会に向けて国際セッションを維持拡大する努力をするとともに、「International Collaboration in Space and Planetary Sciences: 宇宙惑星科学における国際協力」というセッション提案をセクションボードから行った。

■大気水圏科学セクション

・2014 年 4 月 29 日（火）パシフィコ横浜にて、ボードミーティングを開催した。

・メーリングリスト等を用いてボードメンバー間にて、2014 年連合大会学生優秀発表賞選出（4～5 月）、ハイライト論文の選出（4 月）、パンフレット英語バージョンの原稿作成（5 月）、2015 年連合大会プログラム委員選出（7 月）、地球惑星科学振興西田賞審査委員候補推薦（8～10 月）等を行った。

・連合大会におけるスペシャルレクチャー及び国際セッションでの招待講演のため NASA の研究者を招聘した。

・趣旨に賛同した学協会と共同で、地球観測衛星の利用コミュニティー（TF コミュニティ）の活動を行った。TF コミュニティとして我が国の地球観測の今後の進め方について議論を進めた。

・福島原発関係のシンポジウム（1 月）及び陸水分野 Letter 誌に関するワークショップ（2 月）の開催を支援した。

■地球人間圏科学セクション

・2014 年 4 月 30 日（水）パシフィコ横浜 244 号室にてボードミーティングを開催した。

・学生優秀発表賞の選考と表彰を実施した。

・連合大会におけるユニオンセッション、特に「Future Earth -持続可能な地球へ向けた統合的研究」(U-07) と「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」(U-08) に積極的に関わった。他にも Future Earth 計画と統合的防災・災害研究の推進および関連する一般市民向け活動や教育活動等にも積極的に取り組んだ。

・メーリングリスト等を用いて Future Earth、シンポジウム等について頻繁に議論し、また情報発信をした。

・ジャーナル特別国際セッションにより Eduardo de Mulder 教授の連合大会への招聘を実現し、大きな成果を上げた。

・2014 年 7 月 28 日（月）～8 月 1 日（金）に札幌で開催された AOGS 大会運営・活動に積極的に関わった。特に連合大会の Future Earth セッションと AOGS の Future Earth セッションのジョイントセッションとしての開催を実現したほか、セクションプレジデントが基調講演をした。

・日本学術会議地球惑星科学委員会地球人間圏分科会主催、日本地球惑星科学連合ほか協賛の公開シンポジウム「東日本大震災を教訓とした安全安心で持続可能な社会の形成に向けて」（2014 年 9 月 7 日（日）に日本学術会議講堂にて開催）をコーディネートした。

・2015 年 7 月 27 日（月）～8 月 2 日（日）に名古屋で開催される INQUA Congress 2015 の準備を支援した。

■固体地球科学セクション

・2014 年 1 月～3 月、5 月のボードミーティングに向けて、事業内容を議論した。

・固体地球科学セクションのＨＰを充実させた。ＨＰを更新する広報担当者を決定した。

・セクション内部の構造、セクションの褒章制度についてのメーリングリストにもとづいて、議論を行った。

・メーリングリスト等を用いてボードメンバー間にて、2014 年大会の学生賞（4 月～6 月）、ハイライト論文（2014 年 4 月）の選出をおこなった。

・2013 年 10 月　固体地球科学セクションのホームページの改訂を行い、内容を充実させた。随時、連合固体地球科学セクション関係者への公募情報などをＷＥＢに掲載し発信した。

・固体地球科学セクションの褒賞制度を検討するワーキンググループを設置し、可能な褒賞の案、褒賞の選考規定等の検討を行った。

・連合の新英文誌 PEPS のレビュー論文の適切なトピックスと執筆候補者を検討した。適切な候補者に執筆を依頼し、原稿の投稿を依頼した。

・2015 年大会へ向けての提案すべきセッション（9～12 月）、学生賞、スペシャルレクチャー講師を検討。

・セクションの内部構造として地球深部科学フォーカスグループを設置し田中聡博士を委員長とし、数名のメンバーを決定した。フォーカスグループの ML を立ち上げたところ、39 名が参加した。

・このフォーカスグループの事業として、2014 年度 8 月に連合の共催で SEDI 国際会議を開催した。

■地球生命科学セクション

・ボードメンバー＋代議員のメール審議によって、2014 年連合大会のハイライト論文を選考した（2014 年 4 月)。

・2014 年連合大会における高校生セッションの審査委員候補の推薦を行った（4 月)。

・2014 年連合大会会期中にボードのビジネスミーティングを開き、役割分担を決め、年間の事業計画について確認した（4 月)。

・2014 年連合大会の学生優秀発表賞の審査を行った（5 月)。

・2015 年連合大会プログラム委員長に鈴木庸平氏を推薦した（5 月)。

・連合の英語パンフレットの内容を検討・確認した（7 月)。

・AOGS2014 に Biogeoscience session を企画し、セクションから山本正伸氏を支援した(8 月)。

・地球惑星科学振興西田賞審査委員候補者を推薦した（8 月)。

・2015 年連合大会のセッション提案ならびにセッションの国際化の呼びかけを行った（9 月～10 月)。

・顕彰委員会委員を選出した（11 月)。

・地球生命科学セクションからグローバル戦略委員会宛てにシンポジウムでの keynote speaker の推薦を行った（12 月)。

・AGU2014 のブースで「日本の次世代のプロジェクト」を紹介した（12 月)。

・新規ユニオンセッションの提案「地球惑星生命フロンティア開拓」の開催についてセクションから推挙した（12 月)。

・EGU-JpGU 共同開催セッションの欧州側代表の Gioanni Aoisi (UPMC)氏を日本で行われるワークショップに基調講演者として招聘し、今後の EGU 側との連携について併せて議論した(1 月)。

（4）各種委員会活動 ［定款第５条（１）～（7)］

理事会の取り決めにより委員会を組織して、各種事業を進めた。

■総務委員会

・公益事業の変更認定申請を公益認定等委員会に行ない、承認を受けた。

・公益社団法人の円滑な運営に向けて諸規則の制定を行った。

・総会資料と理事会開催資料を事務局との協働により行った。

・共催、協賛、後援等の外部折衝と理事会への照会を行った

・事務局の運営に関して監修と助言を行った。

■財務委員会

・2015 年 1 月 28 日(水)10:00～13:00 連合事務局にて委員会を開催した。

・平成 26 年度決算書、平成 27 年度予算書を策定した。

■広報普及委員会

・2014 年連合大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」を開催した。
・「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信を行った。
・2014 年 12 月 26 日（金）東京大学本郷キャンパスにて「日本地球惑星科学連合高校生のための冬休み講座 2014」を開催した。映像を記録して動画配信を行った。
・ニュースレター誌ＪＧＬを年間 4 号発行し、会員のほか加盟学協会、高等学校、関連企業等に配布のほか、pdf を連合 Web に掲載した。
・メールニュース定期号を年間 12 件、臨時号を年間約 20 件程度発信した。
・連合ウェブで連合の活動や関連トピックスを画像ニュースとして公開した。
・連合ウェブで多様なお知らせやニュース等の情報発信を行った。
・その他、連合の活動及び地球惑星科学分野での最新トピックスや学術会議の活動をコミュニティ内外に迅速に伝えるための活動を行った。

■環境災害対応委員会
・2014 年連合大会において、ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」を開催した。
・2014 年 4 月 30 日（木）パシフィコ横浜会議センター423 号室にて委員会を開催した。
・委員会ホームページ（http://www2.jpgu.org/n-dis/）に過去の議事録やセッション報告を掲載した。
・2015 年 2 月 10 日（火）東京大学理学部 1 号館 739 号室にて委員会を開催した。

■男女共同参画委員会
・2014 年 1～5 月キャリア支援委員会と連携して、第 5 回キャリアパスアンケートを実施した。また、第 1～4 回のアンケート結果報告を連合大会会場で配布し、ウェブに掲載した（http://www.jpgu.org/index/about/career.html）。
・2014 年 3 月～2015 年 3 月男女共同参画学協会連絡会の運営委員会（全 5 回）に出席。
・2014 年 4 月 29 日（火・祝）2014 年連合大会の期間中に、パブリックセッション「地球惑星科学系研究者のワークライフバランスとキャリア形成」（9:00～12:45）と委員会（13:00～14:00）を開催した。
・2014 年 8 月 7 日（木）～9 日（土）JST の支援事業で、（独）国立女性教育会館が主催の「女子中高生夏の学校 2014～科学・技術・人との出会い～」に参加し、実験、ポスター、国際交流、の各カテゴリーに出展・協力した。実験は「Dr.ナダレンジャーの自然災害のサイエンスショー」、ポスター展示「マクロな世界もミクロから～顕微鏡で見る岩石鉱物～」（参加者投票で第 2 位を獲得）、国際交流では「理工系進路選択についての考え方 - 海外と日本での認識の違い」を担当した。また、関連学協会からは、地球電磁気・地球惑星圏学会（SGEPSS）と日本地形学連合（JGU）が参加した。
・2014 年 10 月 4 日（土）東京大学駒場キャンパスにて開催された「男女共同参画学協会連絡会第 12 回シンポジウム」にポスター参加した。
・2015 年 1 月～　キャリア支援委員会と連携して、第 6 回キャリアパスアンケートを実施中で

ある。

■キャリア支援委員会

・2014 年 1 月～5 月に第 4 回キャリアパスアンケートを全会員を対象に実施し、1523 名より回答を得て、速報結果を連合大会次にチラシにて配布した。
・2014 年 5 月 1 日（木）に連合大会会場にて、キャリア支援委員会を開催し、平成 25 年度の活動報告・決算報告ならびに平成 26 年度の活動予定・予算について審議を行った。
・2014 年連合大会期間中「進路相談ブース」を設置し、大学、研究機関、科学館、マスコミから 5 名の協力を得て、進路についての相談と情報提供を行った。
・2014 年 12 月 3 日（水）および 4 日（木）に国立極地研究所において、「JpGU 若手研究者のためのミニ就活シンポ」をキャリア支援委員会と男女共同参画委員会の主催で開催した。キャリアパスアンケート結果や進路相談ブースでの質問などを紹介し、株式会社アカリクの長井裕樹執行役員から「博士のキャリア構築、就職活動を考える　～産業界の視点を踏まえて～」という講演を行っていただいた。

■教育問題検討委員会

・2014 年 4 月 13 日（日）日本地球惑星科学連合の大会開催企画として横浜市との共催事業「次世代育成コラボレーション授業」を実施した。テーマは「深海コア～地球の謎に迫る～」で慶應義塾高等学校にて開催し、中高生 123 名が参加した。
・2014 年 4 月 29 日（火）パシフィコ横浜 503 号室にてパブリックセッション「次期学習指導要領における高校地学教育のあり方」を開催した。
・2014 年 4 月 29 日（火）パシフィコ横浜 422 号室にて委員会を開催した。
・2014 年 4 月 29 日（火）パシフィコ横浜 503 号室にてパブリックセッション「防災教育－災害を乗り越えるために私達が子ども達に教えること 3」を開催した。
・2015 年連合大会において、パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」と題する喫緊の重要課題に関するセッション開催提案を行った。

■情報システム委員会

・2014 年大会システムについては、投稿画面での特殊文字登録の簡略化、5 セクションでの学生優秀発表賞実施に伴う選択メニュー追加、プログラム編成システムの完全英語化、確認メールでの ID、パスワード送信分離など他の改修を行った。
・2014 年 11 月 4 日（火）アジアで初めて行われた ORCID Outreach meeting（国立情報学研究所、東京）において、当連合の MyJpGU ページ活動等における事業内容と国際的な研究者識別事業連携について活動報告した。
・2015 年 1 月 16 日（金）学会センタービルにて委員会を開催し、地球惑星科学における SNS、研究者識別子事業 ORCID などの有効活用の議論を行うとともに、業者によるプレゼンテーションを通じて新たな情報を収集した。
・MyJpGU に研究業績一括ダウンロード機能を追加し、ORCID API のバージョンアップ対応を施した。

■ジャーナル企画経営委員会

・2014 年 4 月 15 日（月）メール会議にてジャーナル企画経営委員会を開催、繰越予算についての報告、ジャーナル特別シンポジウムの議論および採択を行った。
・2014 年 5 月 26 日（日）メール会議にてジャーナル企画経営委員会を開催、平成 25 年度会計報告、平成 26 年度実行計画及び編集長会議議事と登録商標について報告した。
・2014 年 11 月 11 日（月）メール会議にてジャーナル企画経営委員会を開催、JSPS 実地調査及び特別セッションの成果の報告、2015 年連合大会ジャーナル特別国際セッション提案の採択について検討し、採択された提案者に速やかに通知した。

■ジャーナル編集委員会

・2014 年 4 月 9 日（木）日本橋オフィス東京にて編集長会議を開催、編集体制、改善点等を検討し、H26 年度の全体編集委員会議の日程を決定した。
・2014 年 5 月 20 日（火）フクラシア品川において編集長会議を開催、投稿状況と問題点の確認、英文校閲会社の検討、新投稿・査読システム EM 移行について Springer から説明を受けた。
・2014 年 5 月 20 日（火）フクラシア品川において編集委員会議を開催（19 名参加）、現状及び平成 26 年度の計画について報告、合意事項・問題点の共有、セクション毎のグループ討議を行った。
・2014 年 7 月 2 日（水）TKP 品川コンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、EM への移行及び SPEPS 運用の詳細について検討。トムソン・ロイター（WOS）登録申請について報告した。
・2014 年 7 月 29 日（火）札幌芸文館ホテルにて編集委員会議を開催（17 名参加、内 2 名外国人）、現状報告、EM システムの紹介、投稿促進や PEPS の問題点について議論した。年内 25 論文の出版を目標とすることで合意した。
・2014 年 9 月 19 日（金）浜松町 WTC コンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、EM 移行及び SPEPS スタート後の問題点、剽窃対策、論文投稿促進について検討した。
・2014 年 11 月 19 日（水）浜松町 WTC コンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、進捗状況の確認、EM の問題点と出版までの期間短縮、トムソン・ロイター（WOS）登録申請等について検討した。
・2015 年 1 月 22 日（木）浜松町 WTC コンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、進捗状況の確認、引用促進対策等について検討した。

■大会運営委員会

・2014 年地球惑星科学連合大会を開催した。
・2014 年 6 月 30 日（月）事務局（学会センタービル）にてプログラム会議を開催した。
・2014 年 8 月 25 日（月）東京大学理学部 1 号館にて委員会を開催した。
・2014 年 11 月 14 日（金）東京大学理学部 1 号館にてプログラム編成会議を開催した。

■グローバル戦略委員会

・2014 年 6 月 20 日（金）「貸会議室プラザ」（東京都）にて委員会を開催した。
・2014 年 9 月 9 日（火）東京大学理学部 1 号館にて委員会を開催した。
・2014 年 10 月 24 日（金）東京大学理学部 1 号館にて委員会を開催した。
・2014 年 12 月 2 日（火）東京大学理学部 1 号館にて委員会を開催した。
・2015 年 1 月 20 日（火）学会センタービル（東京都）にて委員会を開催した。
・AGU や AOGS 等の連携海外組織の大会にブースを出展し、本連合や加盟学協会の活動紹介を行った。ブース出展時にあわせて、意見交換の場を設定した。
・2016 年および 2017 年大会の AGU との連携に向け、AGU と協議を続けた。
　2014 年 7 月 16 日（水）JpGU-AGU 会合
　2014 年 12 月 5 日（金）JpGU-AGU 会合
　2014 年 12 月 15 日（月）JpGU-AGU 会合
・2015 年大会での企画に向け、NASA および JAXA 担当者との協議を続けた。
　2014 年 12 月 15 日（月）NASA および JAXA 担当者との会合

■顕彰委員会

・メーリングリスト等を用いて委員会ボードメンバー間にて顕彰関連の事案について検討を行った。
・学生優秀発表賞小委員会を顕彰委員会の中に設置した。

■フェロー審査委員会

・2014 年 12 月 31 日（水）を締切として、2015 年日本地球惑星科学連合フェローの候補者募集を行った。
・2015 年 1 月 13 日（火）学会センタービルにて委員会を開催し、フェロー候補者の審査を行った。

■地球惑星科学振興西田賞審査委員会

・2014 年 12 月 15 日（月）を締切として、2015 年地球惑星科学振興西田賞の候補者募集を行った。
・2014 年 11 月 25 日（火）学会センタービルにて委員会を開催し、西田賞候補者の審査を行った。
・2014 年 12 月 29 日（月）学会センタービルにて委員会を開催し、西田賞候補者の審査を行った。
・2015 年 1 月 26 日（月）学会センタービルにて委員会を開催し、西田賞候補者の審査を行った。
・2015 年 2 月 23 日（月）学会センタービルにて委員会を開催し、西田賞候補者の審査を行った。

■25 周年記念事業実行委員会　（旧名称：25 周年記念事業準備委員会）

・名称を 25 周年記念事業準備委員会から 25 周年記念事業実行委員会へ変更した。

・2014 年度大会期間中に記念式典を開催した。またこの記念式典の一部として第 1 回フェロー表彰式を行った。

３．普及にかかわる事業

（１）広報・普及誌発行事業 ［定款第５条（２）］

研究の推進から得られた科学的成果を広く社会一般に広報し、普及することを目的とするアウトリーチ誌「JGL」を昨年同様に年間４号定期発行した。ニュースレター（ＪＧＬ）の発行日、部数は以下のとおりである

。

発行日	No	発行部数
平成 26 年　5 月 1 日	Vol.10　No.2	30,000 部
平成 26 年　8 月 1 日	Vol.10　No.3	26,000 部
平成 26 年　11 月 1 日	Vol.10　No.4	26,000 部
平成 27 年　2 月 1 日	Vol.11　No.1	26,000 部

（２）ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業 ［定款第５条（２）］

連合ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連する各種ニュースとともに、国内外の学会、シンポジウム、研究集会、公開イベントの情報や、求人・公募情報等を配信した。今期は、基幹となるウェブシステムを新たに整備するとともに、毎月、定期的にメールニュースを発刊した。

発行日	No	種類
平成 26 年 4 月 1 日	No.200	臨時号
平成 26 年 4 月 10 日	No.201	定期 04 月号
平成 26 年 4 月 15 日	No.202	臨時号
平成 26 年 4 月 25 日	No.204	臨時号
平成 26 年 5 月 12 日	No.205	定期 05 月号
平成 26 年 5 月 21 日	No.206	臨時号
平成 26 年 5 月 29 日	No.207	臨時号
平成 26 年 6 月 10 日	No.208	定期 06 月号
平成 26 年 7 月 10 日	No.209	定期 07 月号
平成 26 年 8 月 11 日	No.210	定期 08 月号
平成 26 年 9 月 1 日	No.211	臨時号
平成 26 年 9 月 10 日	No.212	定期 09 月号
平成 26 年 9 月 18 日	No.213	臨時号
平成 26 年 10 月 10 日	No.214	定期 10 月号
平成 26 年 10 月 16 日	No.215	臨時号
平成 26 年 10 月 22 日	No.216	臨時号
平成 26 年 11 月 10 日	No.217	定期 11 月号
平成 26 年 11 月 25 日	No.218	臨時号
平成 26 年 12 月 10 日	No.219	定期 12 月号
要追記		

（3）一般公開講演会の展開 ［定款第５条（２）］

社会に対する地球惑星科学関連の研究成果の広報・普及活動を通して、地球惑星科学の発展に資するとともに、安全・安心な社会の構築に寄与することを目的に、一般講演会を開催した。4～5 月の連合大会においてパブリックセッション「地球惑星科学トップセミナー」を開催するとともに、12 月には「日本地球惑星科学連合高校生のための冬休み講座 2014」を開催した。

1. 防災教育－災害を乗り越えるために私達が子ども達に教えること 3

2014 年 4 月 29 日（火・祝）09：00～12：45　パシフィコ横浜会議センター503 号室にて 6 講演が行われた。参加者数 120 名。

2. 次期学習指導要領における高校地学教育のあり方

2014 年 4 月 29 日（火・祝）14：15～18：00　パシフィコ横浜会議センター503 号室にて 6 講演が行われた。

3. 地球・惑星科学トップセミナー

2014 年 4 月 29 日（火）9:45～10：55　パシフィコ横浜国際会議場メインホールにて 3 講演が行われた。参加者数 250 名。

4. 地球惑星科学系研究者のワークライフバランスとキャリア形成

2014 年 4 月 29 日（火・祝）9：00～12：45　パシフィコ横浜会議センター313 号室にて 5 講演が行われた。参加者数 50 名。

5. 日本のジオパーク

2014 年 4 月 30 日（火・祝）9：00～19：30　パシフィコ横浜会議センター313 号室にてプレゼンテーション・公開審査が行われた。参加者数 550 名。

４．教育・キャリア支援・社会還元にかかわる事業

（1）国際地学オリンピック活動支援 ［定款第５条（２）］

国際地学オリンピックなどの国際的な活動を通じて、多くの高校生がサイエンスにより深く触れてもらう機会を提供することを目的に、地学オリンピック事業に関連する支援と活動を積極的に進めた。

・9 月 22 日から 28 日までスペインのサンタンデールで第 8 回国際地学オリンピック・スペイン大会が開催された。日本は金メダル３、銅メダル１の過去最高の成績であった。

・3 月 15 日から 17 日につくば市で開催される第 7 回日本地学オリンピック本選にて、「日本地球惑星科学連合賞」を設立し、本選で最優秀成績を獲得した女性に賞状ならびに記念品の授与を行い、参加高校生のモーティベーションの向上を図り、本活動への支援の強化を行った。

（2）国際地理オリンピック活動支援 ［定款第５条（２）］

国際地理オリンピックに関連する活動と支援を行なった。

・2014 年度は、国際地理学連合（IGU）の国際会議に合わせて 8 月 12 日から 8 月 18 日にかけて、クラクフ（ポーランド）及びその周辺で第 11 回国際地理オリンピックが開催された。日本の成績は、銀 1 であった。

・2015 年度は 8 月 10 日から 8 月 17 日にかけて、モスクワ近郊のトヴェリ（ロシア）及びその周辺にて第 12 回国際地理オリンピックが開催される予定であり、国内選抜が 1 月 10 日（第 1 次選抜）、2 月 22 日（第 2 次選抜）、3 月 15 日（第 3 次選抜）に行われた。

（3）教育問題対応事業 ［定款第５条（２）］

学校教育および社会教育における地球惑星科学に関わる諸問題に対し以下の活動を行った。

・2014 年 4 月 13 日日本地球惑星科学連合と横浜市共催の次世代育成コラボレーション授業 特別実習「深海コア～地球の謎に迫る～」を慶應義塾高等学校にて開催した。中高生 123 名参加。

・2014 年 4 月 13 日　第 50 回教育課程小委員会開催（慶応高校）　連合大会パブリックセッション「次期学習指導要領における高校地学教育のあり方」での提案に向けた科目検討を実施した。

・2014 年 4 月 29 日パシフィコ横浜にて、教育検討委員会主催パブリックセッションを地学教育シンポジウムとして開催し、次期学習指導要領における高校地学教育の在り方について、提案の叩き台ともなる案に基づく議論を行った。 同じくパブリックセッション「防災教育－災害を乗り越えるために私達が子ども達に教えること３」を開催した。

・2014 年 4 月 29 日パシフィコ横浜にて、教育検討委員会（総会）を開催し、各小委員会の平成 26 年度における活動方針を討議した。

・2014 年 6 月 23 日　4 月 29 日に開催したパブリックセッション「次期学習指導要領における高校地学教育のあり方」を文科省教育課程課長に報告し懇談した。

・2014 年 6 月 26 日　第 51 回教育課程小委員会開催（海城高校）　連合大会パブリックセッションの総括を行った。

・2014 年 7 月 27 日　第 52 回教育課程小委員会開催（海城高校）　次期学習指導要領改訂について地理系と地学系の情報交換を実施した。

・2014 年 9 月 27・28 日 の二日間、京都大学生存圏研究所にて「地球惑星科学の持続的発展をめざした教育の充実」を共催した。

・2014 年 10 月 13 日　第 53 回教育課程小委員会開催（海城高校）　2015 年連合大会パブリックセッションを検討し、「Future Earth 構想と地学教育及び地理教育との連携を考える」を提案することを確認した。

・2014 年 11 月 24 日　第 54 回教育課程小委員会開催（学会センタービル）　2015 年連合大会パブリックセッション提案の詳細を協議し、高校「地学基礎」の実情調査アンケートを検討した。

・2014 年 12 月 28 日　第 55 回教育課程小委員会開催（学会センタービル）　2015 年連

合大会パブリックセッションの詳細と講演者を検討した。

・2014 年 1 月 24 日　第 56 回教育課程小委員会開催（海城高校）　「地学基礎」調査のアンケート項目確定。教科書の用語統一を検討することを確認した。

・2014 年 3 月　第 57 回教育課程小委員会開催予定。

（4）教員免許更新講習会の開催準備 ［定款第５条（２）］

先に開催実績のある（公社）日本地震学会へ協力を行うこととし、教育検討委員会のメンバーが講師として参加した。また、平成 27 年度には（公社）日本地球惑星科学連合主催の教員免許状更新講習を開催できるようにするための準備を行った。

（5）連合大会における「学生優秀発表」の表彰 ［定款第５条（１）］

学生優秀発表賞は、4 回目の実施であるが、参加セクションは、宇宙惑星科学、大気水圏科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学と全セクションに及んだ。学生の研究のモーティベーションと発表技術の向上を掲げたこの賞は、当初の目標を達成して学生の資するところは大きかったと考えられる。また、2014 年大会において、全セクションの参加に伴って学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、制度の安定的な運営を目的に、WEB システムの増強を行った。

■大気水圏科学セクション

受賞者：	池田 隼人	（筑波大学）	高野 雄紀	（東京大学）
	大畑 祥	（東京大学）	谷中 郁哉	（茨城大学）
	澁谷 亮輔	（東京大学）	中川 真秀	（名古屋大学）

■地球人間圏科学セクション

受賞者：	JIANG、Yao	（京都大学）	飯澤 勇信	（東京理科大学）
	ZAHRA、Tuba	（東京大学）	遠藤 悠	（愛知教育大学）
	阿部 朋弥	（名古屋大学）	三宅 泰斗	（東京大学）

■固体地球科学セクション

受賞者：	STRATI　、Virginia	(University of Ferrara)	長澤 亮佑	(総合研究大学院大学)
	XU、Fang	（岡山大学）	新家 寛正	（名古屋大学）
	天野 早織	（京都大学）	西山 竜一	（東京大学）
	入山 宙	（九州大学）	田中 雅士	（九州大学）
	岩里 拓弥	（九州大学）	畠山 範重	（東北大学）
	大田 隼一郎	（東京大学）	東野 文子	（京都大学）
	木下 千裕	（京都大学）	藤井 昌和	（東京大学）
	久保 久彦	（京都大学）	細井 淳	（茨城大学）
	関 香織	(東京工業大学)	前田 郁也	（東北大学）
	照沢　秀司	（東京大学）	安川 和孝	（東京大学）
	石毛　康介	（北海道大学）	安川 和孝	（東京大学）
	中村 佳博	（新潟大学）	矢部 優	（東京大学）

■地球生命科学セクション

受賞者：	泉 賢太郎	（東京大学）	ベル 智子	（東京大学）
	高木 悠花	（早稲田大学）		

（6）男女共同参画事業 ［定款第５条（6）］

男性女性問わず、共にその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、個性と能力を発揮できる環境とネットワークを整備することを目的として、地球惑星科学分野ならびに社会の健全な発展に資する活動を行った。当連合に加盟している学会の男女共同参画に関する状況や取り組みの情報交換を行なうとともに、男女研究者間ならびに国際間のワークライフバランスを考えるために、連合大会時に「地球惑星科学系研究者のワークライフバランスとキャリア形成」シンポジウムを開催した。さらに、キャリア支援委員会と連携し、会員属性アンケートを共同実施した。その解析結果については、連合大会時に速報し、学協会連絡会シンポジウムでもポスター発表を行った。

（7）キャリア支援事業 ［定款第５条（6）］

現在、特にポスドク問題を始め、博士号取得者の就職は社会問題化している。連合では、この問題を重視し、メールニュースを通して、多数の就職情報を流す等、積極的にキャリアパス支援事業を実施した。

（8）自然災害（風水害、地震、火山、津波、環境）対応［定款第５条（5）］

風水害、地震、火山、津波などの自然災害の解明と対策への科学的提言は、地球惑星科学の極めて重要な役割である。また、地球温暖化問題に代表される人間社会に起因する環境劣化と持続的社会構築への科学的提言もしかりである。環境災害対応委員会では、地球惑星科学コミュニティをあげて、これらの多様な自然災害への対応を強化すべく、検討を進めた。

Ⅱ．処務の状況

１．役員等に関する事項

（１）公益社団法人第４期会長、理事、監事

役　　職	氏　　名	所　　属
会　　長	津　田　敏　隆	京　都　大　学
副　会　長	川　幡　穂　高	東　京　大　学
〃	木　村　　学	東　京　大　学
〃	中　村　正　人	宇宙航空研究開発機構
理　　事	ウォリス　サイモン	名　古　屋　大　学
〃	奥　村　晃　史	広　島　大　学
〃	北　　和　之	茨　城　大　学
〃	高　橋　幸　弘	北　海　道　大　学
〃	瀧　上　　豊	関　東　学　園　大　学
〃	田　中　賢　治	京　都　大　学
〃	成　瀬　　元	京　都　大　学
〃	西　　弘　嗣	東　北　大　学
〃	畠　山　正　恒	聖光学院中学高等学校
〃	浜　野　洋　三	海洋研究開発機構
〃	原　田　尚　美	海洋研究開発機構
〃	日比谷　紀　之	東　京　大　学
〃	古　村　孝　志	東　京　大　学
〃	道　林　克　禎	静　岡　大　学
〃	村　山　泰　啓	情報通信研究機構
〃	渡　邊　誠　一	名　古　屋　大　学
監　　事	北　里　　洋	海洋研究開発機構
〃	鈴　木　善　和	プラタナス法律事務所
〃	松　浦　充　宏	統計数理研究所

（２）公益社団法人第４期（平成 26 年度）社員

個人 98 名

（定款第 11 条　代議員の定数は、80 名以上 200 名以内で社員総会において別に定める数とする。）

宇宙惑星科学選出　15 名

大村　善治	（京都大学）	橘　省吾	（北海道大学）
小久保 英一郎	（国立天文台）	中村　正人	（宇宙航空研究開発機構）
小嶋　浩嗣	（京都大学）	長妻　　努	（情報通信研究機構）
草野　完也	（名古屋大学）	永原　裕子	（東京大学）
倉本　圭	（北海道大学）	横山　央明	（東京大学）
佐々木　晶	（大阪大学）	吉川　顕正	（九州大学）
関　華奈子	（名古屋大学）	渡邊誠一郎	（名古屋大学）
高橋　幸弘	（北海道大学）		

大気水圏科学選出　19 名

大手　信人	（東京大学）	田中　博	（筑波大学）
沖　理子	（宇宙航空研究開発機構）	谷口　真人	（総合地球環境学研究所）
蒲生　俊敬	（東京大学）	知北　和久	（北海道大学）
河宮 未知生	（海洋研究開発機構）	津田　敏隆	（京都大学）
北　和之	（茨城大学）	中島　映至	（東京大学）
近藤　豊	（東京大学）	原田 尚美	（海洋研究開発機構）

佐藤　薫　（東京大学）
杉田　倫明　（筑波大学）
鈴木　啓助　（信州大学）
田中　賢治　（京都大学）
日比谷紀之　（東京大学）
村山　泰啓　（情報通信研究機構）
吉田　尚弘　（東京工業大学）

地球人間圏科学選出　13 名

井田 仁康　（筑波大学）
小口　高　（東京大学）
奥村　晃史　（広島大学）
近藤　昭彦　（千葉大学）
佐竹　健治　（東京大学）
島津　弘　（立正大学）
中村　俊夫　（名古屋大学）
七山　太　（産業技術総合研究所）
春山　成子　（三重大学）
氷見山幸夫　（北海道教育大学）
松本　淳　（首都大学東京）
安成　哲三　（総合地球環境学研究所）
横山　祐典　（東京大学）

固体地球科学選出　30 名

井口　正人　（京都大学）
石渡　明　（東北大学）
岩森　光　（東京工業大学）
入舩　徹男　（愛媛大学）
ウオリス サイモン（名古屋大学）
歌田　久司　（東京大学）
大久保　修平　（東京大学）
太田　雄策　（東北大学）
大谷　栄治　（東北大学）
鍵　裕之　（東京大学）
加藤　愛太郎　（東京大学）
川勝　均　（東京大学）
木村　学　（東京大学）
木村　純一　（海洋研究開発機構）
古村　孝志　（東京大学）
竹村　恵二　（京都大学）
田中　聡　（海洋研究開発機構）
田中　愛幸　（東京大学）
中川　光弘　（北海道大学）
中田　節也　（東京大学）
中谷　正生　（東京大学）
中村美千彦　（東北大学）
成瀬　元　（京都大学）
西村　卓也　（京都大学）
西山　忠男　（熊本大学）
浜野　洋三　（海洋研究開発機構）
深畑　幸俊　（京都大学）
松澤　暢　（東北大学）
道林　克禎　（静岡大学）
三井　雄太　（静岡大学）

地球生命科学選出　10 名

磯崎　行雄　（東京大学）
井龍　康文　（東北大学）
遠藤　一佳　（東京大学）
大河内直彦　（海洋研究開発機構）
掛川　武　（東北大学）
川幡　穂高　（東京大学）
北村　晃寿　（静岡大学）
小林　憲正　（横浜国立大学）
西　弘嗣　（東北大学）
高橋　嘉夫　（広島大学）

地球惑星科学総合選出　11 名

飯田　佑輔　（宇宙航空研究開発機構）
阿部　國廣　（自然再生センター）
片山　直美　（名古屋女子大学）
熊谷　英憲　（海洋研究開発機構）
佐野　有司　（東京大学）
瀧上　豊　（関東学園大学）
畠山　正恒　（聖光学院中学高等学校）
宮嶋　敏　（埼玉県立深谷第一高等学校）
矢島　道子　（東京医科歯科大学）
山本　高司　（川崎地質（株））
横山　広美　（東京大学）

団体会員５０

日本宇宙生物科学会	生態工学会	日本地熱学会
日本応用地質学会	生命の起原および進化学会	地理科学学会
日本温泉科学会	石油技術協会	日本地理学会
日本海洋学会	日本雪氷学会	日本地理教育学会
日本火山学会	日本測地学会	地理教育研究会
形の科学会	大気化学研究会	地理情報システム学会
日本活断層学会	日本大気電気学会	東京地学協会
日本気象学会	日本堆積学会	東北地理学会
日本鉱物科学会	日本第四紀学会	土壌物理学会
日本国際地図学会	日本地学教育学会	日本粘土学会
日本古生物学会	地学団体研究会	日本農業気象学会
日本沙漠学会	日本地下水学会	物理探査学会
資源地質学会	日本地球化学会	日本陸水学会
日本地震学会	地球環境史学会	陸水物理研究会
日本情報地質学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	日本リモートセンシング学会
日本水文科学会	日本地形学連合	日本惑星科学会
水文・水資源学会	日本地質学会	

（3）セクションボード

宇宙惑星科学セクション

佐々木　晶	（大阪大学）	橘　省吾	（北海道大学）
高橋　幸弘	（北海道大学）	常田　佐久	(宇宙航空研究開発機構)
中村　昭子	（神戸大学）	長妻　努	(情報通信研究機構)
吉川　顕正	（九州大学）	永原　裕子	（東京大学）
牛尾　知雄	（大阪大学）	中村　正人	(宇宙航空研究開発機構)
大村　善治	（京都大学）	藤井　良一	（名古屋大学）
加藤　雄人	（東北大学）	藤本　正樹	(宇宙航空研究開発機構)
草野　完也	（名古屋大学）	横山 央明	（東京大学）
倉本　圭	（北海道大学）	臼本　尚義	（北海道大学）
小久保英一郎	（国立天文台）	渡邊誠一郎	（名古屋大学）
小嶋　浩嗣	（京都大学）	渡部 潤一	（国立天文台）
関　華奈子	（名古屋大学）	和田 浩二	（千葉工業大学）
田近　英一	（東京大学）		

大気水圏科学セクション

中島　映至	（東京大学）	多田　隆治	（東京大学）
杉田　倫明	（筑波大学）	知北　和久	（北海道大学）
川合　義美	(海洋研究開発機構)	花輪　公雄	（東北大学）
沖　理子	(宇宙航空研究開発機構)	日比谷紀之	（東京大学）
神沢　博	（名古屋大学）	松本　淳	（首都大学東京）
鬼頭　昭雄	（気象庁）	村山　泰啓	(情報通信研究機構)
近藤　豊	（東京大学）		

地球人間圏科学セクション

氷見山幸夫	(北海道教育大学)	奥村　晃史	（広島大学）
佐竹　健治	（東京大学）	小口　高	（東京大学）
春山　成子	（三重大学）	小口　千明	（埼玉大学）
島津　弘	（立正大学）	後藤　和久	（東北大学）
須貝　俊彦	（東京大学）	近藤　昭彦	（千葉大学）

青木　賢人	（金沢大学）	鈴木　毅彦	（首都大学東京）
秋本　弘章	（獨協大学）	鈴木　康弘	（名古屋大学）
荒井　良雄	（東京大学）	瀧上　豊	（関東学園大学）
井田　仁康	（筑波大学）	千木良雅弘	（京都大学）
上田　元	（東北大学）	藤原　広行	(防災科学技術研究所)
碓井　照子	（奈良大学）	中村　俊夫	（名古屋大学）
海津　正倫	（名古屋大学）	七山　太	(産業技術総合研究所)
岡本　耕平	（名古屋大学）		

固体地球科学セクション

大谷　栄治	（東北大学）	ｻﾃｨｯｼｭ ｸﾏｰﾙ ﾏﾄﾞｽｰﾀﾞﾝ	（新潟大学）
西山　忠男	（熊本大学）	鈴木　勝彦	(海洋研究開発機構)
木村　純一	(海洋研究開発機構)	田中　聡	(海洋研究開発機構)
入舩　徹男	（愛媛大学）	中川　光弘	（北海道大学）
岩森　光	(海洋研究開発機構)	中田　節也	（東京大学）
ｳｵﾘｽ　ｻｲﾓﾝ	（名古屋大学）	成瀬　元	（京都大学）
歌田　久司	（東京大学）	古村　孝志	（東京大学）
大久保修平	（東京大学）	日置　幸介	（北海道大学）
金川　久一	（千葉大学）	松澤　暢	（東北大学）
唐戸俊一郎	(Yale University)	道林　克禎	（静岡大学）
川勝　均	（東京大学）		

地球生命科学セクション

小林　憲正	（横浜国立大学）	大河内直彦	（海洋研究開発機構）
川幡　穂高	（東京大学）	掛川　武	（東北大学）
磯崎　行雄	（東京大学）	北村　晃寿	（静岡大学）
生形　貴男	（京都大学）	鈴木　庸平	（東京大学）
高野　淑識	(海洋研究開発機構)	高橋　嘉夫	（広島大学）
稲垣　史生	(海洋研究開発機構)	西　弘嗣	（東北大学）
井龍　康文	（東北大学）	真鍋　真	（国立科学博物館）
遠藤　一佳	（東京大学）	山岸　明彦	（東京薬科大学）
北里　洋	Founder President (海洋研究開発機構)		

（4）委員会等

総務委員会

古村　孝志	（東京大学）	川合　義美	（海洋研究開発機構）
成瀬　元	（京都大学）		

財務委員会

北　和之	（茨城大学）	高野　修	(石油資源開発株式会社)
西　弘嗣	（東北大学）	向山　栄	（国際航業株式会社）
山田　泰広	（海洋研究開発機構）		

広報普及委員会

田近　英一	（東京大学）	佐藤　活志	（京都大学）
原　辰彦	（建築研究所）	関根　康人	（東京大学）
成瀬　元	（京都大学）	高橋　幸弘	（北海道大学）
道林　克禎	（静岡大学）	瀧上　豊	（関東学園大学）
阿部　彩子	（東京大学）	橘　省吾	（北海道大学）

安藤　寿男	（茨城大学）	谷　篤史	（大阪大学）
生形　貴男	（京都大学）	東宮　昭彦	（産業技術総合研究所）
大河内直彦	（海洋研究開発機構）	宮本　英昭	（東京大学）
奥村　晃史	（広島大学）	山田　耕	（早稲田大学）
笠井　康子	（通信総合研究所）	横山　広美	（東京大学）
久利　美和	（東北大学）	吉本　和生	（横浜市立大学）
紺屋　恵子	（海洋研究開発機構）		

環境災害対応委員会

田中　賢治	（京都大学）	後藤真太郎	（立正大学）
奥村　晃史	（広島大学）	作野　裕司	（広島大学）
北　和之	（茨城大学）	塩竈　秀夫	（国立環境研究所）
小荒井　衛	（国土地理院）	志村　喬	（上越教育大学）
吾妻　崇	（産業技術総合研究所）	鈴木　正哉	（産業技術総合研究所）
井口　隆	（防災科学技術研究所）	竹村 貴人	（日本大学）
石峯　康浩	（国立保健医療科学院）	知北　和久	（北海道大学）
宇根　寛	（国土地理院）	林　武司	（秋田大学）
卜部　厚志	（新潟大学）	前杢　英明	（法政大学）
大月　義徳	（東北大学）	益田　晴恵	（大阪市立大学）
大野　博之	（（株）環境地質）	松島　大	（千葉工業大学）
小田　啓邦	（産業技術総合研究所）	松本　淳	（首都大学東京）
加藤　愛太郎	（名古屋大学）	宮地 良典	（産業技術総合研究所）
加藤　俊吾	（首都大学東京）	村山　良之	（山形大学）
河島　克久	（新潟大学）	柳澤　教雄	（産業技術総合研究所）
川畑　大作	（産業技術総合研究所）	山崎　淳司	（早稲田大学）
北村　晃寿	（静岡大学）	山下　亜紀郎	（筑波大学）
熊木　洋太	（専修大学）	吉川　顕正	（九州大学）
小司　禎教	（気象研究所）	吉本　充宏	（富士山科学研究所）
後藤　和久	（東北大学）		

男女共同参画委員会

原田　尚美	（海洋研究開発機構）	紺屋　恵子	（海洋研究開発機構）
小川　佳子	（会津大学）	坂野井和代	（駒澤大学）
小口　千明	（埼玉大学）	佐々木　緑	（広島修道大学）
坂野井　健	（東北大学）	宋　苑瑞	（東京大学）
清野　直子	（気象研究所）	土屋　範芳	（東北大学）
中村　正人	（宇宙航空研究開発機構）	富樫　茂子	（産業技術総合研究所）
渡邉誠一郎	（名古屋大学）	西澤　あずさ	（海上保安庁）
天野　敦子	（産業技術総合研究所）	堀　利栄	（愛媛大学）
下司　信夫	（産業技術総合研究所）	若狭　幸	（秋田大学）

キャリア支援委員会

高橋　幸弘	（北海道大学）	佐藤　薫	（東京大学）
市原　美恵	（東京大学）	杉田　律子	（科学警察研究所）
坂野井和代	（駒澤大学）	多田　啓亮	（横浜国立大学）
末吉　哲雄	（国立極地研究所）	田近　英一	（東京大学）
渡辺誠一郎	（名古屋大学）	津野　宏	（横浜国立大学）
新井　真由美	（日本科学未来館）	富樫　茂子	（産業技術総合研究所）
大石　哲	（神戸大学）	浜田　盛久	（海洋研究開発機構）
小口　千明	（埼玉大学）	藤光　康宏	（九州大学）
栗田　敬	（東京大学）	松山　洋	（首都大学東京）

教育検討委員会

畠山　正恒	（聖光学院中学高等学校）	武田　和久	（㈱開発設計ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ）
瀧上　豊	（関東学園大学）	辻村　真貴	（筑波大学）
渡邊誠一郎	（名古屋大学）	津野　宏	（横浜国立大学）
縣　秀彦	（国立天文台）	中井　仁	（茨木工科高等学校）
阿部　國廣	（自然再生センター）	中井　睦美	（大東文化大学）
新井　真由美	（日本科学未来館）	西木　敏夫	（目白学園）
飯田　和明	（浦和東高等学校）	縫村　崇行	（千葉科学大学）
伊東　明彦	（宇都宮大学）	根本　泰雄	（桜美林大学）
伊藤　孝	（茨城大学）	納口　恭明	（防災科学技術研究所）
大園　真子	（山形大学）	濱田　浩美	（千葉大学）
大谷　具幸	（岐阜大学）	林　慶一	（甲南大学）
大村　善治	（京都大学）	林田　佐智子	（奈良女子大学）
小川　康雄	（東京工業大学）	廣内　大助	（信州大学）
奥野　誠	（東京大学）	藤 浩明	（京都大学）
奥山　康子	（産業技術総合研究所）	藤本　光一郎	（東京学芸大学）
海東　達也	（竹早高校）	松浦　執	（東海大学）
加藤　禎夫	（松山高等学校）	松島　潤	（東京大学）
川合　美千代	（東京海洋大学）	松本　剛	（琉球大学）
熊原　康博	（広島大学）	萬年　一剛	（神奈川県温泉地学研究所）
小谷　亜由美	（名古屋大学）	三田　肇	（福岡工業大学）
小寺　浩二	（法政大学）	南島　正重	（両国高等学校）
西城　潔	（宮城教育大学）	宮岡　邦任	（三重大学）
坂本　正徳	（国学院大学）	宮崎　忠國	（東京農業大学）
佐溝　信幸	（資源開発（株））	宮下　敦	（成蹊中学高等学校）
佐々木　晶	（大阪大学）	宮嶋　敏	（深谷第一高等学校）
芝川　明義	（花園高等学校）	山崎　淳司	（早稲田大学）
島津　弘	（立正大学）	山下　敏	（熊谷女子高等学校）
鈴木　文二	（春日部女子高校）	山田　伸之	（福岡教育大学）
高橋　栄一	（東京工業大学）	山野　誠	（東京大学）
滝沢　由美子	（帝京大学）	吉本　充宏	（山梨県富士山科学研究所）
竹内　裕一	（千葉大学）		

情報システム委員会

村山　泰啓	（情報通信研究機構）	金田平太郎	（千葉大学）
小口　高	（東京大学）	坂口　有人	（山口大学）
近藤　康久	（総合地球環境学研究所）	篠原　育	（宇宙航空研究開発機構）
古村　孝志	（東京大学）	横山　央明	（東京大学）

ジャーナル企画経営委員会

川幡　穂高	（東京大学）	小林　憲正	（横浜国立大学）
津田　敏隆	（京都大学）	佐々木　晶	（大阪大学）
木村　学	（東京大学）	佐藤　正樹	（東京大学）
中村　正人	（宇宙航空研究開発機構）	多田　隆治	（東京大学）
井龍　康文	（東北大学）	田近　英一	（東京大学）
大谷　栄治	（東北大学）	中島　映至	（東京大学）
小田　啓邦	（産業技術総合研究所）	氷見山　幸夫	（北海道教育大学）
小原　一成	（東京大学）	杉田 倫明	（筑波大学）
西 弘嗣	（東北大学）		

ジャーナル編集委員会

川幡　穂高	（東京大学）	佐藤　正樹	（東京大学）
井龍　康文	（東北大学）	渋谷　和雄	（国立極地研究所）
池原　研	（産業技術総合研究所）	清水　久芳	（東京大学）
井上　源喜	（大妻女子大学）	杉田　文	（千葉商科大学）
ｳｵﾘｽ　ｻｲﾓﾝ	（名古屋大学）	多田　隆治	（東京大学）
遠藤 一佳	（東京大学）	千木良　雅弘	（京都大学）
大竹　真紀子	（宇宙航空研究開発機構）	中田　節也	（東京大学）
大谷　栄治	（東北大学）	長妻　努	（情報通信研究機構）
大手　信人	（東京大学）	早坂　忠裕	（東北大学）
小原　一成	（東京大学）	日比谷　紀之	（東京大学）
加藤　照之	（東京大学）	平島　崇男	（京都大学）
金谷　有剛	（海洋研究開発機構）	松本　淳	（首都大学東京）
川勝　均	（東京大学）	三ケ田　均	（京都大学）
菊地　俊夫	（首都大学東京）	宮内　崇裕	（千葉大学）
倉本　圭	（北海道大学）	村山　祐司	（筑波大学）
兒玉　裕二	（国立極地研究所）	山本　衛	（京都大学）
小林　憲正	（横浜国立大学）	芳村　圭	（東京大学）
近藤　昭彦	（千葉大学）	渡辺　寧	（秋田大学）

大会運営委員会

浜野　洋三	（海洋研究開発機構）	近藤　昭彦	（千葉大学）
岩上　直幹	（東京大学）	財城　真寿美	（成蹊大学）
興野　純	（筑波大学）	高橋　幸弘	（北海道大学）
北　和之	（茨城大学）	中村　昭子	（神戸大学）
赤坂　郁美	（専修大学）	能勢　正仁	（京都大学）
大月　祥子	（専修大学）	和田　浩二	（千葉工業大学）
金川　久一	（千葉大学）		

グローバル戦略委員会

木村　学	（東京大学）	末広　潔	（海洋研究開発機構）
ｳｵﾘｽ　ｻｲﾓﾝ	（名古屋大学）	多田　隆治	（東京大学）
関　華奈子	（名古屋大学）	田島　文子	(University of California)
橘　省吾	（北海道大学）	中島　映至	（東京大学）
高橋　幸弘	（北海道大学）	中村　尚	（東京大学）
日比谷　紀之	（東京大学）	春山　成子	（三重大学）
大谷　栄治	（東北大学）	氷見山　幸夫	（北海道教育大学）
加藤　照之	（東京大学）	藤本　正樹	（宇宙航空研究開発機構）
小林　憲正	（横浜国立大学）	村山　泰啓	（情報通信研究機構）
佐々木　晶	（大阪大学）		

25 周年記念事業実行委員会

津田　敏隆	（京都大学）	田近　英一	（東京大学）
小口　高	（東京大学）	中村　正人	（宇宙航空研究開発機構）
川幡　穂高	（東京大学）	浜野　洋三	（海洋研究開発機構）
木村　学	（東京大学）	古村　孝志	（東京大学）

フェロー審査委員会

＊審査委員会規則第６条により,委員名は当該年度の全委員が改選された時点で公表するものとする。

地球惑星科学振興西田賞審査委員会

＊審査委員会設置規則第６条により，委員名は受賞者が決定した時点で公表する。

顕彰委員会

中村　正人	(宇宙航空研究開発機構)	奥村　晃史	(　広　島　大　学　)
成瀬　元	(　京　都　大　学　)	須貝　俊彦	(　東　京　大　学　)
諸田　智克	(名古屋大学)	ｳｵﾘｽ　ｻｲﾓﾝ	(名古屋大学)
渡部　重十	(北海道大学)	川勝　均	(　東　京　大　学　)
飯田　真一	(森林総合研究所)	磯崎　行雄	(　東　京　大　学　)
田中　博	(　筑　波　大　学　)	真鍋　真	(国立科学博物館)

２．役員会等に関する事項

（１）平成 26 年定期社員総会

平成 26 年 5 月 1 日（木）16：15～17：15、パシフィコ横浜会議センター　メインホールにおいて開催。次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催月日	議　事　事　項	
5 月 1 日	第1号議案 平成 25 年度（公益社団法人第3期）決算承認の件	承認
	第2号議案 定款規則第3章第15 条（監事の人数）の変更の件	承認
	第3号議案 定款規則第3章第19 条（監事の任期）の変更の件	承認
	第4号議案 役員（理事、監事）選任の件	承認

（２）理事会

7 回開催した。主要決議事項は以下の通りである。

開催月日	議　事　事　項	
平成 26 年 4 月 28 日（第 1 回）	第1号議案「教育問題検討委員会」の「教育検討委員会」への名称変更の件	承認
	第2号議案 地球惑星科学振興西田賞の設立の件	承認
	第3号議案 総会議事および資料の件	承認
5 月 2 日（第 2 回）	第1号議案 代表理事（会長）、業務執行理事及び副会長選定の件	承認
	第2号議案 グローバル戦略委員承認の件	承認
6 月 2 日（第 3 回）	第1号議案 会員（正会員）入会承認の件	承認
	第2号議案 西田賞推薦・被推薦資格、ならびに審査期間設定の件	承認
	第3号議案 国際第四紀学連合第 19 回大会共催承認の件	承認
	第4号議案 委員会委員承認の件	承認
	第5号議案 国際対応の件	継続審議
	第5号議案 その他	承認
	(1) 男女共同参画委員会委員長、副委員長任期の件	承認
	(2) 女子中高生夏の学校 2014 への協賛の件	承認
7 月 12 日（第 4 回）	第1号議案 会員（正会員）入会承認の件	承認
	第2号議案 フェロー制度規則変更の件	承認
	第3号議案 公益認定委員会への変更認定申請の件	承認
	第4号議案 委員会委員追加承認の件	承認

	第5号議案 ジャーナル企画経営委員会ならびにジャーナル編集委員会規則設置の件	承認
	第6号議案 学術出版委員会廃止の件	承認
	第7号議案 大会運営委員会情報局廃止の件	承認
	第8号議案 ユニオンサイエンスボードメンバー承認について	承認
	第9号議案 連合の国際対応について	意見交換
	第10号議案 連合大会の英語化への取り組み方法	意見交換
	第11号議案 連合大会でのフェロー懇親会（仮）の開催	承認
	第12号議案 追加予算承認の件	承認
	第13号議案 フォトンファクトリーにおける放射光実験ビームタイムの確保に関する連合としての要望書について	承認
	第14号議案 とうきゅう環境財団社会貢献学術賞候補の推薦者について	承認
	第15号議案 その他 委員会幹事承認の件	承認
8 月 23 日（第 5 回）	第1号議案 会員（正会員）入会承認の件	承認
	第2号議案 理数系学会教育問題連絡会シンポジウム共同主催承認の件	承認
	第4号議案 委員会の廃止と設置について	承認
	第5号議案 フェロー制度規則変更の件	承認
	第6号議案 国際戦略対応事務局体制強化検討 WG 設置の件	承認
	第7号議案 2015 年大会 25 周年記念シンポジウムの実施計画等について	承認
	第8号議案 連合のグローバル戦略について	意見交換
10 月 24 日(第 6 回)	第1号議案 会員（正会員）および賛助会員入会承認の件	承認
	第2号議案 委員追加承認の件	承認
	第3号議案 ユニオンサイエンスボードメンバー追加の件	承認
	第4号議案 顕彰委員会設置の件	承認
	第5号議案 地球惑星科学振興西田賞審査委員会設置規則変更の件	承認
	第6号議案 地球惑星科学振興西田賞審査委員承認の件	承認
	第7号議案 広報普及委員会正副委員長変更の件	承認
	第8号議案 来年度の予算編成について	報告
	第9号議案今後の連合大会の方針の件	承認
12 月 8 日(第 7 回)	第1号議案 会員（正会員）入会承認の件	承認
	第2号議案 委員会委員承認の件	承認
	第3号議案 委員の資格について	継続審議
	第4号議案 地球惑星科学振興西田賞規則改正の件	承認
	第5号議案 平成 27 年度事業計画について	継続審議
	第6号議案 平成 27 年度予算について	継続審議
	第7号議案 大会における AGU 会員の取り扱いについて	承認
	第8号議案 AGU との会議について	承認
	第9号議案 その他　2016 年の地学オリンピック第 10 回日本大会について	継続審議
2 月 19 日（第 8 回）	要更新	
3 月 27 日（第 9 回）	要更新	

（3）学協会長会議

平成 26 年 5 月 1 日 13：00～14：00 パシフィコ横浜会議センター　メインホール、平成 26 年 10 月 16 日 10：00～12：00 東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室にて開催された。議題は以下の通りである。

開催月日	議　事　事　項
第 10 回 5 月 1 日	1．前回議事録確認 2．新規加入学協会の紹介「日本大気電気学会」 3．日本地球惑星科学連合活動報告 4．日本学術会議の近況報告 5．次期学協会長議長の選任 6．その他（質疑応答・意見交換）
第 11 回 10 月 16 日	1．前回議事録確認 2．日本地球惑星科学連合活動報告 3．日本学術会議の近況報告 4．その他（アクションアイテムなど）

３．関連団体との連携及び協力に関する事項

・共催・協賛・後援等

承認日	種別	会合名等	開催期間
4 月 24 日	協賛	PF 研究会「次世代放射光源で期待される XAFS を活用したサイエンス」	2014 年 7 月 11 日～2014 年 7 月 12 日 高エネルギー加速器研究機構 4 号館セミナーホール
4 月 24 日	協賛	第 55 回高圧討論会 （主催：日本高圧力学会）	2014 年 11 月 22 日～24 日 徳島大学　常三島キャンパス
4 月 25 日	協賛	2014 年 URSI 日本電波科学会議 （主催：電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ）	2014 年 9 月 8 日 中央大学　後楽園キャンパス
6 月 2 日	共催	国際第四紀学連合第１９回大会 （主催：国際第四紀学連合、日本第四紀学会、日本学術会議）	2015 年 7 月 27 日～8 月 2 日 名古屋国際会議場
6 月 2 日	協賛	女子中高生夏の学校２０１４～科学・技術・人との出会い～	平成 26 年 8 月 7 日～8 月 9 日 国立女性教育会館
6 月 12 日	協賛	日本地質学会第 121 年学術大会（鹿児島大会）巡検	会期中巡検：9 月 13 日、ポスト巡検：9 月 16 日～18 日 鹿児島県を中心に 8 コース
6 月 27 日	共催	第 9 回科学地理オリンピック日本選挙権大会兼第 12 回国際地理オリンピック（iGeo2015)選抜大会	
8 月 23 日	共同主催	理数系学会教育問題連絡会シンポジウム「これからの理数系教育を考える 2014」	2014 年 10 月 26 日 一橋講堂
8 月 27 日	協賛	ポストペタスケールシステムソフトウェアに関する JST CREST 国際シンポジウム(ISP2S2)	2014 年 12 月 2 日～4 日 理化学研究所計算科学研究機構
9 月 1 日	協賛	公開シンポジウム「東日本大震災を教訓とした安全安心で持続可能な社会の形成に向けて」	2014 年 9 月 7 日 日本学術会議講堂
9 月 1 日	協賛	公開シンポジウム「持続可能な未来のための教育と人材育成の推進に向けて」	2014 年 9 月 14 日 日本学術会議講堂
9 月 1 日	後援	「災害に対するレジリエンスの向上に向けて」	2014 年 9 月 28 日 帝京大学板橋キャンパス大学棟本館 2F 209 教室
11 月 13 日	協賛	SEGJ 第 12 回国際シンポジウム	2015 年 11 月 18 日～20 日 東京大学伊藤国際学術研究センター
12 月 8 日	協賛	2015 年ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム（HPCS2015）	2015 年 5 月 19 日～20 日 東京大学武田先端知ビル 5F　武田ホール
12 月 8 日	協賛	未来を拓く高圧力科学技術セミナー40	2015 年 2 月 10 日 東京大学山上会館
12 月 9 日	協賛	オープンフォーラム「水関連研究成果の日本からの発信に向けて」	2015 年 3 月 7 日 筑波大学東京キャンパス 116 講義室
12 月 15 日	協賛	新学術領域研究「福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態に関する学際的研究」国際シンポジウム	2015 年 1 月 9 日～10 日 筑波大学総合研究棟 A 棟

12 月 17 日	協賛	第 3 回物構研サイエンスフェスタ	2015 年 3 月 17 日～18 日 つくば国際会議場
2015 年 2 月 10 日	協賛	The 3rd AOSWA Workshop 2015	2015 年 3 月 2～5 日 The Luigans Spa & Resort

・サポートレターの発行

なし

・声明文・談話の発表

なし

４．登記、申請等に関する事項

なし

５．職員に関する事項

勤務形態	当期末 （平成 27 年 3 月末）	前期末比増減	備考
フルタイム	2 名	0 名	岡田まゆみ（ジャーナル担当） （平成 26 年 4 月 19 日採用） 谷上美穂子 （平成 27 年 2 月 15 日退職）
週 4 日勤務	2 名	0 名	
週 2 日勤務	3 名	0 名	
週 1 日勤務	5 名	0 名	末廣潔 （平成 26 年 9 月 1 日採用） 浜野洋三 （平成 27 年 1 月 15 日採用）
合　　計	10 名	5 名	

６．その他

特定費用準備資金、25周年記念事業開催に関する事項
・特定費用準備資金「日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金」から、計画通り2014年連合大会期間中の記念式典の開催、またその一部である第1回フェロー表彰式の開催等に使用した。

特定費用準備資金、国際化推進に関する事項
・特定費用準備資金「日本地球惑星科学連合国際化推進資金」から、計画通り英語版パンフレットの作成やAGUとの大会連携に向けた準備等に使用した。

連合諸規則・規程等の制定と改定
- 日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金取り扱い規則を策定した。
- フェロー審査委員会規則を策定・改定をした。
- セクションプレジデト選挙規則および実施細則を策定した。
- 科学研究費補助金における国内出張旅費および外国出張旅費規則を改定した。
- 法人運営基本規程を改定した。
- 法人運営基本規則を改定した。
- 代議員選挙規則を改定した。
- 代議員選挙実施細則を改定した。
- 日本地球惑星科学連合国際化推進資金取扱規則を策定した。

代議員構成に関する将来構想

選出代議員（100 名）と団体会員（50 名）から構成される現在の代議員構成について，正会員の等しい選挙権と団体会員の適正を将来にわたり保証するための制度設計の強化に向けて、会長、副会長、総務担当理事から構成されるワーキンググループを設けて検討した。また、第 11 回学協会長会議において代議員構成と団体会員の入会審査基準について意見交換を行った。

Ⅱ．会員の状況

（平成 27 年 3 月末）

会員種別	第 1 期末 （平成 24 年 3 月末）	第 2 期末 （平成 25 年 3 月末）	**第 3 期末 （平成 26 年 3 月末）**	増減	**第 4 期末 （平成 27 年 3 月末）**
個人会員正会員	7139	7304	**7540**		要更新
個人会員準会員 （学部生以下）	390	392	**392**		
個人会員大会会員	631	634	**665**		
団体会員	48	49	**49**	1	50
賛助会員	0	1	**1**	1	2

平成 27 年度

事業計画書(案)

自　平成 27 年 4 月　1 日

至　平成 28 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合

〒113-0032　東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080　　Fax：03-6914-2088

平成 27 年度　事　業　計　画　書

公益社団法人第 5 期（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

平成 27 年（2015 年）度は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）がこれまで推進してきた「我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表し、国際連携および社会への情報発信、関連分野の研究発表および情報交換を行い、学術および科学技術の振興等に寄与することを目的とする活動」を推進する。特に、

1）国際シンポジウムを含む日本地球惑星科学連合大会の更なる発展

2）一般公開講座や高校生セッション等の開催や国際地学・地理オリンピック活動支援等を通しての、関連科学の一般への普及

3）国の科学・技術政策、教育問題の検討や提言、キャリアパス支援活動等を通しての教育・キャリア支援

4）連合ジャーナルの刊行

の活動を強化する。

ヨーロッパ地球惑星科学連合（EGU）、アジア太平洋地球科学学会（AOGS）および米国地球物理連合（AGU）等の組織との国際連携を一層強化して、地球惑星科学の更なる国際化の展開と発展を目指す。

また、2015 年連合大会は、その前身である合同大会（第 1 回 1990 年）から数えて 26 回目となることから、本大会を 25 周年記念大会と位置づけて、連合大会会期中に記念シンポジウムを開催する。

Ⅰ．事業の概要

１．地球惑星科学に関わる研究発表会および国際会議等の開催

（１）日本地球惑星科学連合 2015 年大会（連合大会）の開催

地球惑星科学に関する学理およびその応用に関する研究発表を通じて、地球惑星科学の進歩と普及を図ることを目的に、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象として、公開による学術大会を開催し、関連分野の研究発表と情報交換の場を設ける。特に、ポスター発表については昨年度に引き続き３分間の概要説明の時間を設けて発表者と聴衆の議論を深める。また、地球惑星科学に関連した研究教育機関、学協会、民間企業からの最新の情報や、各種プロジェクトの成果を大会参加者に紹介するための展示を設けるとともに、学術研究および教育に有益な、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示を行う。会場は、幕張メッセ国際会議場へ戻り、大会期間中に 25 周年記念行事の一環として、記念シンポジウムを行う。

日本地球惑星科学連合 2015 年大会（Japan Geoscience Union Meeting　2015）

会　期：2015 年 5 月 24 日(日)～28 日(木)

場　所：幕張メッセ国際会議場（〒261-0023　千葉市美浜区中瀬 2-1）

大会委員長：田近英一（東京大学）

主　催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

後　援：46 団体（日本学術会議、文部科学省、国土交通省　国土地理院、気象庁　気象研究所、気象庁地磁気観測所、国土交通省　海上保安庁　海洋情報部、北海道立総合研究機構　環境・地質研究本部　地質研究所、宇宙航空研究開発機構、海洋研究開発機構、日本科学未来館、建築研究所、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、情報通信研究機構、森林総合研究所、石油天然ガス・金属鉱物資源機構、土木研究所、日本原子力研究開発機構、農業環境技術研究所、農業・食品産業技術総合研究機構　農村工学研究所、物質・材料研究機構、災科学技術研究所、理化学研究所、国立教育政策研究所、高エネルギー加速器研究機構、自然科学研究機構　国立天文台、情報・システム研究機構　国立極地研究所、大学共同利用機関法人　情報・システム研究機構　統計数理研究所、地震予知総合研究振興会、地球環境産業技術研究機構、電力中央研究所、日本宇宙フォーラム、日本地図センター、深田地質研究所、全国地質調査業協会連合会、電子情報通信学会、東京都地質調査業協会、日本機械学会、日本航空宇宙学会、日本測量協会、日本分析機器工業会、千葉県教育委員会、千葉市、千葉市教育委員会、ちば国際コンベンションビューロー)

協　賛：6 学協会（日本高圧力学会、日本サンゴ礁学会、本天文学会、日本地震工学会、土木学会、地盤工学会、日本地すべり学会)

開催セッション数：

カテゴリー別	開催数	
U: ユニオンセッション	7	(*2)
O: パブリック	5	(*0)
P: 宇宙惑星科学	23	(*12)
A: 大気水圏科学	22	(*9)

H: 地球人間圏科学	25	(*9)
S: 固体地球科学	62	(*17)
B: 地球生命科学	11	(*3)
G: 教育アウトリーチ	5	(*1)
M: 学際・広領域	31	(*6)
計	192	(*59)

(*) 国際セッション数（内数）

発表論文数：4000 件

参加者数：6500 人

展示企画（ブース数）：団体展示（57）、書籍出版関連商品（24）、大学インフォメーションパネル（9）、学協会エリア個別デスク（10）、パンフレットデスク展示（5）

（2）国際セッション・シンポジウム「JpGU International Session 2015」の開催

連合大会の国際化を推進するために、連合大会において英語を発表言語とする国際セッションを多数開催し、これを国際セッション、国際シンポジウムとして位置づけたプログラム編成を行う。今年度は 41 件の国際セッションを予定している。

（3）「高校生によるポスター発表」の開催

将来を担う高校生を対象に、授業や課外活動で行った地球惑星科学に関する研究や学習の成果を研究者に対して発表するための、連合大会初日（5 月 24 日、日曜日）にポスター発表会を開催する。今年度は、前年度程度（71 件）の発表を予定している。

（4）地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催

一般市民を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために、連合大会会期中に「地球惑星科学トップセミナー」他を開催する。また、11 月頃に「秋の公開講演会」を開催予定である。

■地球惑星科学トップセミナー

期　　日：平成 27 年 5 月 24 日（日）

主　　催：広報普及委員会

内　　容：地球惑星科学分野における最新の成果を招待講演者に分かりやすく紹介していただくアウトリーチセッション

講師名別途確定

■研究者の多様なキャリア形成を考える

期　　日：2015 年連合大会会期中

主　　催：男女共同参画委員会、キャリア支援委員会

内　　容：

ポスドク問題が社会問題となってから、任期付研究員の雇用形態も多様化した。しかしながら、若手研究者の就業実態は依然厳しい状況である。このため、それを間近で見聞きしている学部生や修士課程の院生が博士課程への進学を敬遠するなど、若手研究者育成の観点からも悪循環に陥っている。本セッションでは、キャリア支援委員会と男女共同参画委員会が共催して、任期付研究員制度が抱える問題について精査し、キャリア形成のより良い構築を考える。

■ジオパークへ行こう

期　　日：平成 27 年 5 月 24 日（日）

主　　催：日本ジオパーク委員会

内　　容：

ジオパークに興味のある市民、高校生、教員の方々を対象として、日本各地のジオパークで活躍するジオガイドが、ジオパークの見どころをわかりやすく面白く紹介する。ポスターセッションでは各地のジオパークやジオパークをめざす地域から、教育活動や普及活動の事例報告を行う。

発表団体名　確定次第掲載

■日本地球惑星科学連合　秋の公開講演会

期　　日：2015 年 11 月　（予定）

場　　所：(未定)

主　　催：広報普及委員会

内　　容：(未定)

（5）「スペシャルレクチャー」の開催

学部生や院生を主たる対象として、連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリーズで開催する。4 つのセクションの各分野の最新トピックスについて世界的第一人者を講師に迎えて、異分分野の聴衆を対象とするわかりやすい内容の講演会を開催する。

期　　日：平成 27 年 5 月 24 日（日）～5 月 28 日(金)（5 月 26 日除く)毎日昼　13：00～13：40　予定

場　　所：国際会議室(予定)

主　　催：大会運営委員会

内　　容：宇宙惑星科学セクション　講演内容・講師別途確定

地球人間圏科学セクション　講演内容・講師別途確定

固体地球科学セクション　講演内容・講師別途確定

地球生命科学セクション　講演内容・講師別途確定

（6）関連集会の開催

地球惑星科学コミュニティーに共通する諸問題についての検討と関連情報の周知をサポートする目的として、各種集会・懇談会を開催する。今年度は連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催する。

■全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

日　　時：連合大会　会期中

主　　催：日本学術会議地球惑星科学委員会、日本地球惑星科学連合大学および大学院教育小委員会

内　　容：全国の地球惑星科学系専攻長・学科長が一同に会し、地球惑星科学系大学の発展と大学院教育の在り方についての情報交換を行う。

２．地球惑星科学に関わる研究成果の刊行および教育普及

我が国の地球惑星科学および関連科学の振興と普及を目的として、地球惑星科学に関する学理およびその応用に関する知識や情報の交換の促進を図るために、連合学術誌の創刊に向けた準備とともに、連合加盟学協会の出版事業の広報普及の支援を行う。

（１）連合学術誌の出版の高度化

2014 年 4 月に初版が発刊された連合のオープン・アクセス（OA）電子ジャーナルのさらなる国際情報発信力強化を行っていく。そのために、日本学術振興会からの科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を有効に活用して、投稿及び引用を促進するための施策を推進する予定である。具体的には、①2013～14 年度に引き続き、2015 年連合大会の発表の中からコンビーナー推薦の優秀発表への投稿依頼、②2014 年度において成果のあった、ジャーナル国際セッション及びジャーナル国際シンポジウムにおける旅費の支援と原稿依頼、③科学的にホットなテーマを取り上げて論文の投稿を呼びかける SPEPS の推進などである。また、出版された論文を紹介する仕掛けづくりに取組むとともに、広く新ジャーナルの認知を得るために、国際会議へのブース出展やプログラムへの広告掲載などを通じて、広報活動にも努める。さらに、連合大会と連携した海外情報発信強化・引用促進のアピールサイトの充実と普及、及び SNS の活用にも取組む。これまではジャーナルの創刊だったので、ジャーナルの認知に重点をおいたが、今後は質の高い原稿を投稿してもらえるようターゲットを絞った宣伝活動を行っていく予定である。

また、当初の課題の一つであった他誌との連携の可能性についても検討に着手する。

（２）連合加盟学協会による学術誌出版の広報普及支援

海外で開催される国際学術大会で連合ブースを出展し、連合加盟学協会が出版する学術誌の展示等を行うなど、地球惑星科学および関連科学の学術出版物の広報普及に関する支援を行う。

国際学術発表会における展示：

開催日	開催場所	出展大会名
2015 年 4 月 12-17 日	ウィーン、オーストリア	EGU General Assembly 2015
2015 年 8 月 2-7 日	シンガポール	AOGS Annual Meeting
2015 年 12 月 14 日-18 日	アメリカ、 サンフランシスコ	AGU Fall Meeting

（3）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

連合の会員（個人・団体会員）および、科学館、博物館、高等学校教員、関連企業等の関係者や一般市民を対象として、地球惑星科学の研究成果の広報・普及を目的としてニュースレター誌「JGL」を年４号定期発行する。

発行部数　：26,000～30,000 部
配 布 先　：会員（個人、団体）
国立国会図書館
科学館（日本科学未来館、日本科学技術館他）
博物館（国立科学博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館他）
高等学校（東京都立戸山高等学校、千葉県立船橋高等学校、早稲田大学高等学院他）
関連企業（NPG ネイチャーアジア・パシフィック、株式会社タイロス他）

（4）ウェブサイト、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合の会員および一般市民を対象に、ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連するニュース、国内外の学会・シンポジウム・研究集会・一般公開イベントや求人・公募等の情報を配信する。メールニュースの内容を一層充実させ、年間 30 本程度配信するほか、ウェブサイトを刷新して、会員および一般市民が地球惑星科学関連情報にアクセスしやすい環境を提供する。

（5）連合大会における「学生優秀発表」の表彰

連合大会における学生優秀発表賞の表彰をセクション単位で実施する。2015 年大会では、宇宙惑星科学、大気水圏科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学の全 5 セクションが実施を予定している。学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、増強された WEB システムを利用して、学生優秀発表表彰制度の安定的な運営をめざす。

３．国および社会一般からの諸要請に対応した地球惑星科学コミュニティーにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに、日本学術会議を含む国および社会一般への諸要請への対応に関わる要請に対応するために、以下の活動を行う。

（1）学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学および関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に２回開催して、地球惑星科学コミュニティーの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行う。連合理事会からの諮問、および学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行う。

第 12 回学協会長会議

期日：2015 年 5 月 27 日（水）13：00～14：00

場所：幕張メッセ国際会議場

第 13 回学協会長会議

期日：2015 年 10 月（予定）

場所：東京大学 （東京都文京区）（予定）

（2）地球惑星科学コミュニティーの意見集約

国および社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティーの意見集約と、コミュニティーへの情報伝達を行う。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティーへの周知をサポートする。

４．地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表して、地球惑星科学の国際的な発展に寄与することを目的に、地球惑星科学に関する国際的な研究協力と交流活動の推進を図る。

（１）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携および協力

ヨーロッパの EGU、米国の AGU、ならびにアジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力し、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの推進等を行う。

また、7 月末に日本で開催される国際会議 XIX INQUA Congress（国際第四紀学連合第 19 回大会）への活動支援を行う。

開催日	開催場所	出展大会名
2015 年 4 月 12-17 日	ウィーン、オーストリア	EGU General Assembly 2015
2015 年 7 月 27 日-8 月 2 日	名古屋、日本	XIX INQUA Congress
2015 年 8 月 2-7 日	シンガポール	AOGS Annual Meeting
2015 年 12 月 14 日-18 日	アメリカ、 サンフランシスコ	AGU Fall Meeting

（２）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習を促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学（地学・地理）オリンピックの日本大会を連合の共催事業として行うほか、外国開催に関わる支援を行う。

第 12 回国際地理オリンピック
期日：2015 年 8 月 11 日～17 日
場所：ロシア

第 9 回国際地学オリンピック
期日：2015 年 9 月 13 日～20 日
場所：ブラジル

※第 10 回国際地学オリンピック（日本大会）の開催準備
期日：2016 年 8 月（予定）
場所：日本・三重県

５．地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の研究成果を統合的な形で社会へ還元し、科学的提言を発信する。

（１）複合的自然災害への対応と科学的提言の発信

地球上で起こる自然災害事象の複合化に備え、地球惑星科学の総合的、かつ蓄積された研究成果を社

会へ還元することを目的として、風水害、地震、火山、津波などの自然災害などの統合的な対策にむけた科学的提言を行う。

（2）複合的自然災害リテラシーの普及

複合的自然災害に対して、国民の基礎知識を高め、突発的災害によるリスクを最小化することを目指し、自然災害に関する大量の情報の中から必要なものを探し、情報を加工して意思決定するための基礎的な知識や技能（複合的自然災害リテラシー）の普及を支援するための活動を行う。

６．日本地球惑星科学連合ユニオンおよびセクション・サイエンスボード、委員会活動

広く国内外の地球惑星科学関連分野の研究者を対象に、地球惑星科学の推進と学術の推進振興をはかることを目的として、ユニオンサイエンスボードおよびセクション・サイエンスボード、並びに各委員会の活動を推進する。

（1）ユニオンサイエンスボードの活動

現在の５つの分野別セクション（宇宙惑星科学、大気水圏科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学）に加え、それらを統一するユニオンサイエンスボードにより、各々の分野の活動に加えて地球惑星科学全体を統合した活動を進める。

■宇宙惑星科学セクション

・宇宙惑星科学セクションでは、当該分野の研究の長期的なビジョンと日本の果たすべき役割について、学術会議のロードマップ、JAXA の宇宙科学ロードマップを鑑みて議論を行い、関連諸学会と協力してまとめる。

・連合大会において、宇宙惑星科学セクションは半数近くが国際セッションである。今後もセッションの国際化は強化する方向で努力を続ける。2015 年大会では、「International Collaboration in Space and Planetary Sciences: 宇宙惑星科学における国際協力」というセクションの基幹と位置づけたセッションを開催する。数名の招待講演者に旅費支給を行う予定である。

・連合大会において、昨年に引き続き、学生優秀発表を選考して表彰する。連合の新ジャーナル PEPS 誌、および宇宙惑星科学分野もこれまで深く関与してきた EPS 誌を支援する。連合の顕彰、主催講演会などに候補者を推薦する。

・連合大会期間中にセクションボード会議を行い、課題を遂行するため、関連学会の秋季講演会などの機会を利用して、会議を行う。

■大気水圏科学セクション

・連合大会において国際セッションに出席する海外研究者に旅費・参加費を支給しセッションを支援する。
・連合大会時にセクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催する。
・大気水圏科学分野に関係する研究集会にセクションとして共催または協賛し開催を援助する。

■地球人間圏科学セクション

1）連合大会における主な活動

・セクションボードミーティングを開催する。

・U-05「Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究」を他セクションと共同で開催する。

・学生優秀発表賞の選考と表彰を行う

2）地球環境問題、大規模災害、フューチャー・アース構想への対応(シンポジウム、提案、アウトリーチ、論文・報告執筆など)

3）日本学術会議地球惑星科学委員会活動との連携(シンポジウム、ロードマップ、大型研究計画など)

4）ジオユニオン活動との連携(IGU 大会、 INQUA 大会など)

■固体地球科学セクション

・連合大会時にセクションボードメンバーを招集しセクションボードミーティングを開催する。

・学生発表賞の選考と表彰：選考委員を 1 名から 2 名に増やし、選考方法を充実させる。

・セクションの活動を活性化するために、セクションボードに新たなメンバーを迎え充実させる。

・ホームページをさらに充実させる。

・セクションの内部構造を構築するために、新たなフォーカスグループの創設を目指す。このフォーカスグループが継続的に連合大会で国際セッションを提案し､海外の組織と連携した国際会議の共催を支援する。

・国際セッションのコンビーナーを中心に、内部組織としてのフォーカスグループの創設を支援する。

・国際セッションの支援を通して、2016 年、2017 年の AGU などとの共催セッションの継続的な提案を可能にする。

・このセクションの褒賞制度を充実させるために､連合の顕彰委員会と緊密に連携して新たな褒賞制度を検討する。

■地球生命科学セクション

・EGU2015 の連合共同開催セッションの日本側のコンビーナー代表の研究者を EGU に派遣する（4 月)。

・2015 年連合大会地球生命科学関連セッション（国際セッション含む）を開催する（5 月)。

・EGU、AGU、AOGS Biogeosciences Section 等との更なる連携を模索する（海外からの招聘あるいは派遣事業を含む)。

・地球生命科学分野の長期ビジョン策定に向けた議論を開始する。

・PEPS 誌への優れた論文の投稿呼びかけと成長戦略の議論共有を行う。

（2）各種委員会活動

各委員会では年間を通じて委員会を随時開催するとともに、担当理事を通じて理事会への活動報告を行い、意志疎通を強める。特に今年度は以下の委員会活動を推進する。

■総務委員会

公益社団法人の円滑な運営と体制強化のための、諸規則の整備をはかる。今年度実施される代議員及びセクションプレジデント選挙に向けた準備を行う。連合の代議員構成のありかたについて、ワーキング

グループで継続審議する。

■財務委員会

連合の運営基盤の強化のために、支出の効率化など中長期的に学会運営に関して経理面の課題と対策を検討する。

■広報普及委員会

・2015 年連合大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」、高校生・学部生向け企画「大学生・大学院生に地球惑星科学について聞いてみよう」を開催予定
・「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信予定
・2015 年 7 月頃に広報普及委員会開催予定
・2015 年 11 月頃に「日本地球惑星科学連合 2015 年秋の公開講演会」を開催予定、映像を記録して動画配信予定
・ニュースレター誌 JGL を年間 4 号発行予定
・メールニュース定期号を年間 12 号、臨時号を年間約 10 号程度配信予定
・ウェブサイトを活用した広報・普及事業（公開講演会等の動画配信を含む）を行う予定
・英語版ウェブサイトの充実
・2015 年度フェロー受賞者の紹介（JGL に掲載予定）

■環境災害対応委員会

環境・災害問題に関する重要課題を調査し、大規模災害発生時の連合の緊急対応方策及び各学協会の連携方法を確立すると共に、連合大会においてセッションを開催する。

■男女共同参画委員会

2015 年 5 月大会期間中に委員会を開催するとともに、キャリア支援委員会と連携してパブリックセッション「研究者の多様なキャリア形成を考える」を開催し、キャリア支援ブースを展開する。男女共同参画学協会連絡会にて、「若手支援」ワーキンググループ（WG）の主活動学会となることが第 13 期第 1 回の連絡会運営委員会（2015 年 1 月）にて承認された。今後は他の学協会の参加も募りつつ、同 WG のリード役として活動する。2015 年 8 月に予定されている国立女性教育会館/JST 事業「女子中高生夏の学校」にも企画段階から参加し、女子中高生への理系教育およびキャリア支援に協力する。2016 年 1 月にはキャリア支援委員会と連携して、第 6 回キャリアパスアンケートを実施する。

■キャリア支援委員会

・キャリアパスアンケートの実施（1 月～5 月）、結果速報の配布（連合大会時）
・2015 年連合大会でのパブリックセッションまたは集会「研究者の多様なキャリア形成を考える」の開催
・2015 年連合大会でのキャリアパス支援ブースの運営
・2015 年連合大会での保育室の運営

・キャリアパスアンケート解析、ウェブ等での結果報告（通年）
・男女共同参画学協会連絡会対応　若手研究者育成 WG 活動（通年）
・女子中高生夏の学校への参加（８月、実行委員、ポスター発表による JpGU の宣伝など）
・秋または冬頃にキャリア関係シンポ（10 月～12 月　予定）
・委員会ウェブの整備（通年）

■教育検討委員会
・次期学習指導要領改訂に向けて中央教育審議会の作業が始まったことに関連し、それに対する教育課程小委員会からのカリキュラム案作成及び教員養成等小委員会からの教員の研修や養成のあり方について意見や提言が出せるように準備する。
・Future Earth や ESD(Education for Sustainable Development)において地球惑星科学がリーダーシップを取れるような体制作りをする。その一環として 2015 年連合大会において、パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」を開催する。
・連合での新規事業（教員免許状更新講習の開設・実施）に向け、神奈川県立生命の星・地球博物館等と連絡を取り合いながら開設・実施を行えるように活動する。
・地学オリンピック、地理オリンピックへの協力を引き続き行う。
高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習の促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学（地学・地理）オリンピックの日本大会を連合の共催事業として行うほか、外国開催に関わる支援を行う。また、第 10 回国際地学オリンピック日本大会の開催準備のため支援を行う。

第 9 回国際地学オリンピック
期日：2015 年 9 月 13 日～20 日
場所：ブラジル／ポソス・デ・カルダス
（国内選抜は 12 月 21 日（第 1 次選抜）、3 月 15 日～17 日（第 2 次選抜）に行われた。）

第 12 回国際地理オリンピック
期日：2015 年 8 月 10 日～17 日
場所：ロシア／モスクワ近郊トヴェリ
（国内選抜は 1 月 10 日（第 1 次選抜）、2 月 22 日（第 2 次選抜）、3 月 15 日（第 3 次選抜）に行われた。）

第 10 回国際地学オリンピック
期日：2016 年 8 月（予定）
場所：日本・三重県

・理数系学会教育問題連絡会へ引き続き参加し、理科教育の改善に向けた対応に努める。この一環として 11 月に、「理数系教育の充実に関する」（仮称）シンポジウムを予定している。
・地球惑星科学教育が十分に行われていない地域の学校・教員への支援を行う。

・日本学術会議と連携し、高校・大学・大学院教育に関わる諸作業を平成 26 年度と同様に継続して行う。

■情報システム委員会

・My JpGU の改良・連合大会 Web システム改良などを通じて、会員サービス、会員間のコミュニケーションを向上することによる連合活動発展を支援する。
・CODATA-ICSTI データサイテーション国際タスクグループが表明しているデータサイテーション・リージョナルワークショップの開催支援を行う（あるいは共催）。国内で科学データの共有・オープンデータについて先進的に取り組む地球惑星科学分野が同会議の開催においても重要な役割を果たし、我が国の当該活動を主導することを目指す。
・上記活動を討議、必要な意思決定を行うために、適宜、委員会会合を開催する。

■ジャーナル企画経営委員会

・ジャーナルの中長期経営戦略（企画、財政、方針など）及び他誌との協調・発展について、随時委員会を開催して検討する。また、事業の中間評価実施年度への対応についても、検討する。

■ジャーナル編集委員会

・編集長会議と全体編集会議を開催し、論文投稿及び引用を促進するための施策、編集方針や問題点の解決について検討する。
・編集委員の任期更新及び編集委員の補強についても検討し、インパクトファクターを取得するためのトムソン・ロイター（WOS）への申請手続きを行う。

■大会運営委員会

・連合大会の参加者増を目指し、満足度の高いプログラムや企画の充実にむけた方策を企画検討する。

■グローバル戦略委員会

・委員会　年 6 回開催（1 回は連合大会中）
国際化推進の為、例年年 2 回程度だったが、今年度は 2 か月に 1 回開催
・EGU・AOGS・AGU 等の連携海外組織の大会にブース出展をし、連合、ジャーナル、加盟学協会の活動紹介をする
・連合の HP の充実の為に Native にチェックを依頼する。またパブリックアナウンスメントがある場合、翻訳を依頼する

■顕彰委員会

・日本地球惑星科学連合の顕彰活動に関連する事案を検討し、顕彰制度の規則などの設計ならびに運営に関する議論を行い、理事会へ答申する。
・顕彰委員会内に設けた学生優秀発表賞小委員会により、2015 年連合大会における学生優秀発表賞制度の運営を行う。

■フェロー審査委員会

・推薦された候補者に対して審査を行い、フェロー称号授与の可否を会長に答申する。

■地球惑星科学振興西田賞審査委員会

・自薦もしくは正会員からの他薦に基づく候補者を審査し、会長に西田賞授与の可否を答申する。

■25 周年記念事業実行委員会

・2015 年連合大会において、25 周年記念事業シンポジウム「Geoscience Ahead」を開催する。